

平成 24 年度 東北農業研究センター年報

Annual Report
of
NARO Tohoku Agricultural Research Center
2012

平成25年10月



独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構

東北農業研究センター

(岩手県盛岡市下厨川)

* 農研機構は、独立行政法人農業・食品産業技術総合
研究機構のコミュニケーションネーム（通称）です。
* 本誌から転載・複製する場合は 当センターの許可を
得てください。

平成24年度 東北農業研究センター年報

目 次

I 総 説	1
1. 沿革	1
2. 機構	2
3. 平成24年度における東北農業研究センターの主要な取り組み	3
4. 研究業務の概要	4
 II 研究情報活動	13
1. 研究成果の発表（原著論文・学会発表等・著書等）	13
2. 特許・品種登録等	74
1) 特許・実用新案の出願および登録	74
2) 種苗法による品種登録	76
3. 育成品種、遺伝資源の受入・移管・増殖・保存数	77
1) 育成品種（平成24年度出願）	77
2) 育成品種一覧（平成25年3月現在）	78
3) 作物遺伝資源・作物品種の受入・移管・増殖・配布・保存数	86
4. 広報活動	88
1) 所刊行物	88
2) 視察者・見学者の受入（一般公開は除く）	89
3) 催事（一般公開、イベント、体験学習等）および協力	89
4) シンポジウム・セミナー（主催または共催）	94
5. 図書資料収集・文献提供等	95
 III 連携・研修・技術協力	97
1. 産学官の連携・協力	97
1) 産学官連携支援活動	97
2) 行政との連携・協力	97
3) 大学との連携・協力	98
4) 共同研究・協定研究等の実施状況	98
5) 依頼による分析・同定の実施状況	99
6) 開放型研究施設の利用状況	99

2. 研究者の受入れ等	100
1) 交流	100
2) 留学	100
3) 研修・講習等	100
4) 外部研究者	102
5) その他	102
3. 研究者の派遣等	103
1) 交流	103
2) 留学	103
3) その他	103
4. 技術協力・指導	104
1) 研修会等への講師派遣	104
2) 海外出張	106
3) 講習会等の開催	106
5. 国際会議・研究集会（参加）	107
 IV 諸会議一覧	 109
 V 表彰・学会賞等	 115
 VI 各種委員会	 117
 VII 平成24年半旬別気象表（平成24年 1～12月）	 121
 VIII 東北農業研究センターの所在地等	 129

I 総 説

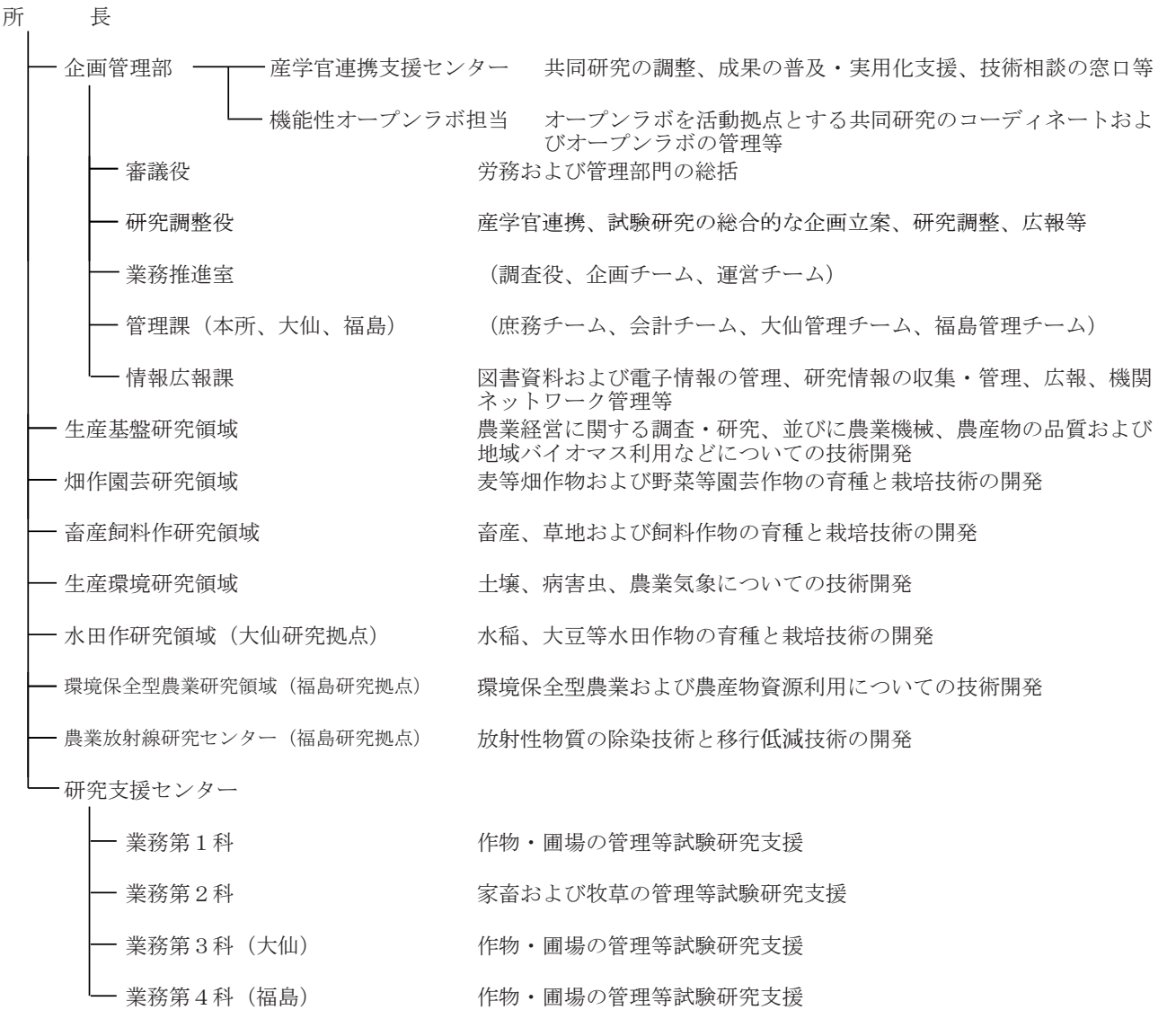
I 総説

1. 沿革

昭和25年 4 月	東北農業試験場は、現在地の岩手県盛岡市下厨川字赤平の、岩手種畜牧場厨川分厩跡（旧岩手種馬所、明治40年創設）に設立された。これは、当時全国的に実施された農業関係試験研究機関の整備総合計画の一環として、3支場・1支所・3試験地（農事試験場東北支場、同三本木原営農支場、園芸試験場東北支場、開拓研究所、農事試験場東北支場刈和野試験地、同東北支場盛岡試験地、同三本木原営農支場厨川試験地）を統合して、栽培第一部、栽培第二部、刈和野試験地、園芸部、畜産部、農業経営部、土地利用部の組織からなる国立の地域農業試験場の一つとして発足したものである。 設立後の主な変遷は次の通りである。
昭和26年 4 月	岩沼、盛岡、大館の各農業改良実験所をそれぞれ関係部門へ編入した。
昭和28年 3 月	大館試験地を廃止し、刈和野試験地に編入した。
昭和32年 5 月	技術連絡室（連絡調整、資料研究の2班）を新設し、土地利用部を廃止した。
昭和36年12月	園芸部が分離し、園芸試験場盛岡支場となる。
昭和38年 4 月	農業技術部を新設（6研究室）した。
昭和42年 6 月	環境部（5研究室）を新設した。
昭和43年 4 月	技術連絡室を企画連絡室と改組した。
昭和46年 4 月	草地部を新設（2研究室）した。
昭和48年 4 月	次長を新設した。
昭和58年12月	蚕糸試験場東北支所を編入し、畑地利用部（5研究室）を新設した。
昭和60年 4 月	企画連絡室にヤマセ対策官を新設した。
昭和63年10月	食品総合研究所利用部園芸素材研究室を統合して、畑地利用部流通利用研究室を新設した。また地域農業試験場の組織再編が行われ、当場の研究体制は、企画連絡室（企画科、連絡科、1研究技術情報官、情報資料課、3総合研究チーム、3業務科）、地域基盤研究部（6研究室）、農村計画部（7研究室）、生産工学部（3研究室）、作物開発部（6研究室）、水田利用部（6研究室、1科）、畑地利用部（5研究室）、畜産部（4研究室）、草地部（4研究室）となった。
平成 3 年10月	生産工学部を廃止し、企画連絡室に研究技術情報科を新設した。
平成 5 年10月	農業生物資源研究所遺伝資源第二部植物栄養体保存研究チームを統合して、作物開発部に遺伝資源利用研究室を新設した。平成 8 年10月組織再編を行い、農村計画部を改組して総合研究部を新設し、また作物開発部遺伝資源利用研究室を改組して畑地利用部畑作物栽培生理研究室を新設した。
平成13年 4 月	農業研究センター、畜産試験場、草地試験場、果樹試験場、野菜・茶業試験場、地域農業試験場および家畜衛生試験場の業務を継承する独立行政法人農業技術研究機構が設立された。 独立行政法人農業技術研究機構内に、東北農業試験場と野菜・茶業試験場（盛岡）の業務を継承する機関として東北農業研究センターが設立された。 これに伴い、畜産部と草地部の統合、野菜花き部の新設、連携研究チームの新設、企画調整部および作物機能開発部が設置された。
平成15年 4 月	企画調整部の研究企画科、研究交流科を廃止し、研究調整官、および連絡調整室に改組した。
平成15年10月	農業技術研究機構は生物系特定産業技術研究推進機構と統合し、農業・生物系特定産業技術研究機構となった。
平成18年 4 月	農業・生物系特定産業技術研究機構は食品総合研究所、農村工学研究所と統合し、農業・

- 食品産業技術総合研究機構となった。組織は、研究部・研究室制からチーム制へ移行。企画管理部、研究管理監、14のチーム、8 のサブチーム、4 名の特命チーム員および研究支援センターからなる。
- 平成19年 4 月研究調整役を長とする産学官連携支援センターを設置した。
- 平成20年 4 月病害抵抗性研究東北サブチームを大仙研究拠点に設置、サブチームの数が 9 となる。
- 平成23年 4 月組織は、チーム制からプログラム・プロジェクト制へ移行。企画管理部、6 の研究領域および研究支援センターからなる。
- 平成24年 4 月福島研究拠点に農業放射線研究センターを新設した。

2. 機 構



3. 平成 24 年度における東北農業研究センターの主要な取り組み

1) 研究業務の推進

平成 24 年度は、第 3 期中期目標期間の 2 年目に当たり、中期計画に沿った研究推進を図り、後述の研究業務の概要に示した内容で実施した。そして、研究成果情報 25 課題（うち普及成果 2 課題）のほか、多くの論文、品種、特許等の研究成果を得た。

東日本大震災に対応した研究課題については中期計画の中で、中課題「高濃度汚染土壌等の除染技術の開発と農地土壌からの放射性物質の流出実態の解明」および「農作物等における放射性物質の移行動態の解明と移行制御技術の開発」として位置づけ、それぞれに交付金や農林水産省委託プロジェクトなどで個別課題を実施した。

2) 地域・行政との研究連携・協力

東北農政局主催の「東北地域研究・普及連絡会議」（24 年 10 月、宮城農園研ほか）では、国の施策で対応すべき技術的課題候補、農業新技術 2013 候補の選定を行ったほか、農林水産省委託プロジェクトの概要説明や先端技術展開事業、新技術導入広域推進事業についての説明を受けた。また、先端技術展開事業宮城県版の現地実証圃場を視察し、同事業の内容と進捗について説明を受けた。

東北農業試験研究推進会議における推進部会は、今年度から稲、畑作物、農業生産基盤、生産環境、畜産飼料作、野菜花き、果樹の 7 部会に分かれ、夏期研究会（24 年 7～10 月）、推進部会（25 年 1～2 月）等を実施した。推進会議「研究戦略会議」（24 年 10 月）では、東北農業に係る今後の技術開発の方向をとりまとめ、競争的資金や共同研究の課題となりうる研究テーマについて議論し、共同・連携方策についても検討した。また、国の施策で対応すべき技術的課題候補、農業新技術 2013 候補の検討も行った。推進会議「本会議」（25 年 2 月）では、重点検討事項として「東北農研および東北各県試験研究機関が重点的に取り組むべき研究・技術開発とその推進方策」を検討した。

3) 産学官連携のための活動

いわて産学連携推進協議会の主催するリエゾン・I マッチングフェア 2012（11 月）に参加し、研究機関のシーズと企業のニーズのマッチングを目的に 5 課題を出展した。出展団体数は 11、参加者数は 111 名であった。また、東北地域農林水産・食品ハイテク研究会の中で、農林水産省等の競争的資金を活用した産学官連携共同研究の課題化推進を目的とした産学官連携共同研究検討会議が 3 回開催され、積極的な参加を促した。

他機関との研究連携として、24 年度は、継続を含めて共同研究を 36 件、協定研究を 43 件実施した。大学との連携については、岩手大学との間で「連携大学院協定」（18 年 4 月）を締結しており、24 年度は、当所職員 9 名が客員教授として専門的立場から学生に指導助言を行った。

4) 研究成果の広報・普及

「平成 24 年度東北地域マッチングフォーラム」（11 月、仙台市）は、「震災からの復興、さらにその先を目指して」をテーマに、生産者、農業団体、各県の行政・普及・研究機関などから 124 名の参加者を集めて開催された。また、第 55 回東北農業試験研究発表会（8 月、福島市）では、東北地域内の農業関係試験研究機関から 108 課題の研究発表が行われ、研究・普及関係者等 344 名が参加した。一方、農研機構水田農業フォーラム（8 月、青森市）として「東北・北海道地域における低コスト稲作を考えるー北国の大規模水田農業を支える水稲乾田直播ー」を開催し、241 名の参加者を得た。

一般公開については、本所の菜の花公開（5 月）と一般公開（9 月）、大仙研究拠点一般公開（9 月）の 3 回開催し、所の研究成果を積極的にアピールすることに努めた。また、科学技術振興機構が主催するサマー・サイエンスキャンプ 2012「地域に適した小麦の開発技術を学び、作物の機能性を調べてみよう」を全国から 10 名の高校生の参加を得て実施した（8 月）。その他、小中学生の自然観察や体験学習、大学生の施設見学などを積極的に受け入れ、科学技術離れ対策に協力した。

外部への広報活動としては、ベーカリー素材

EXPO2012（5 月、東京）、平成 24 年度大仙市秋の稔りフェア（10 月、大仙市）、第 135 回秋田県種苗交換会（10・11 月）、第 7 回ビジネスマッチ東北 2012 秋（11 月、仙台市）、食のブランド・ニッポン 2012（11 月、東京）、アグリビジネス創出フェア 2012（11 月、東京）、東北地域アグリビジネス創出フェア 2012（12 月、仙台市）、農業フロンティア 2012（12 月、東京）、第 20 回加工・業務用野菜産地と実需者との交流会（25 年 2 月、東京）等への出展、ならびに岩手県工業技術センター（10 月）、第 7 回福島県農業総合センターまつり（10 月）等の一般公開への出展・協力を行った。

報道発表は、「プラウ耕・グレーンドリル播種体系の乾田直播栽培技術マニュアル Ver. 2」（4 月）、「牧草の新品種、フェストロリウム「東北 1 号」の最適な刈取り体系を考案一耕作放棄水田でも栽培可能一」（7 月）、「電磁探査法による海水浸水農地の土壌電気伝導度測定一圃場の塩分濃度把握の迅速化に貢献一」（7 月）、「寒地向けナタネ新品種「キタノキラメキ」一寒地において越冬性がよく、晩播でも収量が安定一」（10 月）、「ニンニクの周年供給のための収穫後処理マニュアル」（25 年 3 月）等を行った。

また、当所が開発した新技術について、現地での技術指導等を通じて広範な普及を図る「出前技術指導制度」を推進した。24 年度は水稻品種「萌えみのり」の栽培技術、簡易空撮気球の実演・調査、飼料米専用品種の栽培技術、稲わら収集・給与技術、水稻鉄コーティング直播栽培等について、17 件の現地技術指導、実演、技術相談、講演会などを実施した。

5) 所内における研究活性化等

試験研究や組織運営などの業務運営について自ら点検を行い、業務運営の改善に資することを目的に、「運営委員会」（24 年 10 月）を開催した。運営委員は生産者、地方自治体関係者、学識経験者、報道機関関係者等の計 10 名である。

所が主催する研修としては、動物実験に関する教育訓練（25 年 3 月）として「飼い主とストレス」と題する講演と「飼養標準手順書」の説明を行った。また、各研究分野では各種発表等の予行演習会や独自開催のセミナーが随時行われた。東北農

業研究センターセミナーは、講師を外部から招くなどして 10 回開催した。

所内研究活性化経費による試験研究課題は 18 課題が採択され、それらの成果は 25 年 3 月開催の報告会で報告された。

4. 研究業務の概要

生産基盤研究領域

生産基盤研究領域は、農業経営に関する調査・研究を行う農業経営グループ、農業機械や作業システム、地域バイオマスに関する技術開発を行う農業機械グループ、作物生理や品質・機能性に関する研究や技術開発を行う生理機能グループで構成されている。

農業経営グループでは、主に新技術の経営的評価、ビジネスモデルの策定、食農連携、地域バイオマスの利用などの研究課題を担当している。新技術の経営的評価では、寒冷地における水田輪作に飼料用稲を新たに導入または拡大するための課題を明らかにするために、対象地域について、WCS、繁殖牛、食用米の各部門における生産性とコスト分析を行った。また、大規模なリンゴ作経営における摘花剤の使用など省力技術を評価するためのデータ収集を実施した。さらに、大型機械を用いた 2 年 3 作体系を導入している被災地域の大規模水田農業経営を調査し、とくに水稻直播への関心が高いことを明らかにした。

ビジネスモデルの策定では、利根川モデルをいわて中央農協と㈱フジの取引を対象に適用し、プロセスや収益構造の概要を明らかにした。リンゴ作経営のビジネスモデルでは、日本を代表するリンゴ生産 13.5ha 規模の大規模リンゴ作経営を対象に、ビジネスを再編成することにより、他の規模階層よりも高い生産性・収益性を実現していることを示し、研究成果情報とした。また、新たな贈答マーケティングとしておすそわけ袋を考案するとともに顧客の評価を明らかにし、顧客拡大プロセスについて研究成果情報とした。

食農連携については、産地提案型の流通は、産地側の生産体制、生産活動に即したサプライチェーンマネジメント（SCM）によって行われ、

計画生産、高品質・高価格販売によって高付加価値を実現し、外部の高度な物流サービスの利用と付加価値の産地側への分配に關与することを可能にしていることを解明した。

地域バイオマスの利用については、国産ナタネの現状と展開方向をとりまとめ、地場搾油の拡大について研究成果情報とした。また、ナタネ栽培によるエネルギー収支を考慮すれば、自己保全農地の利用による耕作放棄地拡大の抑制が最も効果的であり、10年以上放棄された農地の再生は適切ではないことを提示した。

農業機械グループは、主に高生産性水田輪作システムの確立と地域資源を活用したバイオマス循環利用システムの開発に取り組んでいる。高生産性水田輪作システムについては、津波被災地域を対象にプラウ耕・グレーンドリル播種体系を基軸とした稲－麦－大豆2年3作水田輪作体系を現地の大区画水田に導入し、省力機械化技術と安定多収技術の現地実証を行った。プラウ耕・グレーンドリル播種方式による水稻乾田直播の労働時間は約6時間で水稻収量は約500kg/10aであった。また、大潟村で稲－大豆の1年1作水田輪作を導入した結果、プラウ耕・グレーンドリル播種方式による水稻乾田直播での1粒点播と深水管理により一穂粒数85粒の大きな穂となったが、セジロウカの害により収量は600kg/10aにとどまった。

土壌水分制御技術については、乾田直播の適用可能な水田基盤条件を作土層および心土層の透水性から分類した。止水層なし型乾田直播を行うためには、地表面の透水係数を低下させることが効果的であり、地下止水型においては暗渠を効果的に活用することが必要であると指摘した。営農排水技術については、現地で施工可能な暗渠施工器を開発し、その性能を明らかにした。

二毛作限界地域である北東北地域での飼料用稲－飼料用麦二毛作技術については、大麦全刈り収量730kg/10aであったが、ロールへの土壌混入の問題が発生し対策の必要を指摘した。その他、GPSレベラー、チゼルプラウシーダによる狭畦密植栽培、乾田直播における雑草防除、タマネギ機械化体系について検討した。

地域資源を活用したバイオマス循環利用システムについては、農業残渣などの未利用有機質資源の熱エネルギー変換・利用技術の開発を行い、稲

わら、ジャイアントミスカンサスなどは950～1000℃程度では熔融せず、直接燃焼用のバイオマスとしては比較的有望であることがわかった。また、リンゴ剪定枝の固形燃料化については、粉碎前に乾燥する方が省エネルギーにつながることで、剪定枝の灰の熔融温度は1100℃以上と高温であるが、通風条件によってはその温度に達する可能性があり、燃焼条件に留意する必要があることを明らかにした。

また、ナタネ油のSVO仕様に改造したディーゼルエンジンの発電機は、適切な整備によりエンジンオイル成分に異常は生じず、1000時間程度の運転では致命的なトラブルは生じないこと、果樹栽培地域ではバイオマス燃料として剪定枝の利用が期待できること、廃菌床の再生燃料化はバイオマス燃料の消費が大きいと、バイオマス燃料の輸送による環境影響を抑える必要があることを明らかにした。

生理機能グループの研究内容は、作物生理に関する研究と機能性評価に関する研究に分けられる。作物生理に関する研究では、機能性成分であるビタミンEの同族体であるトコトリエノール(T3)とトコフェノール(Toc)で異なる蓄積機構のあることを明らかにした。また、HGGT遺伝子はT3の生産には必要であるが、反応の中間産物であるHGA、FPP、GGPPが合成反応の律速に關係していることを解明した。

アミロイドベータペプチドによる脳細胞の障害を防ぐため、東北地域で栽培されている作物に神経細胞を保護する成分がないかを検討した。その結果、大豆、キビ、リンドウ、ヘラオオバコに細胞毒性を緩和する効果を認め、特に熱水抽出物に効果があることを明らかにした。

気象変動に対する生育・品質・収量の安定化を目的とした植物の栄養素吸収と水吸収の相互作用の解明では、これまで、アクアポリンの発現量の日周変動は植物の持つ概日リズムにより制御されと考えられてきたが、地上部からの蒸散要求が水稻の根のアクアポリン発現の日周変動を引き起こすことを明らかにした。また、13℃2週間の根域低温処理は、蒸散を持続的に抑制するとともに、根の成長、葉面積拡大および乾物生産を顕著に減少させ、その程度は低湿度条件でより大きいことを解明した。さらに水稻の幼苗は地上部だけ低温

(10℃) に曝すと光合成機能を完全に喪失し、その後光合成機能の高かった葉が枯れること、またその原因は除草剤作用部位における光合成電子伝達の遮断にあることを解明した。これらの試験結果については、それぞれ研究成果情報としてとりまとめた。

冷害対策技術に資するため、開花期の低温による花粉機能低下メカニズムの解明に着手し、耐冷性極強の品種「はやゆき」を用いて、柱頭上花粉の受精効率に関与すると考えられる花粉発芽率について検討したが、耐冷性 QTL の効果は明らかにできなかった。今後、耐冷性に関与する他の受精構成要素および低温による充実花粉数の減少程度に及ぼす耐冷性 QTL の効果を明らかにすることとした。

機能性評価に関しては、トマトカロテノイド、ハトムギタンパク質、ハウレンソウのカロテノイドについて検討し、トマトカロテノイドは動脈硬化指数の改善等の抗糖尿病作用を有すること、ハウレンソウは寒締め栽培によりショ糖の増加の他に、ルテイン、ORAC 値など機能性成分・機能性が向上し硝酸等有害成分は増加しないことを解明した。また、ハトムギについては、ハトムギ種子由来のタンパク濃縮物はレジスタントプロテイン含量が高く、主要タンパクはプロテインであること、タンパク濃縮物を摂取する糖尿病マウスは、種子を摂取するマウスと比較して糞への胆汁酸、コレステロールの排せつが多く、血漿コレステロールの低下等脂質代謝が一層改善されるとともに、血漿および肝臓の脂質過酸化生成が抑制されることを明らかにし、研究成果情報としてとりまとめた。

畑作園芸研究領域

畑作園芸研究領域は、畑作物育種グループと野菜花きグループで構成されている。

畑作物育種グループでは、麦類（大麦、小麦）並びに特産作物（ナタネ、ハトムギ、ソバ）の新品種育成と育種法の開発を行っている。小麦品種の育成では、育成した超強力小麦「銀河のちから」と菓子用小麦「ゆきはるか」の普及のため現地栽培試験と実需による加工適性評価を実施し良好な評価を得た。「銀河のちから」についてはペー

カリー素材 EXPO2012 に出展し製パン業界にもアピールした。「ゆきはるか」については葉色を追肥実施の指標とするため、葉色と蛋白含量や収量との関係を明らかにした。麵用系統「東北 228 号」については品種登録に向けて栽培特性、品質特性を調査した。Gli-D1M 遺伝子を有するパン・中華めん用の半数体倍加（DH）系統およびクラブ小麦を母本とする菓子用系統の有望系統を選抜した。高製粉性、良色相の選抜マーカー開発では、これまでに見出したいくつかの QTL の効果を「きたほなみ」を片親にした 4 つの DH 集団の解析により確認した。また、極低アミロース形質および甘味種に関する DNA マーカー選抜を行った。赤さび病抵抗性付与については「ネバリゴシ」の赤さび病準同質遺伝子系統間の分離集団から、抵抗性遺伝子を集積した個体を選抜した。また、「ネバリゴシ」と「しゅんよう」の DH 集団の圃場における抵抗性評価を行ってデータを得るとともに、「ネバリゴシ」の成体抵抗性に関与すると考えられた既報の DNA マーカーの利用を検討した。縞萎縮病抵抗性に関しては抵抗性に強く連鎖するマーカーを選定した。

大麦品種の育成では、東北・北陸向け精麦用で麦茶適性もある六条大麦「東北皮 45 号」を開発し、関係各県に新配付した。また、極低ポリフェノール大麦系統として、地方番号候補となる 2 系統を選抜して系統適応性検定試験 2 年目に供試し、新たに選抜した 7 系統を 1 年目に供試した。

ナタネ品種の育成では、無エルシン酸系統「東北 96 号」は、「ななしきぶ」より少収であったが、暖地での現地試験等で成熟期の早さが確認され、暖地向き品種として品種化を進めることとし、「厨系 312」は暖地や温暖地で有望であるため「東北 100 号」とした。

高品質安定多収なソバの品種育成では、基幹品種と早熟系を母材に交配選抜を実施した。生産力検定において系統「04F5」が夏播きで標準品種にやや優るデータが得られ、「東北 2 号」とし、現地試験に供試することとした。また、密播適性があると考えられる「05F6」を「盛系 5」として密播での収量性を検討することとした。自家受粉系統については、M3 世代に至ると同時にポット試験にて M1 世代の再検討を行っている。

ジュズダマ属の遺伝資源収集では、24 点を収集

した。生産力検定に供試した遺伝資源のなかに多収の素材はあったが、晩生であり、大粒形質に依存するものと考えられた。また、「盛系 13」は「はとじろう」、「はときらら」に比し収量は同程度であり、「はときらら」並の 8 日早熟であった。

野菜花きグループでは、野菜の新品種育成と野菜花きの栽培技術開発を行っている。パッシブ制御を活用した低コスト・省エネ型生産技術の開発では、半地下栽培装置を用いてアスパラガスの伏せ込み栽培を行った場合の収穫時期や収量、地温・気温について明らかにし、また、小規模な太陽電池で駆動可能な簡易集熱装置を追加した改良型半地下栽培装置を開発した。アスパラガスの休眠性解明とその制御技術の開発では、全国連絡試験の分担により、低温遭遇と根株生育量・休眠覚醒・萌芽との関係を明らかにした。根菜類の地下水位制御圃場における適応性評価では、FOEAS が施工されたほ場で、23 年度に提示した地下水位制御方法に対するニンジンの適応性を明らかにした。高品質国産ニンニクの周年安定供給を実現する収穫後処理技術の開発では、テンパリング乾燥の夜温設定の影響を明らかにするとともに、低温貯蔵から出庫した後の高温処理について処理時期別に条件を選定した。タマネギの夏どり新作型の開発では適用可能な品種の条件や播種・定植時期、リン酸施肥法について知見を得た。

早生心止まり性育成系統を利用したトマトの高品質生産技術の開発では、有望系統の選抜を進めた。DNA マーカーを利用した黄化葉巻病抵抗性の心止まり性トマト品種開発も進めている。寒冷地の春どりに向く極晩抽性ハクサイ品種の育成では、選抜系統や試交 F1 は、晩抽性、越冬性、結球性が向上しており、既存品種が早期抽だいする無加温作型でほぼ結球した。また、DNA マーカー選抜による極早生ハクサイの晩抽性育種を進めた。寒冷地向け夏秋どりイチゴ系統の開発では、一季成り性イチゴ系統「盛岡 35 号」を「豊雪姫」の名称で品種登録出願した。また、四季成り性遺伝子型と、開花特性や増殖性などの表現形質との関係を明らかにした。夏秋イチゴの安定多収生産技術の開発では、四季成り性イチゴの花成に対する長日処理の効果を解析するとともに、夏秋どり高設栽培における養分吸収特性、萎黄病の発病要因について知見を得た。一季成り性品種の春定植

夏秋栽培についても成立要因検証を進めた。スプレーギクの冬季高品質多収生産技術の開発では、二酸化炭素濃度増加により「セイローザ」の個体光合成速度は増加し、光補償点は低くなることを示し、二酸化炭素施用が寡日照や高栽植密度に伴う切り花品質の低下を軽減する可能性を示した。

畜産飼料作研究領域

畜産飼料作研究領域は寒冷地における飼料作物の栽培、収穫調製および放牧に関する研究を行う飼料グループ、牧草の育種に関する研究を行う牧草育種グループ、牛の飼養および肉質評価に関する研究を行う畜産グループおよび肉用牛の生理と繁殖に関する研究を行う生理繁殖グループで構成されている。

飼料グループは、飼料自給率向上のために、裏作に緑肥作物としてヘアリーベッチを導入すると、飼料用トウモロコシのアーバスキュラー菌根の形成率が向上することを解明した。また、ヘアリーベッチの植生中に飼料用ダイズを不耕起播種することにより、慣行栽培と同等の収量が無農薬で省力的に得られる技術を開発した。さらに、ダイズのロールベールサイレージは、調製時に予乾するとフィトエストロゲンが低下すること、およびその飼料価値は、アルファルファ乾草と同等であることを示した。また、自然草地における放牧は、陰樹の当年生実生数の減少と、陰樹・陽樹の生存率の低下を通じて、2 次林化を防ぐことを明らかにした。

牧草育種グループは、草地の高度利用を促進するために、イネ科牧草の品種開発を行っている。品種開発については、越冬性に優れたイタリアンライグラス「東北 5 号」を新たに育成し、地域適応性試験を開始した。また、ゲノム解析については、属間雑種の後代において、顕著な染色体構造変異が起きることを明らかにした。

畜産グループは自給飼料多給による一層のコスト低減と地域条件を活かした特色ある、高付加価値で高品質な牛肉生産のために、貯蔵中の香りや色調劣化の原因となる脂質酸化は、赤身割合が高い場合において進行が速く、肥育法によって影響されること、また、開発した貯蔵条件を用いることで、TBARS を指標とした貯蔵性評価の迅速化

が可能になることを示した。

生理繁殖グループは、肉用牛の効率的繁殖と飼養のために、GPS 機能を付加した発情検知装置を開発し、発情行動を高精度に検知することを可能とした。さらに、行動監視プログラムにより乗臥許容時刻の検知が可能となった。また、発情後 16 日における 1 回のエストロジェン投与は発情後 18 日のオキシトシン感受性を指標とした子宮機能の賦活化に有効であることを示した。一方、心拍計高周波の牛ストレス・リラックス指標としての有用性を明らかにした。

生産環境研究領域

生産環境研究領域は、病害・虫害に関する技術開発研究を行う病虫害グループ、土壌分析・施肥管理に関する技術開発研究を行う土壌肥料グループ、気象環境に起因する高・低温障害の発生予測や被害回避に関する技術開発研究を行う農業気象グループで構成される。

病虫害グループでは、稲、大豆、野菜の病害および害虫などの研究課題を担当している。稲の病害虫に関しては、現地圃場試験において改良籾殻灰の追肥施用により割れ籾の発生が減少し、カメムシ類による斑点米被害が 3～6 割程度抑制されること、また穂いもちの発生も 3 割程度抑制されることを明らかにした。病害発生予察に関しては、イネいもち病およびイネ紋枯病の早期警戒・栽培管理支援システムの構築と検証を進めた（農業気象グループの項を参照）。斑点米カメムシの広域発生予察に関しては、アカスジカスミカメのフェロモントラップ誘殺数が周囲 300 m 以内の発生源面積と正の相関があるが、アカヒゲホソミドリカスミカメでは相関がないこと等を明らかにした。大豆害虫に関しては、ホソヘリカメムシの土着天敵であるカメムシタマゴトビコバチの発生量に影響する要因として 1km 以内の森林とその距離が大きいこと、大豆の原種とされるツルマメの昆虫相の多様性指数は大豆より高いが、主要種の発生量は大豆の方が上回ることを明らかにした。ウイルス媒介昆虫に関しては、アザミウマ類の有力天敵タイリクヒメハナカメムシの補強資材であるアカメガシワクダアザミウマのハウス内での放飼条件を明らかにするとともに、本種の移動分散性に基

づいた簡易な放飼法および産卵数や放飼虫の雌比を高める増殖法を開発した。果菜類の土壌病害については、転炉スラグによる土壌 pH 矯正がトマトかいよう病等の病原菌の土壌中の生存状況や発病程度に与える影響を解析し、その土壌伝染の重要性は比較的低い可能性があることを明らかにしたほか、非病原性フザリウム属菌株の利用によるメロンつる割病の防除効果の検証に向けて、その nit 変異株を分離し、接種土壌中における密度推移等を明らかにした。

土壌肥料グループでは、大豆や野菜のカドミウム吸収抑制技術などの研究課題を担当している。大豆のカドミウム吸収抑制に関しては、有機質資材施用 2 年目の現地圃場試験により、子実カドミウム濃度は施用 1 年目と同様に目標 pH6.2 の発酵鶏ふん区で比較的低くなること、牛ふん堆肥区と発酵豚ふん区の深さ 0～20cm の交換性カドミウム濃度は発酵鶏ふん区と同等程度であるが、子実カドミウム濃度は発酵鶏ふん区より高い傾向となること、牛ふん堆肥 1t 区と 2t 区の子実カドミウム濃度の差は認められないこと等を明らかにした。また、畑転換 2 年目の現地圃場試験により、全面施用の苦土石灰量の 38%または 50%をうね内に部分施用してダイズを栽培すると、収量および子実カドミウム濃度は全面施用の場合と同等程度となるが、苦土石灰量 50%の場合では 38%と比べて土壌 pH が高く推移するために、子実カドミウム濃度が低減しやすいことを明らかにした。ダイズのカドミウム低吸収性品種・系統と苦土石灰施用を組み合わせた子実カドミウム濃度の低減効果の現地検証に関しては、畑転換 2 年目の現地圃場において、苦土石灰無施用 (pH5.6) の場合、カドミウム低吸収性の 1 品種および 2 系統の子実カドミウム濃度は、東北の作付面積上位の品種と比べて 3～4 割低く、苦土石灰の部分施用により土壌 pH を 6.5 程度に上げれば、そのうち 1 系統の子実カドミウム濃度をその 5 割程度に低減できることを明らかにした。野菜のカドミウム吸収抑制に関しては、ホウレンソウのポット栽培試験において、夏作では地温の低い区ほど葉身・葉柄とも可食部カドミウム濃度が低下するが、地下部での差は明確でないこと、また冬作では収穫前の寒締めによって可食部カドミウム濃度が低下するが、生育期間が長くなると低下割合が小さくな

ることを明らかにした。カドミウム吸収抑制効果が高い無機質資材に関しては、各種の酸性矯正資材による可食部カドミウム濃度の低減効果を検討し、それらに違いは認められないこと、一部の資材では施用1年後には低減効果が低下する可能性があること等を明らかにした。

農業気象グループでは、高・低温障害や病害の発生予測、地球温暖化による作物栽培への影響評価などの研究課題を担当している。水田作物の気象応答、気象災害リスクの評価に関しては、障害型冷害誘導のための水深を深くすることで高温年でも不稔が安定的に発生することを明らかにし、履歴時期の低温による耐冷性低下の品種間差異の検定を可能とした。ダウンスケールアンサンブル気象予測実験データの農業モデル適応技術の開発に関しては、2週間アンサンブル予測実験結果を5kmメッシュにダウンスケールした気象データを適用した葉いもち病発生予測モデルにおいては、アンサンブル平均値を用いるよりも確率情報として示す方が妥当であることを明らかにした。気象予測データ版病害モデルの東北地方以外での適用性の検証に関しては、イネ紋枯病発生予測システムを温暖地、温暖化後に適用できるよう改良し、MIROC-Hモデル(A1Bシナリオ)を用いて日本各地のイネ紋枯病被害度発生変動を10年間平均で評価したところ、全ての地点で紋枯病の増加が予測されたが、地点により増加割合には大きな差があることを明らかにした。このほか水稻の耕種期日、発育指数モデル、およびメッシュ農業気象データから出穂日の平年の分布図を作成するプログラムを作成し、その有効性を検討した。大豆生産に関しては、収量形成における最適温度の存在を確認し、開花期以降の土壤乾燥が寒冷地での温度上昇による増収を打ち消す可能性を示したほか、寒冷地における早播適応性への関与が予想される低温発芽性等について調査・検討を進めた。水田における温室効果ガス排出削減技術に関しては、秋の浅耕が翌夏のメタンガス放出量に及ぼす影響は一意には定められず、各地の圃場および気象条件に大きく関わることを明らかにした。

水田作研究領域

水田作研究領域は、水田作物の栽培と雑草管理

に関する研究を行う水田作グループ、水稻の品種育成とそれに係わる研究を行う稲育種グループ、水田作物の土壤管理と病害防除に関する研究を行う水田環境グループおよび大豆の品種育成とそれに係わる研究を行う大豆育種グループで構成されている。

水田作グループでは、水稻・飼料用米等の低投入・高能率湛水直播栽培技術の開発を目指して、水稻無コーティング種子の代かき同時播種について検討したところ、鎮圧ローラーを装着した場合、代かき2回の散播が苗立率、生育、収量の点で優れていた。また、飼料用米栽培への無コーティング直播の導入可能性を明らかにした。地下水位制御等土壤水分制御技術を活用した持続的生産技術の開発を目指して、地下水位制御システムでの大豆の生産性を検討し、地下水位制御区は無制御区に比べて大豆の精粒重が場内圃場で約1割、現地実証圃で約2割の増収が認められた。省資材・低コストの雑草・病害防除技術と持続的土壤管理技術の開発を目指して、飼料イネ品種由来の漏生イネの発生抑制に効果のある除草剤成分を明らかにし、それら除草剤の効果的な使用方法の知見を得た。

稲育種グループでは、気象変動に対応し、低コスト栽培に適した業務用向け主食用水稻品種、低コスト生産を可能とする米粉パン、米粉麺用等加工向け多収水稻品種、低コスト生産に適し食用品種との識別性を有する多収飼料用米品種および高い消化性を持ち地域の環境条件に対応した稲発酵粗飼料用品種の育成を目指し、直播適性、いもち耐病性、耐冷性の強化を目的とした交配および集団養成と直播適性、いもち耐病性、耐冷性、高温耐性等を備えた系統の選抜を行った。その結果、いもち耐病性を備え直播栽培に適した奥羽407号、米粉用の奥羽405号、飼料用の奥羽409号の品種登録を出願した。また、有望系統として、奥羽糯413号、奥羽416号および奥羽飼414号を得た。さらに、胴割れ率が小さく、東北地域での栽培に適した系統を選抜した。

水田環境グループでは、田畑輪換における持続的生産を目指して、田畑輪換を行っている農家圃場の土壤の実態を調査したところ、牛ふん堆肥2～3t/10aの連用により、大豆作の頻度に関わらず地力増進基本指針の可給態窒素の目標下限値以

上を維持できることを明らかにした。さらに、大豆作で石灰等を施用すれば、土壌の化学性はそれらを施用しない連年水田よりも改善された。また、強粘質グライ土の大潟村の農家圃場において、地下水位制御による効率的な作物への給排水を図るため種子直下にスリットを挿入したところ、地下水位制御とスリット播種の組合せによる大豆の増収効果を認めた。さらに、大潟村の有機栽培農家圃場において、チェーン除草と生育診断に基づく水稻の追肥技術を導入した現地試験を実施し、チェーン除草による雑草抑制効果、追肥技術による増収効果を実証した。いもち病発生を低減させる飼料米栽培法を構築するため、後期追肥による発病抑制効果を検討したところ、後期追肥により使用薬剤成分数を削減できる可能性が示された。また、病害抵抗性の持続的利用法を明らかにするために、量的抵抗性品種において特異的に発現・誘導される遺伝子の抽出を進めた。量的抵抗性保有品種および感受性品種で発生したいもち病菌集団の遺伝子型を比較し、抵抗性による選択圧の有無について検討したところ、2ヶ年の結果から、これらの品種間で発生したいもち病菌集団が受ける選択圧には大きな差がないことが示された。

大豆育種グループでは、気候区分に対応した安定多収・良品質大豆品種の育成を目指し、「リュウホウ」の SMV-C、D・SCN-1 抵抗性および「おおすず」の SMV-C、D・SDV 抵抗性の強化を目的とした選抜試験を行い、各々、「東北 173 号」および「東北 174 号」を新配付とした。また、異なる成熟期における SCN-1 抵抗性系統の開発を目指し、「ワセスズナリ」、「ふくいぶき」等への戻し交配を進め、BC2 世代を得た。さらに、従来育種による有望系統のうち、「東北 164 号」および「東北 166 号」が品種登録出願候補系統として承認され、「東北 168 号」等が継続とされた。一方、新たな草型としての無限伸育型系統の開発を目指し、日米品種間および基幹品種を反復親とする交配組合せによる育成試験を行い、各々、「刈系 875 号」等の有望系統の選抜および BC4F2 世代を得た。寒冷地向け特殊用途品種の育成については、生産力検定試験等を行い、小粒系統「東北 172 号」を継続とした。

環境保全型農業研究領域

環境保全型農業研究領域は、生物機能等を活用した環境保全型生産システムの開発を担当する環境保全グループと、地域農産物資源の利用技術の開発を担当する農産物利用グループで構成されている。

環境保全グループでは、安定多収・高品質を実現し経営的にも持続可能な環境保全型畑作物・野菜生産技術の開発と体系化を行っている。

カバークロップや地域の有機質資材の利用、田畑輪換に関しては、リビングマルチ大豆栽培について、化学肥料・農薬の 50%削減体系を所内試験圃場、および南東北（山形県）の農家圃場で試行し、リビングマルチによる紫斑粒、虫害粒の増加は認められないことを明らかにした。収量はダイズシストセンチュウの発生等により全般に低く、特にリビングマルチ栽培で、減収が顕著だった。温暖化ガス排出の LCA については、リビングマルチ大豆栽培では圃場における炭素固定量が慣行栽培よりも多く、収支として排出量が少ないことがわかった。

定植前施肥に関しては、長ネギ栽培について、市販のリン酸資材を使った定植前リン酸苗施用によって、収量を維持しつつ、圃場に施用する窒素を 30%、リン酸、カリを 65%（化学肥料全体では約 50%）削減できることがわかった。山形県の農家圃場における実証試験でも、定植前リン酸苗施用により、化学肥料の施用量を 50%（窒素、リン酸、カリいずれも 50%）削減した条件で、1 割程度の増収が得られた。

耐病性台木の利用等の耕種的技術の活用に関しては、キュウリの土壌病害であるホモブシス根腐病について、高い耐病性を示す台木品種は、土壌カラムの浅い層（0～10cm）において発病抑制を示し、転炉スラグによる土壌 pH のアルカリ側への矯正を併用すると、効果がより高まることを明らかにした。さらに、潜在的汚染圃場を対象とした圃場診断と、土壌燻蒸よりもコスト・作業負担が低い、転炉スラグによる土壌 pH 改良等の被害緩和手法を組み合わせることで、予防的な総合防除体系を構築し、マニュアル化した。

農産物利用グループでは、東北地域で特徴的なバイオマス量を有する作物残さ等の高付加価値化

をめざした技術開発を行っている。

米ぬかの食用油製造時に排出される廃棄油からのバイオディーゼル燃料製造と高付加価値物質を効率的に生産する技術では、米油脱臭スカム油をBDF化する際にBDFとスクアレンが分画できる可能性を示した。

桑葉の食品利用では、Bacillus属のある種の菌を利用し、桑葉の血糖値上昇抑制成分である1-デオキシノジリマイシン(DNJ)の大量精製法を確立し、N¹⁵ラベル化DNJを10g以上作成した。これにより、動物への給与安全性試験が可能となった。

担子菌等を用いたリグニン生分解技術開発では、スギ材の腐朽処理が可能な褐色腐朽菌KU-41株において、リグニン分解酵素の一種であるラッカーゼ生産株を、褐色腐朽菌として初めて作成した。また早成樹を腐朽し、無気的环境下で多量のエタノールを生産する特殊な性質を持つ白色腐朽菌MG-60株において遺伝子導入系を新たに構築した。この他、トコトリエノール高生産イネの育成を進めた。さらにビタミンEの生合成の解析をすすめ、ビタミンE同族体であるトコトリエノールとトコフェロールでは、異なる蓄積機構によることを明らかにした。

農業放射線研究センター

農業放射線研究センターは、平成23年3月11日の東日本大震災に伴って発生した東京電力福島第一原子力発電所事故によって広範な地域に飛散した放射性物質の農地からの除染と除染廃棄物の減容化、農作物への移行低減技術の確立を担当している。

土壌からの除染に関しては、水による土壌攪拌・除去の技術開発を、比較的大きな面積の水田に対応した技術については農村工学研究所と、また中山間地の小規模水田にも対応可能な技術については農業環境技術研究所と共同で実施し、複数の現地圃場での実証試験を行いつつ、改良を進めている。また、除染に伴い大量に発生する草本系廃棄物の減容化を行うために、中央農業総合研究センター等と共同で、減容化処理設備のパイロットプラントを避難区域内に設置し、細断、乾燥、粉碎、混合、成型の処理により廃棄物をペレットに加工

することで安定的に保管する処理方式を開発することを目的に実証試験を進めている。

農作物への移行低減に関しては、水による土壌攪拌・除去による除染後水田における水稻栽培において、交換性カリウム含量を十分に高めると同時に土壌の肥沃度も維持するために各種資材の効果の検証を行った。また、植物による放射性セシウム吸収能に関して様々な種・品種・系統を用いたスクリーニングをすすめ、いわゆるファイトレメディエーションに適した植物種は見いだせないことを明らかにしたが、種・品種・系統の間にはバラツキもあることが示され、より移行の少ない技術につなげるための検討を進めている。その一方で、植物体内のセシウムの挙動について多数の小麦品種を用いて検定したところ、根から茎葉、茎葉から子実への移行割合には明確な違いが品種間に存在する事が明らかになり、食用部位への放射性セシウム移行を制御している遺伝的因子を探索する意義が認められた。カバークロップを活用することで、客土した除染後圃場の土壌流亡を抑制可能なこと、また土壌の肥沃度を高めるためにも有効であることを示し、現地での普及を進めている。

Ⅱ 研究情報活動

Ⅱ 研究情報活動

1. 研究成果の発表

注. 1) 収録対象は、平成 24 年度に公表したものである。編集に当たっては、平成 24 年 4 月現在の組織構成により配列してある。

2) 各研究領域の成果は、職員が所属する研究領域ごとに記載した。

研究課題の分担等により他の研究領域に属する課題の実施により得られた成果は、本人が所属する研究領域に収録した。

なお、複数の研究領域による成果については、記載されている所内の著者のうち、配列順序が一番前の著者の所属する研究領域に収録した。

3) リストは研究領域ごとに以下の項目で分類し、各項目の中は職員の氏名順（五十音順）、同一職員の中は発表年月（発表または発行、掲載、印刷された年月）順に記載した。

原 著 論 文：原著性の高い学術論文、研究所報告、叢書等

学会発表等：口頭、ポスターによる学会発表（講演要旨集、本誌に掲載された要旨、シンポジウム講演を含む）、国際研究集会での発表

著 書 等：上記以外の印刷物、Web 掲載およびマスコミ報道

《企画管理部》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
池田堅太郎、東山雅一、東山由美、梨木守	異なる土壌水分条件における放牧牛の踏圧がフェストロリウム (x Festulolium Braunii) 草地の植生に与える影響	日本草地学会誌	58 (4)、 256-259	2013. 01
遠藤貴司（宮城古川農試）、山口誠之、梶亮太、中込弘二、片岡知守、横上晴郁、中村俊樹、石川吾郎、米丸淳一（生物研）、西尾剛 /CA（東北大）	Close linkage of a blast resistance gene, Pias(t), with a bacterial leaf blight resistance gene, Xal-as(t), in a rice cultivar 'Asominori'	Breeding Science	62、334-339	2012. 12

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
佐藤百合香	消費者の世代別にみた野菜消費行動の特徴 —調理に着目した接近の試み—	第 48 回東北農業経済学会宮城大会報告要旨	＊、50	2012. 08

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
佐藤百合香	産地と食卓をつなぐ農業技術普及－特徴ある農産物の普及から見えてくる課題－	東北農業研究叢書 9	139p	2013. 03

《研究支援センター》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
湯本節三、菊池彰夫、加藤信	最近 21 年の大豆生産力試験における蛋白質、脂肪含量の変動と結実期気温との関係	東北農業研究	65、73-74	2012. 12

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
村山徹	土壤中放射性セシウムの野菜への移行に及ぼす環境保全型栽培の影響	園芸学研究	11（別 2）、477	2012. 09
村山徹、木方展治（農環研）、木村武	黒ボク土における各種野菜への放射性セシウムの移行	日本土壤肥料学会講演要旨集	58、160	2012. 09
村山徹	春植えタマネギの収量に及ぼす定植前リン酸苗施用とリン酸・カリ減肥の影響	園芸学研究	12（別 2）、375	2013. 03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
村山徹	有機栽培野菜の品質～現地のハウレンソウとミニトマトの事例～	日本土壤協会	44（508）、18-24	2012. 05
村山徹	野菜の放射性セシウム吸収量は少ない	東北農業研究センターたより	37、5	2012. 07
村山徹	各種野菜への土壤中放射性セシウムの移行係数の算出	JA 全農	518、18-19	2012. 08
村山徹	定植前リン酸苗施用による野菜のリン酸減肥栽培	研究成果発表会 農林水産業は気候変動にどう対応するか？	2012. 12. 10	2012. 12

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
鈴木千賀（十勝農試）、田中義則（十勝農試）、竹内徹（北見農試）、湯本節三、白井滋久（中央農試）	Genetic relationships of soybean cyst nematode resistance originated in Gedenshirazu and PI84751 on Rhg1 and Rhg4 loci	2011 年度日本育種学会賞論文賞	日本育種学会	2012. 04

《生産基盤研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
磯島昭代	農家直販における顧客の贈答用リングに対する意識	農村経済研究	30、18-23	2012. 08
桑形恒男（農環研）、石川淳子、林秀洋、長菅輝義（三重大）、福士敬子（東北研）、アハメード アリファ（岩手大）、高杉カツ子（東北研）、且原真木（岡山大）、村井麻理	Influence of low air humidity and low root temperature on water uptake, growth and aquaporin expression in rice plants	Plant and Cell Physiology	53 (8)、1418-1431	2012. 08
大谷隆二	汎用コンバインを活用した稲わらの迅速乾燥・収集体系	農業機械学会誌	74 (5)、14-18	2012. 09
小野洋、大谷隆二、迫田登稔	水稻直播栽培の温室効果ガス排出量	日本農業経済学会論文集	＊、260-266	2012. 12
小野洋、金井源太、野中章久、古川茂樹（福島県農業総合センター）	耕作放棄地におけるナタネ生産の可能性 ―岩手県西和賀町での現地実証―	東北農業研究	65、209-210	2012. 12
小野洋、野中章久、古川茂樹（福島県農業総合センター）	制度変更とナタネ価格 ―平成 21 年以降の動きを中心に―	関東東海農業経営研究	103、41-46	2013. 02
千葉克己（宮城大学食産業学部）、加藤徹（宮城大学食産業学部）、富樫千之（宮城大学食産業学部）、冠秀昭	縦浸透除塩の有効性と宮城県の津波被災農地の除塩対策	農業農村工学会誌	80 (7)、527-530	2012. 07
冠秀昭、関矢博幸、遊佐隆洋（宮城県古川農業試験場）、大谷隆二	電磁探査法による津波浸水農地の土壌電気伝導度迅速調査法	土壌の物理性	121、19-28	2012. 08
千葉克己（宮城大学食産業学部）、冠秀昭、加藤徹（宮城大学食産業学部）	津波被災農地における暗渠を利用した雨による浸透水除塩	土壌の物理性	121、29-34	2012. 08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
冠秀昭、大谷隆二、千葉克己（宮城大学食産業学部）	黒ボク土水田におけるプラウ耕鎮圧体系乾田直播での浸透抑制手法	農業農村工学会論文集	282、533-541	2012. 12
松塚健太郎（東北大学）、木村映一、仲川清隆（東北大学）、村田和優（富山県農林水産センター）、木村俊之、宮澤陽夫（東北大学）	Investigation of tocotrienol biosynthesis in rice (<i>Oryza sativa</i> L.)	Food Chemistry	140、91-98	2013. 02
清水恒、渡辺満	ハウレンソウの ORAC 値への収穫後処理と茹で時間の影響	東北農業研究	65、201-202	2012. 12
松村尚和（特別研究員等）、鈴木健策、下野裕之 /CA（岩手大学農学部）	Water temperatures during vegetative growth affect cold tolerance at booting stage of rice under controlled environmental conditions.	農業気象	68 (2)、159-164	2012. 06
藤村恵人（福島県農業総合センター 作物園芸部）、鈴木健策 /CA、長尾学、岡田益己（岩手大学農学部）	Acclimation to root chilling increases sugar concentrations in tomato (<i>Solanum lycopersicum</i> L.) fruits.	Scientia Horticulturae	147、34-41	2012. 11
関矢博幸、冠秀昭、大谷隆二、吉住佳与、武田純一（岩手大学）	海水進入農地の土壌電気伝導度の測定における土壌 EC センサの利用法	日本土壌肥料学雑誌	第 83 巻第 3 号	2012. 06
関矢博幸、大谷隆二、齋藤秀文、河本英憲	東北地域の飼料用稲—大麦二毛作栽培における WCS 向け水稻の収量性	東北農業研究	65、37-38	2013. 03
高橋太一	放射性物質汚染被害下における農業の経営倫理問題	日本経営倫理学会誌	20、55-66	2013. 03
三浦恒子（秋田県農業試験場）、進藤勇人（秋田県農業試験場）、中山壮一、平川謙一（秋田県由利地域振興局）、田口奈穂子（秋田県山本地域振興局）、森田弘彦（秋田県立大学）	寒冷地の水稻湛水土中直播栽培における一発処理除草剤の使用条件拡大のためのピラゾレート粒剤少量散布の適用	雑草研究	57 (2)、46-55	2012. 06
古川茂樹（福島県農業総合センター）、新妻俊栄（福島県農業総合センター）、野中章久、小野洋	消費者調査による国産ナタネ油（压榨法）の認知度と受容価格	東北農業研究	65、207-208	2012. 12
小池説夫、大森伸之介、山口知哉、林高見、矢頭治、吉田均	閉花性イネ突然変異体の開花期耐冷性	日本作物学会東北支部会報	55、67-68	2012. 12
堀川彰	東北地域における男子若年農業労働力の動向分析	東北農業研究	65、211-212	2012. 12
アハメード アリファ（岩手大）、村井麻理、石川淳子、林秀洋、河村幸男（岩手大）、上村松生（岩手大）	Cold stress-induced acclimation in rice is mediated by root-specific aquaporins	Plant and Cell Physiology	53 (8)、1445-1456	2012. 08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
吉田泰二 /CA、力丸宗弘 (秋田県畜産試験場)、酒井美保 (新日本製薬株式会社)、西部三省 (北海道医療大学)、藤川隆彦 (鈴鹿医療科学大学)、田村良文 (国際協力機構)	Plantage lanceolata L. leaves prevent obesity in C57BL/6J mice fed a high-fat diet	Natural Product Research	iFirst、1-6	2012. 06
渡辺満、加藤晶子、鮎瀬淳	Anti-diabetic Effects of Adlay Protein in Type 2 Diabetic db/db Mice.	Food Science and Technology Research	18 (3)、383-390	2012. 06
渡辺満、清水恒	ハウレンソウのカロテノイド組成と分析条件の検討	東北農業研究	65、199-200	2012. 12

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
松波麻耶 (秋田県立大学)、豊福恭子 (秋田県立大学)、小川敦史 (秋田県立大学)、石川淳子、国分牧衛 (東北大)	浸透圧ストレスに対するイネ根系発育の可塑性およびアクアポリン遺伝子発現の品種間差異	日本作物学会第234回講演会	81 (別2)、232-233	2012. 09
桑形恒男 (農環研)、石川淳子、林秀洋、長菅輝義 (三重大)、福士敬子 (東北研)、アハメード アリファ (岩手大)、高杉カツ子 (東北研)、且原真木 (岡山大)、村井麻理	Effect of low root-temperature on water use, growth and aquaporin expression in rice plants under various air-humidity conditions	International Workshop on Plant Membrane Biology 2013	*, 135	2013. 03
桑形恒男 (農環研)、石川淳子、林秀洋、長菅輝義 (三重大)、福士敬子 (東北研)、アハメード アリファ (岩手大)、高杉カツ子 (東北研)、且原真木 (岡山大)、村井麻理	イネの水利用、成長、アクアポリン発現に及ぼす低湿度と低地温の影響	第54回日本植物生理学会年会	*, 344	2013. 03
石川淳子、林秀洋、村井麻理	Adaptation of rice roots to nitrogen: adjustment of morphology and water uptake thorough changes in aquaporin expressions	International Workshop on Plant Membrane Biology 2013	*, 135	2013. 03
石塚諒 (岡山大)、石川淳子、且原真木 (岡山大)	イネアクアポリン OsPIP の発現と根水透過性：浸透圧ストレスの影響および形質転換での解析	第54回日本植物生理学会年会	*, 154	2013. 03
磯島昭代	顧客拡大に向けた贈答用果物の販売戦略ー「おすそわけ袋」の活用ー	第48回 東北農業経済学会 宮城大会 報告要旨	*, 51	2012. 08
大谷隆二、関矢博幸、冠秀昭、中山壮一、齋藤秀文、金井源太	水稻乾田直播栽培圃場における取水時間が水田水温および生育収量に及ぼす影響	農業機械学会東北支部大会要旨集	*, 17-18	2012. 08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
小野洋、野中章久、古川茂樹（福島県農業総合センター）	制度変更とナタネ価格	2012 年度関東東 山東海農業経営 研究会	*	2012. 07
小野洋、金井源太、野中章久、 松田裕子（農林水産政策研究所）	ドイツにおけるバイオディーゼル生 産の課題	第 8 回日本 LCA 学会研究発表会 報告要旨	＊、114-115	2013. 03
小野洋、片山勝之	大豆収穫労働と技術評価	2013 年度日本農 業経済学会大会 報告要旨	K2	2013. 03
金井源太、澁谷幸憲、天羽弘一、 本田裕、齋藤秀文	寒冷地における耕作放棄地でのナタ ネ栽培	農業機械学会東 北支部大会 研 究発表会 要旨 集	＊、19-20	2012. 08
金井源太、小綿寿志	2 段階プランジャ式圧縮成型機によ るバイオマス減容化	農業環境工学関 連学会 2012 年 合同大会講演要 旨（CD-ROM）	＊、P26	2012. 09
金井源太、澁谷幸憲、小綿寿志	ナタネ SVO のディーゼルエンジン 発電機への供試試験	農業環境工学関 連学会 2012 年 合同大会講演要 旨（CD-ROM）	＊、G61	2012. 09
冠秀昭、大谷隆二、関矢博幸	営農作業で簡便に利用できる本暗渠 施工器の開発	農業機械学会東 北支部大会研究 発表会要旨集	＊、36-37	2012. 08
冠秀昭、大谷隆二、関矢博幸	営農で利用できる暗渠施工器の開発	日本農作業学会 春季大会	48 別 1、43-44	2013. 03
仲川清隆（東北大院農）、松塚 健太郎（東北大院農）、木村映一、 村田和優（富山県農技セ）、木 村俊之、宮澤陽夫（東北大院農）	抗血管新生成分トコリエノールのイ ネ植物体における合機構	第 9 回日本トコ リエノール研究 会講演要旨集	＊、8	2012. 11
阿部伎（東北大院農）、松塚健 太郎（東北大院農）、木村映一、 木村俊之、村田和優（富山農技 セ）、仲川清隆（東北大院農）、 宮澤陽夫（東北大院農）	イネ植物体におけるトコリエノール 生合成機構の解明	日本農芸化学会 2013 年度大会大 会講演要旨集	Web 要旨集 3A44p17	2013. 03
小綿寿志、金井源太	未利用バイオマスによる地域の熱エ ネルギー供給シミュレーション	農業環境工学関 連学会 2012 年 合同大会講演要 旨（CD-ROM）	＊、G64	2012. 09
小綿寿志、小原勝久（㈱オーテッ ク）、金井源太、野口和利（㈱オー テック）	廃菌床燃料化システムのプロトタイ プモデルによるインベントリ分析	農業環境工学関 連学会 2012 年 合同大会講演要 旨（CD-ROM）	＊、P09	2012. 09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
齋藤秀文、大谷隆二、中山壮一、 関矢博幸、冠秀昭	水田輪作におけるダイズ等の狭畦密 植栽培技術の開発	農作業研究 (別号、平成 25 年日本農作業学 会春期大会要旨 集)	48 (別 1)、 69-70	2013. 03
小綿寿志、金井源太	木質バイオマスの熱利用について	食料生産地域再 生のための先端 技術展開事業 (岩手版) の課 題化に向けた勉 強会 中山間地 型園芸技術(野 菜) 分科会資料	※、44-45	2012. 11
鈴木健策、大森幸美(東北研)	高地温依存型の低温障害と硝酸還元 酵素の関係	第 54 回日本植 物生理学会年会 要旨集	※、210	2013. 03
関矢博幸、大谷隆二、齋藤秀文、 冠秀昭、河本英憲、天羽弘一	寒冷地の飼料用稲-麦二毛作栽培に おける水稻作圃場条件が飼料用麦の 収量に及ぼす影響	農業機械学会東 北支部大会研究 発表会要旨集	※、38-39	2012. 08
関矢博幸	東北農研(岩手県盛岡市)の H24 試験報告	日本作物学会 第 234 回講演会 における小集会 「モリブデンを 用いた水稻直播 技術に関する情 報交換会」	2012. 9. 11	2012. 09
関矢博幸、櫻井民人、兼松誠司、 小林隆、中山壮一	水稻有機栽培圃場採取土壌における 初穀灰のケイ酸溶出特性	日本土壌肥科学 会講演要旨集	58、137	2012. 09
関矢博幸、齋藤秀文、西田瑞彦、 高橋智紀、大谷隆二	ブラウ耕 2 年 3 作体系の大豆狭畦密 植栽培に対応した深層施肥ブラウの 試作	農作業研究 (別号、平成 25 年日本農作業学 会春期大会要旨 集)	48 別 1、37-38	2013. 03
高橋太一	放射能汚染被害下における農業の経 営倫理問題	日本経営倫理学 会第 20 回研究 発表大会予稿集	53-58	2012. 06
高橋太一	有機稲作経営の到達点にみる有機農 業拡大制約への対応	東北農業経済学 会 2012 年度大 会報告要旨集	57	2012. 08
長谷川啓哉	リンゴ作の生産力構造の階層性と経 済性	農業問題研究学 会 2012 年度秋 季大会報告予稿 集	p6	2012. 11

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
小池説夫、青木和彦、渡辺江利子（東北研）、山口知哉、林高見	イネ鱗被溶質および酵素活性の開穎前後の変動	日本作物学会紀事	234（別2）、282-283	2012. 09
林高見、清水博之、池ヶ谷智仁、黒木慎、山口知哉、大森伸之介、矢頭治、吉田均、小池説夫	Evaluation of flowering rate of rice cleistogamous mutants under different growing temperatures using the Temperature Gradient Chamber.	The Monsoon Asia Agro-Environmental Research Consortium Symposium 2012 Workshop 2: Biosafety and issues facing the development of Genetically Modified Crops in Monsoon Asia :Current status and Future aspects	P2-19	2012. 09
村井麻理、桑形恒男（農環研）、石川淳子、林秀洋	Rice plants observe today's weather and regulate aquaporin expressions in the roots	International Workshop on Plant Membrane Biology 2013	＊、133	2013. 03
林秀洋、村井麻理、石川淳子	Rice aquaporins during from flowering to grain filling period	International Workshop on Plant Membrane Biology 2013	＊、132	2013. 03
渡辺満、清水恒、六角啓一（タキイ研究農場）、片岡園	ハウレンソウの寒締め栽培による機能性成分の推移	園芸学研究	12（別1）、399	2013. 03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
石川淳子、村井麻理	イネが環境に応じて水分量を調節するしくみ	化学と生物	50 (6)、402-403	2012. 06
石川淳子、村井麻理、林秀洋	地上部の蒸散要求が水稻の根のアクアポリン発現の日周変動を引き起こす	参考成果		2013. 03
磯島昭代	贈答用リングに関する消費者意識と販売戦略ーリング生産地における消費者の贈答意識と購買行動ー	農業経営通信	252、6-7	2012. 07
磯島昭代	受賞記：日本フードシステム学会学術賞 農産物購買における消費者ニーズ	東北農業研究センターたより	37、7	2012. 07

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
磯島昭代	贈答用リングに対する消費者ニーズと販売戦略(1)	果実日本	67 (11)、75-78	2012. 11
磯島昭代	贈答用リングに対する消費者ニーズと販売戦略(2)	果実日本	67 (12)、69-72	2012. 12
磯島昭代	贈答用リングに対する消費者ニーズと販売戦略(3)	果実日本	68 (1)、101-105	2013. 01
磯島昭代、長谷川啓哉	農家直販における贈答用リングの顧客拡大プロセス	参考成果		2013. 03
磯島昭代	贈答用果物を売り込め！狙いは地元消費者	全国農業新聞	2012. 7. 6. 5	2012. 07
大谷隆二	プラウ耕・グレーンドリル播種方式の乾田直播体系	東北農業研究センターたより	37、3	2012. 07
大谷隆二	稲わらの収集体系と迅速乾燥技術	平成 24 年度農政課題解決研修 飼料イネ・飼料米の生産・給与技術（畜産草地研究所）	2012. 7. 5	2012. 07
大谷隆二	プラウ耕鎮圧体系の乾田直播 一畑作用機械の汎用利用一	平成 24 年度農政課題解決研修 水稻の直播栽培技術（東北農業研究センター）	2012. 7. 26	2012. 07
大谷隆二	大規模輪作営農のための乾田直播技術	アグリプロ 21 講演会（ヤンマー農機）	2012. 7. 11	2012. 07
大谷隆二	汎用コンバインを活用した稲わらの乾燥促進・収集技術について	稲わら収集・給与技術研修会（山形県最上支庁農業振興課）	2012. 8. 10	2012. 08
大谷隆二	高能率・安定多収を実現するプラウ耕水稻乾田直播体系	農研機構水田農業フォーラム	2012. 8. 28	2012. 08
大谷隆二	グレーンドリル利用による乾田直播技術と今後の課題	東北農業試験研究推進会議直播研究会・水稻直播等低コスト技術現地検討会（東北農政局）	2012. 9. 4-5	2012. 09
大谷隆二	汎用コンバインを活用した稲わらの迅速乾燥・収集体系	農文協	最新農業技術 畜産 5、89-94	2012. 10

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
大谷隆二	プラウ耕乾田直播が拓く新しい水田農業	平成 24 年度東北地域マッチングフォーラム（東北農業研究センター）	2012. 11. 30	2012. 11
大谷隆二	大規模、低コストの米作りを実現する乾田直播栽培	アグリビジネス創出フェア 2012（農林水産省）	2012. 11. 16	2012. 11
大谷隆二	プラウ耕・グレーンドリル播種方式の寒冷地向け水稻乾田直播体系	グリーンレポート（全農）	11、14-15	2012. 11
大谷隆二	プラウ耕・グレーンドリル播種方式の寒冷地向け水稻乾田直播体系	西北五水稻乾田直播フォーラム（青森県西北地域県民局地域農林生産部）	2012. 12. 13	2012. 12
大谷隆二、関矢博幸、冠秀昭、中山壮一、小野洋、齋藤秀文、金井源太	プラウ耕・グレーンドリル播種方式の寒冷地向け乾田直播体系（ポスター発表）	中央農研シンポジウム 転換期の水田農業とその展開方向	2012. 12. 7	2012. 12
大谷隆二	立毛乾燥・強化熱乾燥等による胴割れ碎米調製技術の確立と飼養特性の解明	粗飼料多給による日本型家畜飼養技術の開発－5 系 飼料用米の低コスト生産・調製・給与技術の開発－研究成果 490（農林水産省）	＊、9-10	2013. 01
大谷隆二	自脱コンバイン、自走ロールベアーの汎用利用によるイネ WCS および稲わらの低コスト・高品質収穫調製技術の開発	粗飼料多給による日本型家畜飼養技術の開発－4 系 地域先端技術の実証・解析－（農林水産省）	＊、90-93	2013. 01
大谷隆二	自動水管理総装置を高度利用した寒冷地向け乾田直播技術の確立	「低コストで質の良い加工・業務用農産物の安定供給技術の開発」研究成果 485（農林水産省）	＊、433-436	2013. 01
大谷隆二	イネの低コスト生産と迅速な稲わら調整技術	平成 24 年度 東北農業試験研究推進会議畜産飼料作物推進部会	2012. 1. 30-31	2013. 01

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
大谷隆二	プラウ耕・グレーンドリル播種方式の寒冷地向け水稲乾田直播体系	技術の窓（日本政策金融公庫）	2013年2月号	2013.02
小野洋	瓦礫処理に求められるトレランス	農業と経済	78(7)、100-101	2012.05
小野洋	TPP・農業所得補償等現在の農業及び今後の情勢について	つがるにしきた農協津軽北部水稲部会研修会	2012.6.15	2012.06
小野洋	TPPの背景と課題	NOSAI 津軽広域	2012.7.5	2012.07
小野洋	ナタネに関する制度	菜の花プロジェクト研修会（三重県伊賀市）	2012.8.22	2012.08
小野洋	将来に向けた水稲乾田直播栽培の取り組み	JA つがるにしきた 米穀推進協議会	2012.12.18	2012.12
小野洋	農業技術の開発・評価と農業政策	五所川原市農業委員会	2013.2.5	2013.02
小野洋、野中章久	バイオディーゼル生産の現状－ドイツ・バイエルン州の事例－	BDF 利用拡大プロジェクト事業推進委員会	2013.2.19	2013.02
小野洋	第Ⅲ部第1章ナタネに関する制度と価格への影響 第Ⅴ部第1章ナタネ栽培によるバイオ燃料生産の環境影響評価	東北農研叢書「国産ナタネの現状と展開方向」	8、133-145、245-262	2013.03
金井源太	よくわかる農業施設用語解説集 第2章 穀類関連施設 執筆項目：平衡水分（平衡含水率）	筑波書房	＊、54	2012.09
金井源太	よくわかる農業施設用語解説集 第2章 穀類関連施設 執筆項目：選別（穀類）	筑波書房	＊、42	2012.09
金井源太	よくわかる農業施設用語解説集 第2章 穀類関連施設 執筆項目：乾燥（種子）	筑波書房	＊、31	2012.09
金井源太	2012年度農業施設学会若手の会開催報告	農業施設	43(4)、163	2012.12
金井源太、澁谷幸憲、天羽弘一、本田裕、齋藤秀文	寒冷地における耕作放棄地へのナタネ導入について	農業機械学会東北支部報	59、35-38	2012.12
金井源太	国産ナタネの現状と展開方向 第Ⅴ部第3章ナタネのカスケード利用技術と熱量構成について	東北農業研究叢書	8、273-380	2013.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
冠秀昭、関矢博幸	塩分を電磁探査	盛岡タイムス	2012. 7. 21 1 面	2012. 07
冠秀昭、関矢博幸	海水浸水農地の塩分濃度、電磁探査法で迅速把握	化学工業日報	2012. 7. 24 4 面	2012. 07
冠秀昭、関矢博幸	農地塩分その場で測定	日本農業新聞	2012. 7. 29 1 面	2012. 07
冠秀昭、大谷隆二、関矢博幸	乾田直播圃場における漏水対策	農研機構水田農業フォーラム 東北・北海道地域における低コスト稲作を考える ―北国の大規模水田農業を支える水稲乾田直播―	2012. 8. 28	2012. 08
冠秀昭、関矢博幸	海水浸水農地の塩分濃度電磁探査法で迅速把握	科学新聞	2012. 8. 3 6 面	2012. 08
冠秀昭、関矢博幸	浸水農地の改善へ簡単に塩分調査	日本経済新聞	2012. 8. 14 12 面	2012. 08
冠秀昭、関矢博幸	被災農地の塩分測定、電磁波使い迅速に	日経産業新聞	2012. 8. 14 5 面	2012. 08
冠秀昭、関矢博幸	津波被災農地の E C がその場で調べられる	現代農業	91 (10)、291	2012. 10
冠秀昭、関矢博幸	塩分濃度測定器「電磁探査法」迅速に塩分測定	機械化農業	＊、41-43	2012. 10
冠秀昭、関矢博幸	津波で浸水した農地の塩分濃度の測定 電磁探査法によって迅速化	農耕と園芸 アグリニュース	67、7-8	2012. 10
冠秀昭、関矢博幸	装置を持って歩いて計測「電磁探査法」	農業共済新聞	2012. 10. 24 11 面	2012. 10
小綿寿志	エネルギー消費と環境負荷の評価	平成 24 年度革新的農業技術習得支援事業「温室の周年利用に向けた省エネルギー・高度環境制御技術」	2012. 8. 2	2012. 08
小綿寿志	よくわかる農業施設用語解説集	筑波書房	＊、145、147	2012. 09
小綿寿志、金井源太、小池俊吉（東北地域農林水産・食品ハイテク研究会）、境眞二郎（東北地域農林水産・食品ハイテク研究会）、小原勝久（㈱オーテック）	施策との連動性など社会や地域の課題解決を重視した廃菌床再生燃料化利用によるエネルギー自給型シイタケ生産システムの開発支援（インタビュー取材）	農林水産・食品産業分野における産学連携コーディネート（モデル事例）	＊、6p.	2012. 11

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
小綿寿志	再生可能エネルギー利用の留意点	平成 24 年度東北農業試験研究推進会議農業生産基盤推進部会作業技術研究会 コメンテータ	2013. 2. 5	2013. 01
齋藤秀文、片山勝之	ソバ・ナタネ二毛作栽培に向けた機械作業技術体系	研究ジャーナル	35 (7)、28-32	2012. 07
宮崎昌宏、武田光能、齋藤秀文、河野勝行、小林恭	軟弱植物用の飛翔害虫捕獲装置	特許一登録	5187659	2013. 02
建石邦夫、宮崎昌宏、齋藤秀文	コンバインの収量計測装置	特許一登録	5207217	2013. 03
鈴木健策	水稻幼苗の高地温依存の低気温障害の原因は光合成電子伝達の遮断にある	参考成果		2013. 03
関野幸二	大規模災害が地域農業・農業経営に与えた影響 津波被害有り 中山間地域（岩手県沿岸地域）	東北農業研究センター農業経営研究	30、131-136	2013. 03
関矢博幸	乾田直播の肥培管理	革新的農業技術に関する研修 研修課題名：水稻の直播栽培技術	2012. 7. 27	2012. 07
関矢博幸	東日本大震災に対応した試験研究の現状と課題	平成 24 年度東北農業試験研究推進会議 生産環境推進部会 土壌肥料研究会（夏期）	2012. 7. 5-6	2012. 07
関矢博幸	市販土壌 EC センサを用いた海水浸水農地の土壌電気伝導度簡易測定法	岩手大学地域連携推進センター 産学官のススメ リエゾン-I シーズ集 研究シーズ		2012. 07
関矢博幸	市販土壌 EC センサを用いた海水浸水農地の土壌電気伝導度の簡易測定法を開発 ―塩害リスクを現場で簡易に推定―	プレスリリース	2012. 7. 20	2012. 07
関矢博幸、大谷隆二、冠秀昭	乾田直播圃場の連担化（合筆）による生育ムラの軽減技術（パネル紹介）	農研機構水田農業フォーラム 東北・北海道地域における低コスト稲作を考える ―北国の大規模水田農業を支える水稻乾田直播―	2012. 8. 28	2012. 08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
関矢博幸	海水浸水農地の迅速な土壌電気伝導度測定法	平成 24 年度東北農業研究センター運営委員会	2012. 10. 11	2012. 10
関矢博幸	土壌 EC センサを用いた海水浸水農地の迅速な土壌電気伝導度測定法	東北農業研究センターたより	38、7	2012. 11
関矢博幸	寒冷地水田における WCS 用イネの疎植栽培技術と飼料用稲麦二毛作体系	平成 24 年度「飼料イネの研究と普及に関する情報交換会」～飼料イネ、飼料用米の低コスト栽培と効率的な利用に向けて～	2012. 12. 4	2012. 12
土屋一成、関矢博幸	(4)堆肥、液肥の活用	飼料用米の生産・給与技術マニュアル＜2012 年度版＞	24-30	2013. 03
服部浩之（秋田県立大学）、金田吉弘（秋田県立大学）、関矢博幸、西田瑞彦、土屋一成、加藤直人	第 2 編 寒冷地における飼料用稲を基軸とした自給飼料多給型肉用牛生産技術の開発 2 発酵粗飼料用稲栽培における家畜糞堆肥の効率的・安全な施用技術の確立	えさプロ成果集 4 系ー第 1 編	＊、74-81	2013. 03
大黒正道	被災地での復旧・復興の取り組みについてー東北農業研究センターの取り組みを中心としてー	平成 24 年度東北地域農林水産・食品ハイテク研究会総会 記念講演会	2012. 7. 24	2012. 07
大黒正道	宮城県で実施中の土地利用型農業に関する実証研究について	アグリビジネス創出フェア 2012 先端技術展開事業プロジェクトの紹介	2012. 11. 15	2012. 11
大黒正道	東北農業研究センターの津波被害からの復旧・復興に向けた研究開発の取組	大日本農会	1565、16-26	2012. 11
高橋太一	仲間を訪ねて 1 山本農場	豊かな食べものを求める会会誌（豊かなたべものを求める会）	2012. 6、6-8	2012. 06
高橋太一	仲間を訪ねて 2 真正ファーム	豊かな食べものを求める会会誌（豊かな食べものを求める会）	2012. 07、5-7	2012. 07

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
高橋太一	不在の12年と6ヶ月	豊かな食べものを求める会30周年記念誌（豊かな食べものを求める会）	178-188	2012.12
中山壮一	直播栽培における雑草防除	革新的農業技術に関する研修（水稲の直播栽培技術）	2012.7.27	2012.07
中山壮一	東北地域等の寒冷地水田作における有機栽培技術体系の開発	気候変動対策プロジェクト研究成果発表会	2012.12.10	2012.12
中山壮一	畑地雑草「アメリカセンダングサ」	農文教	農業総覧 病害虫診断防除編 第9巻（追録43号）503-506	2013.01
中山壮一	水稲有機栽培での雑草防除法	有機栽培技術試験研究成果発表会（主催：一関地方有機農業推進協議会）	*	2013.02
中山壮一	第14回東北雑草研究会開催	日本植物調節剤研究協会東北支部会報	45、*	2013.03
野中章久	国産菜種の流通経済	東北ナタネセミナー 東北のなたね生産振興及び拡大のための現地研究会	2012.5.29	2012.05
野中章久	農業経済学の重鎮による日本農業の再生方向の提起	農業と経済	78(6)、106	2012.05
野中章久	地場産ナタネの搾油と流通	菜の花プロジェクト：研修会	2012.8.22	2012.08
野中章久	ナタネ収量増狙う	日本農業新聞	2012.8.4 16面	2012.08
野中章久	地域を支える障害者の農業労働	農業と経済	78(9)、75-80	2012.09
野中章久	国産ナタネの現状と展開方向	東北農業研究叢書	8、1-321	2013.03
野中章久、小野洋	バイオ燃料製造を兼営する地場搾油は国産ナタネ油の5%を占める	参考成果		2013.03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
長谷川啓哉	TPP と消費税増税	りんごニュース (青森県りんご協会)	2884、1	2012. 04
長谷川啓哉	贈答マーケティング	りんごニュース (青森県りんご協会)	2893、1	2012. 07
長谷川啓哉	産地形成とパートナーシップ	平成 24 年度農 業者雇用支援講 習	2012. 8. 9	2012. 08
長谷川啓哉	樹園地と労働の生産力	りんごニュース (青森県りんご協会)	2902、1	2012. 10
長谷川啓哉	農業経営論	平成 24 年度営 農指導員筆記試 験講習会	2012. 11. 7	2012. 11
長谷川啓哉	大規模リンゴ作経営成立のための省 力生産・販売一体型ビジネスモデル	参考成果		2013. 03
藤森英樹	復旧・復興に向けた J A グループの 取り組み	東北農業研究セ ンター農業経営 研究	30、103-105	2013. 03
藤森英樹	復興のための課題－宮城中南部沿 岸・平坦水田地域における－	東北農業研究セ ンター農業経営 研究	30、95-97	2013. 03
藤森英樹	J A 仙台管内の被災状況と対応－仙 台市を中心に－	東北農業研究セ ンター農業経営 研究	30、93-95	2013. 03
藤森英樹	名取市・岩沼市、亘理町・山元町地 域の被災状況と対応（分担執筆）	東北農業研究セ ンター農業経営 研究	30、79-88	2013. 03
岡田益己（岩手大学）、井上め ぐる（元東北農業研究センター 非常勤職員）、村井麻理	高糖度含有葉茎根菜類又は果菜類の 栽培方法	特許－登録	特願 2006-107139、 特許第 4965150 号	2012. 04
村井麻理、桑形恒男（農環研）、 石川淳子、林秀洋、長菅輝義（東 北研）	低根域温度及び低湿度が水稻の水分 吸収と成長に及ぼす影響	参考成果		2013. 03
吉田泰二、石浦章一（東京大学）、 渡辺雄一郎（東京大学）	アミロイド β ペプチドをコードする 遺伝子を含有したイネ	特許－登録	5105272	2012. 10
渡辺満	ルテイン高含有食品	Functional Food	19、14-19	2012. 07
渡辺満	オレンジハクサイの色素組成と抗酸 化能	東北農業研究セ ンターたより	38、6	2012. 11

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
渡辺満、加藤晶子	ハトムギタンパク濃縮物は2型糖尿病モデルマウスの脂質代謝を改善する	参考成果		2013. 03

《畑作園芸研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
Pawan Kulwal (マハトマ・プール農大)、石川吾郎、David Benscher (コーネル大)、Zongyun Feng (四川農大)、Long-Xi Yu (コーネル大)、Ashok Jadhav (マハトマ・プール農大)、Subhash Mehetre (マハトマ・プール農大)、Mark E. Sorrells/CA (コーネル大)	Association mapping for pre-harvest sprouting resistance in white winter wheat	Theoretical and Applied Genetics	125、793-805	2012. 08
石川吾郎 /CA、清宮靖之 (岩手大)、斉藤美香、中村俊樹、星野次汪 (岩手大)	Molecular characterization of spontaneous and induced mutations in the three homoeologous waxy genes of Japanese barnyard millet [<i>Echinochloa esculenta</i> (A. Braun) H. Scholz]	Molecular Breeding	31、69-78	2012. 08
Patricia L. Vrinten (Bioriginal)、新畑智也 (日本製粉株式会社)、柳瀬美千代 (江崎グリコ)、春原愛 (日本製粉株式会社)、斉藤美香、猪熊貴之 (日本製粉株式会社)、瀧屋俊幸 (日本製粉株式会社)、鷹羽武史 (江崎グリコ)、中村俊樹 /CA	Properties of a novel type of starch found in the double mutant “sweet wheat”.	Carbohydrate Polymers	89 (4)、1250-1260	2012. 08
新畑智也 (日本製粉株式会社)、Yongfeng Ai (Iowa State Univ.)、藤田雅也、猪熊貴之 (日本製粉株式会社)、Patricia Vrinten (Bioriginal)、春原愛 (日本製粉株式会社)、斉藤美香、瀧屋俊幸 (日本製粉株式会社)、Jay-lin Jane (Iowa State Univ.)、中村俊樹 /CA	Effects of Homoeologous Wheat Starch Synthase IIa Genes on Starch Properties	Journal of Agricultural and Food Chemistry	60 (48)、12004-12010	2012. 12
濱野恵、山崎浩道、矢野孝喜、本城正憲、森下昌三	定植前長日処理による四季成り性イチゴ ‘なつあかり’ の一年生苗の花芽分化促進と年内収量への影響	園芸学研究	11 (4)、467-475	2012. 10

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
森下昌三、本城正憲、濱野恵、山崎浩道、矢野孝喜	四季成り性イチゴ品種の連続開花性と第 1 花房着生節位との関係	園芸学研究	11、147-152	2012. 04
森下昌三、本城正憲、濱野恵、山崎浩道、矢野孝喜	24 時間日長下における栽培イチゴの四季成り性の遺伝解析	園芸学研究	11、301-307	2012. 07
吉田康子（筑波大）、小玉昌孝（筑波大）、本城正憲、大澤良（筑波大）	埼玉県荒川水系江川下流域に自生するサクラソウ野生集団における遺伝的多様性の維持・回復のための保全遺伝学的研究	保全生態学研究	17、211-219	2012. 11
本田裕、小笠原吉一（ヤンマー農機販売（株））、川崎光代、渡邊学（岩手大）、佐川了（岩手大）	そば新品種の施肥他と収量との関係について	東北農業研究	65、81-82	2012. 12
松尾健太郎、屋代幹雄	ベルト式繰出し機構の播種精度を低下させる要因の解析	農作業研究	48 (1)、1-9	2013. 03
山崎篤、田中和夫（前九州沖縄農研）、位田晴久（宮崎大学）	ネギの花芽分化に関わる植物体の生育ステージ ー特に葉数との関連についてー	園芸学研究	11、257-263	2012. 04
山崎篤 /CA、田中和夫（前九州沖縄農研）、位田晴久（宮崎大学）	Seed vernalization-like character in Bunching Onion (<i>Allium fistulosum</i> L.)	Acta Horticulturae	969、133-134	2012. 12
山崎博子、庭田英子（青森県産業技術センター野菜研究所）、矢野孝喜、長菅香織、稲本勝彦	氷点下貯蔵後のニンニクの発根・萌芽を抑制する高温処理効果に及ぼす処理開始前の保管条件の影響	東北農業研究	65、151-153	2012. 12

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
池永幸子、谷口義則、中村和弘、伊藤裕之	超強力小麦品種「銀河のちから」を利用したブレンド粉の製パン適性	日本作物学会紀事	81（別 2）、296-297	2012. 09
坂口豊隆（京大院・農）、渡邊将太（京大院・農）、宅見薫雄（神戸大院・農）、新畑智也（日本製粉株式会社）、石川吾郎、斉藤美香、中村俊樹、遠藤隆（京大院・農）、那須田周平（京大院・農）	配偶子致死システムを用いたパンコムギ染色体の欠失系統の作出	育種学研究	14（別 2）、57	2012. 09
石川吾郎	米国コーネル大での長期在外研究－小麦穂発芽の事例－	第 31 回岩手育種談話会	＊、＊	2012. 09
渡邊将太（京大院・農）、新田みゆき（京大院・農）、石川吾郎、斉藤美香、中村俊樹、新畑智也（日本製粉株式会社）、遠藤隆（京大院・農）、那須田周平（京大院・農）	コムギ 6B 染色体の Radiation Hybrid (RH) マッピング	育種学研究	14（別 2）、56	2012. 09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
石川吾郎、前島秀和（長野農試）、伊藤裕之、神野裕信（北見農試）、中村和弘、斉藤美香、佐藤三佳子（北見農試）、上原泰（長野農試）、吉村康弘（北見農試）、中村俊樹	A high-throughput colorimetry system for evaluating endosperm brightness of wheat seeds	PhenoDays 2012、Program & Abstract Book	＊、70	2012. 10
佐藤三佳子（北見農試）、神野裕信（北見農試）、吉村康弘（北見農試）、西村努（道立中央農試）、前島秀和（長野農試）、石川吾郎、中村和弘、伊藤裕之、斉藤美香、上原泰（長野農試）、中村俊樹	小麦粉の色相に対する品種系統間差異と環境変動	育種学研究	15（別1）、137	2013. 03
石川吾郎、中村和弘、伊藤裕之、斉藤美香、中村俊樹、佐藤三佳子（北見農試）、神野裕信（北見農試）、吉村康弘（北見農試）、西村努（道立中央農試）、前島秀和（長野農試）、上原泰（長野農試）	小麦粉の色相およびその関連形質に関するゲノムワイドアソシエーション解析	育種学研究	15（別1）、139	2013. 03
前島秀和（長野農試）、石川吾郎、中村和弘、伊藤裕之、斉藤美香、中村俊樹、上原泰（長野農試）、佐藤三佳子（北見農試）、西村努（道立中央農試）、神野裕信（北見農試）、吉村康弘（北見農試）	コムギ胚乳明度の品種系統間差異および環境変動	育種学研究	15（別1）、138	2013. 03
稲本勝彦、長菅香織、矢野孝喜、山崎博子、西本登志（奈良県農業総合センター）、仲照史（奈良県農業総合センター）、廣岡健司（奈良県農業総合センター）、佐野太郎（奈良県農業総合センター）、吉川正晃（大阪ガス㈱）、岸本章（大阪ガス㈱）、喜多村克宏（日本軽金属㈱）、月村勝宏（（独）産総研）、前田雅喜（（独）産総研）、犬飼恵一（（独）産総研）、鈴木正哉（（独）産総研）	トルコギキョウおよびオリエンタル系ユリに対する冬季の二酸化炭素施用効果	園芸学研究	11（別2）、517	2012. 09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
鈴木正哉（（独）産総研）、月村勝宏（（独）産総研）、前田雅喜（（独）産総研）、犬飼恵一（（独）産総研）、西本登志（奈良県農業総合センター）、仲照史（奈良県農業総合センター）、廣岡健司（奈良県農業総合センター）、佐野太郎（奈良県農業総合センター）、稲本勝彦、吉川正晃（大阪ガス㈱）、岸本章（大阪ガス㈱）、喜多村克宏（日本軽金属㈱）	温室栽培での CO ₂ 回収利用システムにおけるデシカント空調の必要性	2012 年度日本冷凍空調学会年次大会講演論文集	351	2012. 09
廣岡健司（奈良県農業総合センター）、仲照史（奈良県農業総合センター）、稲本勝彦、西本登志（奈良県農業総合センター）、佐野太郎（奈良県農業総合センター）、鈴木正哉（（独）産総研）、吉川正晃（大阪ガス㈱）、喜多村克宏（日本軽金属㈱）	CO ₂ の局所施用がバラの収量および切り花品質に及ぼす影響	園芸学研究	11（別 2）、257	2012. 09
稲本勝彦、矢野孝喜、山崎博子	二酸化炭素施用がスプレーギクの個体光合成速度と地上部乾物蓄積に及ぼす影響	園芸学研究	12（別 1）、446	2013. 03
Patricia Vrinten（Bioriginal）、新畑智也（日本製粉）、斉藤美香、中村俊樹	Sweet Wheat: Using MAS to Develop a Double-Null Mutant in a Polyploid Crop.	Plant Genetics and Breeding Technologies	＊、＊	2013. 02
斉藤美香、新畑智也（日本製粉株式会社）、春原愛（日本製粉株式会社）、田中剛（農業生物資源研究所）、石川吾郎、猪熊貴之（日本製粉株式会社）、瀧屋俊幸（日本製粉株式会社）、中村俊樹	PLUG マーカーの bin mapping によるコムギ物理地図作成とオオムギゲノムとの比較	育種学研究	15（別 1）、29	2013. 03
濱野恵、山崎浩道、矢野孝喜、本城正憲、森下昌三	四季成り性イチゴ一年生苗の出蕾に及ぼす日長の影響	園芸学研究	12（別 1）、359	2013. 03
本城正憲、片岡園、矢野孝喜、濱野恵、山崎浩道、由比進、森下昌三	交配親に用いたイチゴ季成り性品種の早晩が後代の四季成り性個体の早晩に及ぼす影響	園芸学研究	11（別 2）、416	2012. 09
本城正憲、布目司、片岡園、矢野孝喜、濱野恵、山崎浩道、森下昌三、山本俊哉、由比進	イチゴ四季成り性選抜マーカーの系譜間汎用性	園芸学研究	12（別 1）、326	2013. 03
本田裕	ハトムギ育種のための寒冷地におけるジュズダマ遺伝資源の探索	育種学研究（別 1）	15（別 1）、78	2013. 03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
松尾健太郎、山崎篤	蓄熱装置を有した半地下栽培装置によるアスパラガスの伏せ込み栽培時の蓄熱効果	農業環境工学関連学会 2012 年合同大会講演要旨集	＊、H51	2012. 09
矢野孝喜、長菅香織、山崎博子、稲本勝彦、山崎浩道、濱野恵、本城正憲、森下昌三	花房間葉数を指標とした花房摘除処理が四季成り性イチゴの開花および収穫パターンに及ぼす影響	園芸学研究	11 (別 2)、435	2012. 09
矢野孝喜、長菅香織、山崎博子、稲本勝彦、山崎浩道、濱野恵、本城正憲、森下昌三	低温遭遇後の四季成り性イチゴへの異なる日長処理が花房数および花房間葉数に及ぼす影響	園芸学研究	12 (別 1)、363	2013. 03
山崎篤、田中和夫(旧職員)、位田晴久(宮崎大学)	Involvement of growth stage, especially leaf number, in flower-bud initiation of bunching onion (<i>Allium fistulosum</i> L.)	Abstr. 6th International Symposium on Edible Alliaceae, Fukuoka	＊、98	2012. 05
山崎篤、松尾健太郎、森山真久、山崎浩道、濱野恵	東北におけるタマネギの春まき作型の開発に向けたりん茎肥大生理に関する研究 ―りん茎肥大に及ぼす温度の影響―	平成 24 年度園芸学会東北支部発表要旨	＊、39-40	2012. 08
山崎篤、森山真久、松尾健太郎、山崎浩道、濱野恵	東北におけるタマネギの春まき作型成立の可能性	園芸学研究	11 (別 2)、203	2012. 09
山崎篤、森山真久、松尾健太郎、山崎浩道、濱野恵	2、3 月まき夏どりタマネギりん茎の葉の構成に及ぼす品種および播種時期の影響	園芸学研究	12 (別 1)、131	2013. 03
森山真久、山崎篤、山崎浩道、松尾健太郎、濱野恵	タマネギ品種の夏どり作型におけるりん茎肥大開始時期および関連する生育指標と積算気温との関係 -2 月まき 4 月定植と 3 月まき 5 月定植との比較 -	園芸学研究	12 (別 1)、132	2013. 03
前田智雄(弘前大学)、渡邊明優美(弘前大学)、奥聡史(弘前大学)、本多和茂(弘前大学)、小山内祥代(弘前大学)、山崎篤	タマネギりん茎に含まれるフルクトオリゴ糖の HPLC/ELSD 法による解析	園芸学研究	12 (別 1)、378	2013. 03
山崎博子、庭田英子(青森県産業技術センター野菜研究所)、矢野孝喜、長菅香織、稲本勝彦	Heat treatments to inhibit sprout and root growth of garlic bulbs after subzero storage	6th International Symposium on Edible Alliaceae Programme & Abstracts	＊、70	2012. 05
山崎博子、庭田英子(青森県産業技術センター野菜研究所)、矢野孝喜、長菅香織、稲本勝彦	恒温条件での乾燥温度および期間が氷点下貯蔵後のニンニクの品質に及ぼす影響	園芸学研究	11 (別 2)、555	2012. 09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
山崎博子、庭田英子（青森県産業技術センター野菜研究所）、伊藤篤史（青森県産業技術センター野菜研究所）、八谷満、矢野孝喜、長菅香織、稲本勝彦	ニンニク乾燥時の夜間温度が乾燥コストおよびりん茎の品質に及ぼす影響	園芸学研究	12（別 1）、470	2013. 03
山崎浩道	東北におけるイチゴに関するプロジェクト研究の最新情勢	北日本イチゴ研究会	＊、＊	2012. 08
山崎浩道、濱野恵、矢野孝喜、本城正憲、森下昌三	イチゴ夏秋栽培におけるケイ酸質および石灰質肥料の施用が萎黄病等の発病に及ぼす影響	日本土壌肥料学会講演要旨集	58、45	2012. 09

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
石川吾郎	Genome-wide association study of quality traits in winter wheat	7th Japan-French Seminar "Wheat Genome Analysis"	22	2012. 12
伊藤裕之、中村和弘、平将人、谷口義則	ジーンバンク植物遺伝資源部門データベース（農業生物資源研究所）（小麦 HON-IKU49 他 100 系統、大麦 MORIKEI D-B001 他 50 系統）	来歴・特性情報検索システム	http://www.gene.affrc.go.jp/plant/kanri/gb_kanri/SEARCH/db/index.html	2012. 04
伊藤裕之、池永幸子、谷口義則	麦の有望品種・系統の評価について	平成 24 年度東北地域麦振興協議会資料	＊、＊	2013. 03
川崎光代	ナタネの生産拡大に向けた品種育成の現状	東北ナタネセミナー（東北のナタネ生産振興及び拡大のための現地研究会）	2012. 5. 29	2012. 05
川崎光代	平成 24 年度東北ナタネセミナー	東北農業研究センターたより	37、10	2012. 07
川崎光代	ナタネ品種育成の現状と展望	平成 24 年度「なたね」栽培講習会（築上町なたね生産組合主催）	2012. 9. 26	2012. 09
川崎光代	国内におけるナタネ品種開発の現状	第 32 回岩手育種談話会	2012. 11. 26	2012. 11
川崎光代	越冬性が優れるナタネ新品種「キタノキラメキ」	東北農業研究センターたより	39、3	2013. 02

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
川崎光代、本田裕、加藤晶子、山守誠、由比真美子、石田正彦、千葉一美（退職）、遠山知子（退職）、手塚隆久	暖地に適した無エルシン酸なたね新品種候補「東北 96 号」	参考成果		2013. 03
川崎光代、野中章久、小野洋	東北農研叢書「国産ナタネの現状と展開方向」 ・第Ⅲ部 第 3 章 品種改良の現状と課題 ・第Ⅵ部 第 3 章 第 2 節 第 2 項 品種改良	東北農研叢書「国産ナタネの現状と展開方向」	161-171、312-314	2013. 03
川崎光代 /CA、本田裕、山守誠、加藤晶子、由比真美子、石田正彦、千葉一美（退職）、遠山知子（退職）	越冬性が優れる無エルシン酸ナタネ品種「キタノキラメキ」の育成	東北農業研究センター研究報告	115、11-20	2013. 03
斉藤美香	糖や食物繊維が多く新たな加工特性を秘めた甘い小麦	東北農業研究センターたより	39、5	2013. 02
谷口義則、伊藤裕之、池永幸子	超強力小麦、菓子用、モチ性小麦など、いろいろな小麦の品質を調べてみよう	サマーサイエンスキャンプ 2012（東北農業研究センター）	2012. 8. 1-3	2012. 08
谷口義則	国産小麦への期待に応える「銀河のちから」と「ゆきはるか」	食のブランド・ニッポン 2012 食材紹介セミナー	2012. 11. 27	2012. 11
谷口義則	超強力小麦「銀河のちから」	平成 24 年度大潟村麦類種子生産組合総会における研修会	2013. 2. 8	2013. 02
谷口義則、中村和弘、伊藤裕之、平将人、中村俊樹、石川吾郎、吉川亮、八田浩一、前島秀和（長野県農業試験場）、伊藤美環子、中村洋、伊藤誠治	寒冷地向け超強力小麦新品種「銀河のちから」の育成	東北農業研究センター研究報告	115、21-36	2013. 03
中村俊樹、米丸淳一（異動）、石川吾郎、新畑智也（日本製粉株式会社）、斉藤美香、安田秀世（日本製粉株式会社）、瀬戸泰裕（日本製粉株式会社）、栗本洋一（日本製粉株式会社）、石原義和（日本製粉株式会社）	甘味性コムギ由来の小麦粉を含む穀粉組成物及びこれを使用した食品	オーストラリア	PCT/ JP2007/ 071322	2012. 06

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
中村俊樹、米丸淳一（農業生物資源研究所、異動）、石川吾郎、新畑智也（日本製粉株式会社）、斉藤美香、安田秀世（日本製粉株式会社）、瀬戸泰裕（日本製粉株式会社）、栗本洋一（日本製粉株式会社）、石原義和（日本製粉株式会社）	低温糊化性コムギ由来の小麦粉を含む穀粉組成物及びこれを使用した食品	オーストラリア	PCT/ JP2007/ 071321	2012. 06
本城正憲	寒冷地での栽培に適した四季成り性品種「なつあかり」「デコルージュ」、一季成り性品種「盛岡 35 号」	平成 24 年度農研機構シンポジウム「イチゴの安定生産技術と新品種育成の最前線」	2012. 10. 25	2012. 10
本城正憲	イチゴの品種判別に適した多型性の高い SSR マーカー	産学官連携のススメ リエゾン-I 研究シーズ集 2012	＊、104	2012. 09
本城正憲	イチゴの品種判別に適した多型性の高い SSR マーカー	東北農業研究センターたより	39、4	2013. 02
本田裕、川崎光代、山守誠、加藤晶子、由比真美子、石田正彦、千葉一美（退職）、遠山知子（退職）	キタノキラメキ	品種一品種登録出願	2012. 5. 31	2012. 09
本田裕	東北農業研究センターにおけるダイズ・ナタネ・ソバ・ハトムギの収集・保存・特性評価. 2. ナタネ	特産種苗	14、24-26	2012. 10
本田裕	東北農業研究センターにおけるダイズ・ナタネ・ソバ・ハトムギの収集・保存・特性評価. 3. ソバ	特産種苗	14、26	2012. 10
本田裕	東北農業研究センターにおけるダイズ・ナタネ・ソバ・ハトムギの収集・保存・特性評価. 4. ハトムギ	特産種苗	14、27	2012. 10
本田裕	農作業便利帖「ナタネ栽培」	(社)全国農業改良普及支援協会		2013. 01
本田裕	東北ソバ研究会における「東北ソバフォーラム」の報告と平成 24 年産ソバの品質評価	東北ソバ研究会	2013. 2. 26	2013. 02
本田裕	宮城県、山形県におけるジュズダマ探索	植物遺伝資源探索報告書	28、59-69	2013. 03
松尾健太郎、山崎篤、遠藤柳子（宮城県農業園芸総合研究所）、大沼康（宮城県農業園芸総合研究所）	「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の実証試験（伏せ込み促成アスパラガス）の紹介	news every（日本テレビ）	2013. 2. 20	2013. 02

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
山崎篤	夏秋どり栽培 ― 一季成り性品種	農業技術体系野菜編第3巻「イチゴ」	＊、169-176	2012. 12
山崎篤	外部資金獲得に関する事例（園芸）	機構本部産学官連携研修	2012. 12. 4-5	2012. 12
山崎篤	Recent progress of strawberry year-round production technology in Japan	JARQ	47、34-42	2013. 01
山崎篤	東北地域における新作型開発によるタマネギの端境期生産体系の確立について	秋田県ふるさと食材導入促進事業に関わる技術研修会	2013. 1. 21	2013. 01
山崎篤	タマネギ春まき作型の実際	相双地域雇用創造推進協議会：南相馬市タマネギの春まき栽培講演会	2013. 2. 7	2013. 02
山崎篤	タマネギ春まき作型の確立に向けて	相双地域雇用創造推進協議会：南相馬市タマネギの春まき栽培講演会	2013. 2. 28	2013. 02
山崎篤、松尾健太郎、遠藤柳子（宮城県農業園芸総合研究所）、小島由美子（宮城県農業園芸総合研究所）、大沼康（宮城県農業園芸総合研究所）	「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の実証試験（伏せ込み促成アスパラガス）の紹介	ニュース（宮城テレビ）	2013. 1. 29	2013. 01
山崎博子	ニンニク周年供給のための収穫後処理マニュアル 乾燥に関する研究資料 貯蔵に関する研究資料 出庫後の発根・萌芽を抑制する高温処理 高温処理に関する研究資料	ニンニク周年供給のための収穫後処理マニュアル	＊、14-36	2012. 02
庭田英子（青森県産業技術センター野菜研究所）、伊藤篤史（青森県産業技術センター野菜研究所）、山崎博子、八谷満	ニンニクのテンパリング乾燥による高品質化	普及成果情報		2013
山崎浩道	東北地方の気候を活かした一季成り性品種を用いた夏秋栽培技術	平成24年度農研機構シンポジウム イチゴの安定生産技術と新品種育成の最前線	2012. 10. 24	2012. 10

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
山崎浩道	東北の気象を活かした夏秋どりイチゴで産地活性化	平成 24 年度東北地域マッチングフォーラムー震災からの復興、さらにその先を目指してー	2012. 11. 30	2012. 11
山崎浩道	東北地方の気象条件を活かした一季成り性品種の夏秋栽培技術	施設と園芸	160、14-18	2013. 01
山崎浩道	東北地方の気象条件を活かした夏秋イチゴ栽培技術	震災復興に向けた提言（第 2 版）（農研機構）	＊、＊	2013. 03
由比進	東北生まれ 調理用トマト「すずこま」 めざせブランド化	河北新報	2012. 4. 5 6	2012. 04
由比進	地域食材資源論ー野菜ー	盛岡大学講義（計 3 回）	2012. 5. 25、6. 1、6. 8	2012. 05
由比進	新品種紹介 トマトすずこま	全国農業新聞	2012. 5. 11 5	2012. 05
由比進	トマトの旨さが丸ごと堪能できる「加熱調理用トマト」が流行中！	男子食堂（KK ベストセラーズ）	2012 年 13 号、7	2012. 06
由比進	低段密植・養液栽培用のクッキングトマト新品種「すずこま」	ニューカントリー	59 巻(8 月号)、62-63	2012. 07
由比進	食材最前線 開発物語 東北農業センター「なつあかり」	日経 MJ（流通新聞）	2012. 7. 30 14	2012. 07
由比進	クッキングトマトの栽培と流通	南三陸町仕事をつくる会	2012. 8. 21	2012. 08
由比進	「種苗読本」講義	種苗管理士講習会	2012. 9. 19	2012. 09
由比進	低段密植用クッキングトマトの新品種「すずこま」	リエゾナー I 研究シーズ集 2012	122	2012. 09
由比進	クッキングトマトの新品種「すずこま」	宮城野菜ソムリエの会 加熱用トマトすずこまを使ったフルコース料理研究会	2012. 10. 16	2012. 10
由比進	夢クローズアップ	広報しずくいし（雫石町）	2012 年 10 月号	2012. 10
由比進	やさいにだってワケがある 第 31 回 寒締め野菜	やさいの時間（NHK 出版）	2012 年 11 月号、86	2012. 10
由比進	クッキングトマトの新品種「すずこま」世界初の低段・密植養液栽培用トマト	農業日誌（農林統計協会）		2012. 10

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
由比進	加熱調理用トマト「すずこま」収穫祭	OH バンデス！（宮城テレビ）	2012. 10. 3	2012. 10
由比進	加熱しても美味 被災地で育つ新種トマト	ニュースアンサー（テレビ東京）	2012. 10. 16	2012. 10
由比進	「加熱調理トマトすずこま」によるフルコースの料理研究会と試食会	宮城県内のニュース（東日本放送）	2012. 10. 16	2012. 10
由比進	「加熱調理トマトすずこま」によるフルコースの料理研究会と試食会	宮城のニュース（宮城テレビ）	2012. 10. 16	2012. 10
由比進	クッキングトマトの新品種「すずこま」	ビジネスマッチ東北 2012	2012. 11. 8	2012. 11
由比進	期待の「すずこま」多方面の加熱食材に	福島民友新聞	2012. 12. 20 9	2012. 12
由比進	そのまま食べてはもったいないクッキングトマト・すずこま	現代農業	2013年2月号、 147-149	2013. 01
由比進、岡田益己（岩手大学農学部）、片岡園、岡本潔（長野県野菜花き試験場畑作部）	棟方向傾斜建築物	日本	2008-012587	2013. 01
由比進、片岡園、岡本潔（長野県野菜・花き試験場）、本城正憲	クッキングトマトの長期安定出荷を実現する極早生品種の育成	低コストで質の良い加工・業務用農産物の安定供給技術の開発	第1分冊（1系野菜）、 43-44	2013. 01
由比進	「すずこま」が生まれた訳	すずこまシンポジウム 被災農地復興作物「すずこま」 トマトの現状と未来を語る	2013.2.9	2013. 02
由比進	すずこまが生まれた訳	被災農地復興作物加熱調理トマト「すずこま」の将来を語るすずこまシンポジウム	2013. 2. 9	2013. 02
由比進	プロ向け食材 家庭でいかが	日経 MJ（日経流通新聞）	2013. 2. 4 14	2013. 02
由比進	業務用食材を家庭向けに。食材の使い途、限定せずに活かす。 調理専用のトマト「すずこま」	「森本毅郎・スタンバイ」の中のコーナー「現場にアタック」（TBS ラジオ）	2013. 2. 12	2013. 02

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
由比進	すずこま 普及策探る	河北新報	2013. 2. 14 16	2013. 02
由比真美子	にじゆたかー耐倒伏性で大粒の夏まき栽培用新品種	農業技術体系作物編第 7 巻 基礎編追録（農山漁村文化協会）	34、32-36	2012. 12

《畜産飼料作研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
秋山征夫 /CA、山田・秋山仁美（岩手大学）、木村健智（長岡技術科学大学）、久保田明人、上山泰史	Fluorescence in situ hybridization によるメドウフェスクおよびトールフェスクにおける余剰染色体の解析	日本草地学会誌	58、102-106	2012. 07
秋山征夫 /CA、木村健智（長岡技術科学大学）、久保田明人、山田・秋山仁美（岩手大学）、高原美規（長岡技術科学大学）、上山泰史	Genomic characteristics of a diploid F4 festulolium hybrid (Lolium multiflorum x Festuca arundinacea)	Genome	55、599-603	2012. 08
K. Rikimaru（秋田県畜産試験場）、今成麻衣、D. Takahashi（秋田県畜産試験場）、M. Komatsu（秋田県畜産試験場）、H. Sato（秋田県畜産試験場）、T. Miwa（Snow Brand Seed Co.）、M. Takayama（Snow Brand Seed Co.）、田村良文、渡邊彰	Effect of ‘Ceres Tonic’ (Plantago lanceolata) on lipid Oxidation in Chicken Meat	The 15th AAAP Animal Science Congress Proceedings	p. 2584-2588	2012. 11
魚住順、出口新、嶺野英子、金子真	ヘアリーベッチを用いたリビングマルチによる飼料用トウモロコシの雑草防除	日本草地学会誌	58、1-8	2012. 04
内野宙 /CA、嶺野英子、河本英憲、出口新、魚住順	No-herbicide forage soybean production system using Italian ryegrass as a living mulch	Proceedings of the 4th Japan-China-Korea Grassland Conference	＊、110-111	2012. 04

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
Karri Ramu/CA (ICRISAT)、 渡辺武 (JIRCAS)、内野 宙、Kanwar L. Sahrawat (ICRISAT)、Suhas P. Wani (ICRISAT)、伊藤治 (国連大 学サステイナビリティと平和研 究所)	Fertilizer induced nitrous oxide emissions from Vertisols and Alfisols during sweet sorghum cultivation in the Indian semi-arid tropics	Science of The Total Environment	438 (1)、9-14	2012. 11
河本英憲 /CA、嶺野英子、内 野宙、魚住順	Ensilage of forage soybean (Glycine max (L.) Merr.) by the corn harvesting system	Proceedings of the 4th Japan- China-Korea Grassland Conference Proceedings of the 4th Japan- China-Korea Grassland Conference	＊、142-143	2012. 04
白石昭彦	岩手町営牧野におけるボックス ラップによるアブ捕獲数の推移	北日本病害虫研 究会報	63、233-237	2012. 12
白石昭彦	放牧地におけるアブ類のウシ、ウマ、 ヒツジに対する吸血成功率の比較	東北農業研究	65、97-98	2012. 12
出口新、魚住順、嶺野英子、金 子真、俵谷圭太郎 (山形大学)	Arbuscular mycorrhizal colonization increased phosphorus uptake and growth of corn in a white clover living mulch system	Soil Science and Plant Nutrition	58、169-172	2012. 04
出口新、島崎由美、河本英憲、 田中治、魚住順	Effect of the rise of soil temperature due to compost application on corn growth in early- season culture	Preceedings of the 4th Japan- China-Korea Grassland Conference	＊、140-141	2012. 04
嶺野英子、魚住順、出口新、金 子真	北東北地域におけるフェストロリウ ム品種「東北1号」の最適刈取り体 系	日本草地学会誌	58 (1)、16-22	2012. 04
東山雅一、下田勝久 (国際農林 水産業研究センター)、池田堅 太郎	北上山地半自然草地における樹木の 当年生実生の動態に及ぼす放牧の影 響	日本草地学会誌	58 (4)、 215-220	2013. 01
深澤充 /CA	The calf training for loading onto vehicle at weaning	Animal Science Journal	83、759-766	2013. 02
福重直輝	寒冷地・厳冬期における簡易な堆肥 発酵停滞軽減技術	東北農業研究	65、103-104	2012. 08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
渡邊彰、今成麻衣、米内美晴、柴伸弥	Effects of α -tocopherol on lactone formation in marbled beef and changes in lactone volatility during storage	Journal of Food Science	77 (6)、 C627-631	2012. 06

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
秋山征夫、Shailendra Goel（デリー大学）、Joann A. Conner（ジョージア大学）、Wayne W. Hanna（ジョージア大学）、山田・秋山仁美（岩手大学）、Peggy Ozias-Akins（ジョージア大学）	Pennisetum、Cenchrus 属植物におけるアポスポリー特異的染色体とその系統解析	日本草地学会誌	58（別）、146	2012. 08
木村健智（長岡技術科学大学）、秋山征夫、久保田明人、藤森雅博、高原美規（長岡技術科学大学）、上山泰史	フローサイトメトリーによる東北地方自生クサヨシ（Phalaris arundinacea）のゲノムサイズ推定	日本草地学会誌	58（別）、22	2012. 08
秋山征夫、木村健智（長岡技術科学大学）、久保田明人、藤森雅博、高原美規（長岡技術科学大学）、上山泰史	リードカナリーグラスにおける 5S および 45S rDNA のマッピング	日本草地学会誌	59（別）、113	2013. 03
伊賀浩輔、志水学、福重直輝	オキシトシン感受性を利用した分娩後の子宮修復の進行に伴う機能回復の推定	The Journal of Reproduction and Development	58、J208	2012. 09
伊賀浩輔、志水学、福重直輝、竹之内直樹、平尾雄二	オキシトシン感受性を利用した受胎性評価の簡便化に向けた試み	第 28 回東日本家畜受精卵移植技術研究会大会要旨集	＊、82-83	2013. 02
今成麻衣、柴伸弥、米内美晴、渡邊彰	牛筋肉間における生鮮香気成分の違い	日本畜産学会第 116 回大会講演要旨	＊、201	2013. 03
魚住順、嶺野英子、出口新、内野宙	トウモロコシのかび毒産生に及ぼす品種と播種期の影響	日本草地学会誌	58（別）、38	2012. 08
内野宙、魚住順、嶺野英子、河本英憲、出口新	イタリアンライグラスをリビングマルチとして導入した不耕起栽培体系における飼料用大豆の生育特性	日本草地学会誌	58（別）、33	2012. 08
河本英憲、嶺野英子、内野宙、魚住順	大豆ホールクロップサイレージの刈取り時期が消化率とルーメン内発酵に及ぼす影響	日本草地学会誌	59（別）、99	2013. 03
久保田明人、秋山征夫、藤森雅博、田村健一	早生ライグラス系統の耐雪性	日本草地学会誌	58（別）、81	2012. 08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
久保田明人、秋山征夫、藤森雅博、清多佳子	フェストロリウムの単交配後代におけるフェスクゲノム割合（f 値）の変異幅	日本草地学会誌	59（別）、115	2013. 03
小松篤司	採食行動観察への採食・反芻時間測定装置の活用	獣医学術学会年次大会	＊、74-75	2013. 02
柴伸弥、松崎正敏（弘前大学）、房家シン（弘前大学）、鈴木裕之（弘前大学）、米内美晴、今成麻衣、渡邊彰	リンゴジュース粕アルコール発酵飼料の給与が日本短角種肥育牛の腰最長筋の肉質に及ぼす影響	東北畜産学会報	62 (2)、31	2012. 08
柴伸弥、今成麻衣、樋口幹人、米内美晴、渡邊彰	日本短角種における肥育中期の制限給餌がその後の増体、枝肉形質および肉質におよぼす影響	日本畜産学会第116回大会講演要旨	＊、137	2013. 03
志水学、伊賀浩輔、福重直輝、竹之内直樹	予め CIDR と PGF2 α を処置した黒毛和種過剰排卵処置法の検討	日本畜産学会第116回大会	＊、173	2013. 03
出口新、魚住順、内野宙、嶮野英子	寒冷地におけるマメ科緑肥作物ヘアリーベッチの導入がトウモロコシの初期生育に与える影響	日本草地学会誌	58（別）、89	2012. 08
嶮野英子、魚住順、河本英憲、内野宙、出口新	大豆ホールクロップサイレージ原料のフィトエストロゲン含量と飼料成分における品種間差異	日本草地学会誌	58（別）、34	2012. 08
東山雅一、高橋繁男（北海道）、出口新	シバ放牧草地における植生への傾斜度と傾斜方位の影響	日本草地学会誌 58（別号）	58（別号）、92	2012. 08
東山雅一	放牧草地の家畜生産に及ぼす草種と施肥量の影響（利用1年目）	日本草地学会誌	59（別号）、87	2013. 03
東山雅一	東北地域の公共牧場の現状と課題． 2．牧場での取り組み．事例紹介	日本草地学会	59（別号）、39	2013. 03
東山由美、小松篤司、深澤充	ウシの維持行動下における心拍変動	日本畜産学会第116回大会講演要旨	＊、231	2013. 03
深澤充	放牧地での行動制御	日本草地学会誌	59（別）、30	2013. 03
深澤充	あの牛を車に乗せろ	日本草地学会誌	59（別）、39	2013. 03
深澤充、小松篤司、東山由美	我が国における乳牛飼育者の酪農・乳牛に対する考え方	第116回日本畜産学会講演要旨集	＊、224	2013. 03
福重直輝、竹之内直樹、志水学、伊賀浩輔、平尾雄二	イベントデータロガーを利用した牛の発情発見装置の有効性	第116回日本畜産学会講演要旨	＊、171	2013. 03
福田栄紀	放棄地のクズ埋土種子の動態に及ぼす伐採、火入れ、羊放牧の影響	日本草地学会誌	58（別）、97	2012. 08
福田栄紀	ネムノキの肥培樹としての特性評価 樹冠内外に分布する寒地型牧草の生育特性の差違	日本草地学会誌	58（別）、29	2012. 08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
福田栄紀	寒地型牧草の肥料木・庇陰樹としてのネムノキの特性評価 ―樹冠内外のオーチャードグラスの生育特性の差―	日本草地学会誌	59（別）、9	2013. 03
藤森雅博、秋山征夫、久保田明人、上床修弘、我有満、山下浩	花粉・種子稔性のある三倍体ミスカンサス	日本草地学会誌	58（別）、151	2012. 08
藤森雅博、藤岡洋子（山梨酪試）、清多佳子、保倉勝己（山梨酪試）、荒川明	四倍体雄性不稔ペレニアルライグラスの育成 2. 四倍体雄性不稔個体の後代検定	日本草地学会誌	58（別）、150	2012. 08
藤森雅博、秋山征夫、久保田明人	ペレニアルライグラスを戻し交雑した新規フェストロリウム系統の耐暑性	日本草地学会誌	59（別）、116	2013. 03
山口学	放牧条件下で生まれた日本短角種子牛の発育特性	日本畜産学会第116回大会講演要旨	＊、137	2013. 03
金子真志保（岩手大学農学部）、岡田裕季（岩手大学農学部）、米内美晴、村元隆行（岩手大学農学部）	飼育形態の違いが日本短角種の肉質に及ぼす影響	日本畜産学会第116回大会講演要旨	＊、204	2013. 03
渡邊彰	東北農業研究センターにおける研究の歩み	第54回日本食肉研究会	2013. 3. 29	2013. 03
渡邊彰、鎌田豪（岩手大学）、今成麻衣、柴伸弥、米内美晴、村元隆行（岩手大学）	熟成期間が牛肉の焙焼香気に及ぼす影響	日本畜産学会第116回大会講演要旨	2012. 3. 29	2013. 03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
河本英憲、増田隆晴（岩手県）	くず大豆の飼料成分とサイレージ発酵特性、タンパク質画分	東北農業研究センター研究報告	115、63-69	2013. 03
久保田明人、上山泰史、秋山征夫、藤森雅博	四倍体イタリアンライグラス（ <i>Lolium multiflorum</i> Lam.）における高乾物率選抜の効果	東北農業研究センター研究報告	115、71-76	2013. 03
久保田明人	主題 新牧草フェストロリウム「東北1号」 副題 寒冷地の転作田や畑で3～5年採草	平成25年度版「農業日誌」	平成25年度版	2013
小松篤司、東山由美、深澤充、押部明德、加藤和雄（東北大学農学部）	ウシは採食および反芻行動中に血中遊離脂肪酸濃度が減少する。	参考成果		2013. 01

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
小松篤司	日本短角種去勢牛に対する圧碎稲わらの給与技術	東北農業試験研究推進会議 畜産推進部会	2013. 1. 30-31	2013. 01
柴伸弥	文献抄録	食肉の科学	53 (1)、 p80-81、85、 89、94、 107-108	2012. 06
柴伸弥	文献紹介	食肉の科学	53 (2)、 p224-225、 229、231、 234、238-240、 244、255	2012. 11
柴伸弥、渡邊彰、樋口幹人、今成麻衣	7. 放牧技術を取り入れた効率的テンダービーフ生産技術	農林水産技術会議事務局 粗飼料多給による日本型家畜飼養技術の開発－3系自給飼料多給を基本とした効率的な畜産物生産のための給与技術の開発 研究成果	488、p36-38	2013. 01
白石昭彦	ボックストラップによるアブ防除と留意点	シープ ジャパン	82、11-14	2012. 04
田中治、河本英憲、出口新、魚住順、中西載慶（東京農大）	サイレージ調製用添加剤及び該サイレージ調製用添加剤を用いるサイレージの調製方法並びにサイレージ調製用キット（特許第 4997467 号）	日本	2006-211278	2012. 05
田中治、河本英憲	ロイテリン生産性乳酸菌等を利用した寒冷地向け飼料用稲の高品質調製技術の開発	研究成果（農林水産技術会議事務局）	489、93-100	2013. 01
出口新	緑肥の導入によるトウモロコシへのリン酸施肥量削減の試み	国産飼料プロ現地検討会	2012. 8. 7	2012. 08
嶺野英子	新牧草品種・フェストロリウム「東北 1 号」の最適な利用法	東北農研センターたより	37、2	2012. 07
嶺野英子	東北に適した牧草刈りー東北 1 号試験栽培 農研機構が体系構築ー	化学工業日報	2012. 7. 31 5	2012. 07
嶺野英子	牧草「東北 1 号」の多収収穫	日本農業新聞	2012. 8. 1 14	2012. 08
嶺野英子	牧草新品種「東北 1 号」の収穫体系を確立	農業共済新聞	2012. 8. 1 9	2012. 08
嶺野英子	東北農研センター育成の「東北 1 号」高栄養で強い耐湿性	開拓情報	2012. 8. 15 6	2012. 08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
嶺野英子	フェストロリウム新品種「東北 1 号」	農業共済新聞	2012. 8. 15 10	2012. 08
嶺野英子	東北 1 号の最適な刈り方	農村ニュース	2012. 8. 20 8	2012. 08
嶺野英子	湿害に強い牧草フェストロリウムの新品種「東北 1 号」の最適な刈取り体系	平成 24 年度「自給飼料活用型 TMR センターに関する情報交換会」	2012. 12. 5	2012. 12
嶺野英子	湿害に強い牧草フェストロリウムの新品種「東北 1 号」の最適な利用法	畜産技術	694、2-5	2013. 03
東山雅一、下田勝久（国際農林水産業研究センター）、池田堅太郎	放牧による野草地のダケカンバ二次林化の防止機構	参考成果		2013. 03
東山雅一、下田勝久（国際農林水産業研究センター）、池田堅太郎	利用休止半自然草地における放牧再開が樹木の動態に及ぼす影響	畜産草地研究所資料	24 (7)、31-37	2013. 03
東山雅一、築城幹典（岩手大学）、高橋繁男（北海道）、池田堅太郎、成田大展、梨木守、金子真	利用休止半自然草地における放牧再開が植生の動態に及ぼす影響	畜産草地研究所資料	24 (7)、25-30	2013. 03
板野志郎、堤道生、坂上清一、中神弘詞、下田勝久（国際農林水産業研究センター）、富松元（国立環境研究所）、田中繁史（東北大学）、小倉振一郎（東北大学）、吉原佑（東北大学）、山本嘉人、東山雅一、池田堅太郎	川渡旧 IBP 地区におけるススキ型草地の植生遷移：2002-2011	畜産草地研究所資料	24 (7)、38-46	2013. 03
深澤充	牛を車に乗せる訓練で、楽々積み込み	東北農業研究センターたより	38、2	2012. 11
深澤充	【ぐっどアイデア】訓練で牛を楽に積み込み	全国農業新聞	2013. 1. 18 5	2013. 01
深澤充	飼主力ー酪農現場におけるストックマンシップの重要性ー	デーリィ・ジャパン	34-36	2013. 03
深澤充	飼い主とストレス	2012 年度東北農業研究センター動物実験従事者教育訓練	2013. 3. 13	2013. 03
福重直輝	よくわかる農業施設用語解説集	筑波書房	91-92	2012. 09
福重直輝	牛の発情を発見するセンサー	第 25 回岩手 Farm to table フォーラム研究会	2012. 10. 3	2012. 10

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
福重直輝	牛の発情を発見するセンサー	岩手県受精卵移植懇話会情報	* (7)、2-4	2012. 10
福重直輝	採食・反芻行動判定プログラム	富山県農林水産総合技術センター 畜産研究所		2012
福田栄紀、山崎浩二、的一司、川上千尋	可変式電気牧柵	日本	特許第 4982774 号	2012. 05
福田栄紀	木本萌芽に対するヒツジの採食状況をみる自然観察会	胆江日日新聞	2012. 10. 16 社会面	2012. 10
渡邊彰、米内美晴	牛肉の脂肪酸組成による肉質評価及び官能検査	国産の飼料米を使用した肉用牛の生産が肉質に及ぼす影響等に関する報告書	全国畜産農業協同組合連合会	2012. 06
渡邊彰	文献紹介	食肉の科学	53 (1)、80、89、90、93、104、110	2012. 06
渡邊彰	牛肉の香り（におい）について	九州・沖縄農業研究推進会議 畜産・草地推進部会肉用牛研究会	30 名	2012. 07
渡邊彰	給与飼料と食肉のにおい	食肉の科学	53 (2)、163-170	2012. 11
渡邊彰	文献紹介	食肉の科学	53 (2)、225、237、238、244、252、253、255	2012. 11
渡邊彰、柴伸弥、樋口幹人、今成麻衣	香りや柔らかさを改善する放牧飼養技術の開発	研究成果 粗飼料多給による日本型家畜飼養技術の開発－2 系自給飼料多給を基本とした効率的な畜産物生産のための給与技術開発－	487、111-116	2013. 01
渡邊彰	研究情報：牛肉の香り「ラクトン」	たより 39 号	39、2	2013. 02

《生産環境研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
加藤邦彦 /CA、井上京（北海道大学）、家次秀浩（（株）たすく）、木場稔信（道立北見農試）、佐々木仁（（株）中山組）、宮地直道（日本大学）、北川勝治（（株）たすく）、Pradeep K. Sharma（北海道大学）、長澤徹明（北海道大学）	Performance of six multi-stage hybrid wetland systems for treating high-content wastewater in the cold climate of Hokkaido, Japan	Ecological Engineering	51、256-263	2013. 02
川方俊和	多項式で表した作物の発育速度の線形最小二乗法を用いた計算方法	生物と気象 (Climate in Biosphere)	12、52-58	2012. 08
神田英司、木村利行（青森県農総研）、及川あや（岩手県農研セ）、大川茂範（宮城県古川農試）、佐々木次郎（宮城県古川農試）、浅野真澄（宮城県古川農試）、佐藤雄幸（秋田県農技セ）、金和裕（秋田県農技セ）、藤井弘志（山形大）、藤村恵人（福島県農総セ）、鈴木幸雄（福島県農総セ）、濱寄孝弘、根本学、下野裕之（岩手大）	イネ穂ばらみ期耐冷性の地域間の変動要因と栄養生長期の温度環境の関係	日本作物学会紀事	81 (2)、 190-193	2012. 04
岡秀一（専修大学）、菅野洋光	Plant community dynamics and microtopography close to the tree line on the northwestern slope of Mt. Fuji, central Japan.	地理学評論	Ser. B、85 (1)、 29-38	2012. 12
松田裕之（山形県農業総合研究センター）、早坂剛（山形県農業改良普及センター）、今田孝弘（山形県農業総合研究センター）、浅野真澄（宮城県古川農業試験場）、森静香（山形大学農学部）、安藤豊（山形大学農学部）、藤井弘志（山形大学農学部）、菅野洋光	Relationship between recent trends in climate conditions and rice quality in the Southern Tohoku region	Journal of Agricultural Meteorology	68 (4)、 195-204	2012. 12
Tacarindua, C.P (Kyoto University)、白岩立彦 (Kyoto University)、本間香貴 (Kyoto University)、熊谷悦史、鮫島良次（北海道大学）	The response of soybean seed growth characteristics to increased temperature under near-field conditions in a temperature gradient chamber	Field Crops Research	131、26-31	2012. 05

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
下野裕之 /CA (岩手大学農学部)、熊谷悦史、君成田陸 (宮古農業改良普及センター)、伊藤美穂 (久慈農業改良普及センター)、高橋好範 (久慈農業改良普及センター)、佐々木信広 (岩手大学農学部)、洞井翔 (岩手大学農学部)	東日本大震災による津波被害を受けた岩手県沿岸の水田の除塩基準への温度影響	日本作物学会紀事	81、441-448	2012. 10
小林隆、兼松誠司、関矢博幸	有機栽培に使用できるケイ酸資材のイネいもち病防除効果	北日本病害虫研究会報	63、22-26	2012. 12
櫻井民人、勝山直樹 (岐阜県農業技術センター)、津田新哉	施設栽培シシトウのミカンキイロアザミウマ防除に有効なアカメガシワクダアザミウマの放飼頭数	北日本病害虫研究会報	63、177-180	2012. 12
菅原幸哉	イネ科草本植物の共生糸状菌；遺伝子とその発現の解析から探る，植物に取り込まれた病原糸状菌の作用と共進化	植物感染生理談話会論文集	47、125-134	2012. 08
C.L. Schardl ¹ 、C.A. Young ² 、U. Hesse ³ 、S.G. Amyotte ⁴ 、K. Andreeva ⁵ 、P.J. Calie ⁶ 、D.J. Fleetwood ⁷ 、D.C. Haws ⁸ 、N. Moore ⁹ 、B. Oeser ¹⁰ 、D.G. Panaccione ¹¹ 、K.K. Schweri ¹² 、C.R. Voisey ¹³ 、M.L. Farman ¹⁴ 、J.W. Jaromczyk ¹⁵ 、B.A. Roe ¹⁶ 、D.M. O' Sullivan ¹⁷ 、B. Scott ¹⁸ 、P. Tudzynski ¹⁹ 、Z. An ²⁰ 、E.G. Arnaoudova ²¹ 、C.T. Bullock ²² 、N.D. Charlton ²³ 、L. Chen ²⁴ 、M. Cox ²⁵ 、R.D. Dinkins ²⁶ 、S. Florea ²⁷ 、A.E. Glenn ²⁸ 、A. Gordon ²⁹ 、U. Güldener ³⁰ 、D.R. Harris ³¹ 、J. Jaromczyk ³² 、R.D. Johnson ³³ 、A.K. Khan ³⁴ 、E. Leistner ³⁵ 、A. Leuchtmann ³⁶ 、C. Li ³⁷ 、J-G. Liu ³⁸ 、J. Liu ³⁹ 、M. Liu ⁴⁰ 、W. Mace ⁴¹ 、C. Machado ⁴² 、P. Nagabhyru ⁴³ 、J. Pan ⁴⁴ 、J. Schmid ⁴⁵ 、菅原幸哉 ⁴⁶ 、U. Steiner ⁴⁷ 、J.E. Takach ⁴⁸ 、E. Tanaka ⁴⁹ 、J.S. Webb ⁵⁰ 、E.V. Wilson ⁵¹ 、J. Wiseman ⁵² 、R. Yoshida ⁵³ 、Z. Zeng ⁵⁴	Plant-symbiotic fungi as chemical engineers: Multi-genome analysis of the Clavicipitaceae reveals dynamics of alkaloid Loci. 1、3、4、5、8、9、12、14、15、21、22、24、27、31、32、38、40、42、43、44、50、51、52、53、54 (Univ.Kentucky, USA)、2、23、48 (S.R.Noble Foundation)、6 (East. Kentucky Univ.)、7 (Univ. Auckland)、10 (Univ.Muenster)、11、19 (West Virginia Univ.)、13、33、41 (AgResearch Ltd, NZ)、16 (Univ.Oklahoma, USA)、17、29 (Ntl.Inst.Ag.Bot., UK)、18、25、45 (Ntl.Inst.Ag.Bot., UK)、20 (Univ.TX Health S.C.)、26、28 (Univ.TX Health S.C.)、30 (IBSB, Germany)、34 (Invermay Agr.Ct., NZ)、35、47 (Universitaet Bonn)、36 (IIB, Switzerland)、37 (Lanzhou Univ., China)、49 (Ishikawa Pref. Univ.)	PLoS Genetics	9 (2)、 e1003323.	2013. 02
戸上和樹、吉住佳与 (宮城県大崎農業改良普及センター)、工藤一晃、青木和彦、三浦憲蔵	Bland-Altman 分析による土壌 pH を考慮した野菜可食部カドミウム濃度予測のための土壌抽出法の検証	日本土壌肥料学雑誌	83 (5)、 564-573	2012. 10

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
青木和彦、吉住佳与、三浦憲蔵	夏作コマツナおよびハウレンソウのカドミウム濃度と地温との関係	日本土壌肥料学会東北支部大会 平成 24 年度青森大会	＊、5	2012. 07
青木和彦、戸上和樹、三浦憲蔵	冬作ハウレンソウの収穫前低温処理によるカドミウム濃度の低減	日本土壌肥料学会講演要旨集	58、169	2012. 09
加藤邦彦、井上京(北海道大学)、家次秀浩(㈱たすく)、北川勝治(㈱たすく)、木場稔信(道立北見農試)、横田岳史(元北海道農研)、菅原保英、角田沙織(日本大学)、高原篤司(日本大学)、郭恵城(㈱たすく)	伏流式人工湿地ろ過システムによる酪農排水の処理、極寒の道東における開始 6 年間の水質浄化効果	平成 24 年度日本土壌肥料学会東北支部会	24、10	2012. 07
加藤邦彦	有機性排水処理のための伏流式人工湿地システムの設計および管理方法、－北海道における 11 カ所の現地実証の経験から－	第 7 回人工湿地ワークショップ	7、1	2012. 08
櫻木宏明(北海道大学)、井上京(北海道大学)、加藤邦彦、横田岳史(元北海道農研)、呉姐(北海道大学)、家次秀浩(㈱たすく)、プラディーブ シャルマ(北海道大学)	浄化槽処理水と面源負荷の処理を目的としたハイブリッド伏流式人工湿地の最初の 2 年間の性能評価	農業農村工学会大会講演会講演要旨集	＊、564-565	2012. 09
井上京(北海道大学)、加藤邦彦、浦家奈々(北海道大学)、櫻木宏明(北海道大学)、呉姐(北海道大学)、Pradeep K. Sharma (Graphic Era Univ.)	多雪寒冷条件下にあるハイブリッド伏流式人工湿地による 5 年間の酪農パーラー排水浄化の経過	農業農村工学会大会北海道支部会講演集	＊、112-115	2012. 10
櫻木宏明(北海道大学)、井上京(北海道大学)、加藤邦彦、呉姐(北海道大学)、プラディーブ シャルマ(北海道大学)	ハイブリッド伏流式人工湿地による低濃度汚濁負荷の浄化	農業農村工学会北海道支部会講演集	＊、108-111	2012. 10
加藤邦彦、井上京(北海道大学)、家次秀浩(㈱たすく)、佐々木仁(環境エンジニアリング㈱)、北川勝治((株)たすく)、Pradeep K. Sharma (Graphic Era Univ.)	Design and performance of hybrid wetland systems for high-content wastewater treatment in the cold climate of Hokkaido, northern Japan	13th International Conference on Wetland Systems for Water Pollution Control	＊、1-10	2012. 11
井上京(北海道大学)、加藤邦彦、原田純(北海道大学)、浦家奈々(北海道大学)、櫻木宏明(北海道大学)、呉姐(北海道大学)、プラディーブ シャルマ(北海道大学)、家次秀浩(㈱たすく)	ハイブリッド型伏流式人工湿地による酪農パーラー排水浄化処理の 6 年間の経過	第 47 回日本水環境学会	47、308	2013. 03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
加藤邦彦、井上京（北海道大学）、家次秀浩（㈱たすく）、北川勝治（㈱たすく）、櫻木宏明（北海道大学）、呉姐（北海道大学）、原田純（北海道大学）、富山貢（北海道大学）、菅原保英、岡崎圭毅、中村卓司、信濃卓郎	ハイブリッド型伏流式人工湿地ろ過システムによる養豚尿液の処理効果	第 47 回日本水環境学会	47、309	2013. 03
辻盛生（岩手県立大）、加藤邦彦、佐々木理史（小岩井農牧㈱）、菊池福道（小岩井農牧㈱）	鶏舎洗卵場排水に適用した鉛直流式人工湿地の効果	第 47 回日本水環境学会	47、311	2013. 03
川方俊和	東北地方の水稻の耕種期日の予測モデルの開発	農業環境工学関連学会 2012 年合同大会プログラム	＊、59	2012. 09
川方俊和	東北地方の水稻の出穂期と刈取期の予測モデル	日本農業気象学会 2013 年度全国大会	＊、75	2013. 03
神田英司、菅野洋光、渡部雅浩（東京大学大気海洋研究所）	MIROC5 による青森県八戸における冷害リスク判定の試み	日本気象学会 2012 年度春季大会講演予稿集	＊、192	2012. 05
長谷川友香（山形大）、神田英司、森静香（山形大）、藤井弘志（山形大）	異なる栽植密度が穂温および収量・品質に及ぼす影響	日本作物学会紀事	81（別 2）、204-205	2012. 09
神田英司	Early-warning system against cool weather damages in rice production （早期警戒システムの現況）	JIRCAS International Symposium "Resilient Food Production System ? Roles of Agricultural Technology Development in Developing Regions"	29-31	2012. 11
神田英司、菅野洋光、渡部雅浩（東京大学大気海洋研究所）	MIROC5 による冷害リスク判定の試み	2012 年度日本農業気象学会東北支部大会	＊、＊	2012. 11
松田晃（山形県）、神田英司	出穂後の気温条件に基づく高温障害リスクの地理的分布	日本作物学会紀事	82（別 1）．＊	2013. 03
松田晃（山形県）、神田英司	近年の気象傾向における「はえぬき」に適した移植時期	日本作物学会紀事	82（別 1）．＊	2013. 03
神田英司、小林隆	履歴時期の低水温による節間長と穂ばらみ期耐冷性への品種間差	日本作物学会紀事	82（別 1）．340-341	2013. 03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
神田英司、菅野洋光	MIROC5 による東北地方における 冷害リスク判定の試み	日本農業気象学 会 2013 年全国 大会講演要旨	＊、78	2013. 03
菅野洋光	北日本における 4 月と 8 月気温の強 い相関関係と大規模場の関係	日本気象学会 2012 年度春季大 会講演予稿集	＊、64	2012. 05
西尾善太、廣田知良、菅野洋光	近年の北海道における春季と夏季の 気温の関係 ー秋まき小麦の高温対 策に向けてー	日本気象学会 2012 年度春季大 会講演予稿集	＊、191	2012. 05
梅津千恵子（長崎大学）、石 本雄大（総合地球環境学研 究所）、菅野洋光、Thamana Lekprichakul（総合地球環境学 研究所）、宮寄英寿（総合地球 環境学研究所）、櫻井武司（一 橋大学）、真常仁志（京都大学）、 山内太郎（北海道大学）	Building farmer's resilience to food insecurity in Southern Zambia under rainfall variability	World Water Week 2012: Water and Food Security、 Stockholm、 Sweden	＊、＊	2012. 08
菅野洋光	Google Map による気象予測データ を利用した農作物警戒情報システム の開発	第 36 回酒米研 究会講演要旨集	＊、29-32	2012. 09
菅野洋光、渡部雅浩（東京大学 大気海洋研究所）	主成分分析を用いた MIROC5 によ るヤマセ型気圧配置の再現性	農業環境工学関 連学会 2012 年 合同大会	CD-ROM	2012. 09
大久保さゆり、菅野洋光、小林 隆、福井真（東北大学）、沢田 雅洋（東北大学）、岩崎俊樹（東 北大学）	アンサンブル予測実験とダウンス ケーリングを用いたイネいもち病感 染危険度の予測	日本気象学会 2012 年度春季大 会講演予稿集	＊、421	2012. 10
大久保さゆり、菅野洋光、小林 隆、福井真（東北大学）、岩崎 俊樹（東北大学）	アンサンブル予測実験結果と力学的 ダウンスケールによるイネ葉いもち 病 2 週間予測の試行	日本地理学会 2013 年春季学術 大会講演要旨集	83、73	2013. 03
工藤一晃、戸上和樹、青木和彦、 吉住佳与（宮城県 大崎農業改 良普及センター）、三浦憲蔵	ダイズのカドミウム吸収に影響を与 える土壌深度	日本土壌肥料学 会講演要旨集	58、170	2012. 09
白岩立彦（京都大学農学部）、 本間香貴（京都大学農学部）、 鮫島良次（北海道大学）、島田 信二、熊谷悦史	ダイズ栽培における生育段階別気象 要因の変動と作期移動効果	第 234 回日本作 物学会講演会口 頭発表	81（別 2）、 32-33	2012. 09
熊谷悦史	高温・土壌乾燥がダイズの生育に及 ぼす影響	日本農業気象学 会 2012 年東北 支部会口頭発表	57、13-14	2012. 10
熊谷悦史	クロロフィル蛍光解析を利用したイ ネ品種の個葉光合成能の評価	日本作物学会第 235 回講演会口 頭発表	82（別 1）、 484-485	2013. 03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
熊谷悦史、本間香貴(京都大学)、 鮫島良次(北海道大学)、白岩 立彦(京都大学)	北日本における温暖化と作期移動が ダイズ発育に及ぼす影響-発育モデ ルによる評価	日本農業気象学 会 2013 年全国 大会ポスター発 表	*, 71	2013. 03
小林隆、大久保さゆり、大場淳 司(宮城県)、菅野洋光、兼松 誠司	1978-2010 年の葉いもち発生予測シ ステム BLASTAM を用いた東北地 方における葉いもち発生地域区分	日本植物病理学 会報	78 (3)、 247-248	2012. 08
倉内賢一(青森産技セ農林総 研)、小林隆、山田真孝(福島 農総セ)、兼松誠司	Google マップ農作物警戒情報シス テムを利用したイネいもち病適期防 除の検討	第 66 回北日本 病害虫研究発表 会	*, *	2013. 02
榊原充隆	ヤブレガサをさらにぼろぼろにする 謎のノメイガ	東北昆虫(日本 昆虫学会東北支 部会報)	49/50、9	2012. 08
安田耕司(農業環境技術研究 所)、榊原充隆、菊地淳志、水 谷信夫、菊池彰夫、大木信彦、 松村正哉	Moths and butterflies feeding on wild soybean Glycine soja Sieb. and Zucc. in Japan	The Monsoon Asia Agro- Environmental Research Consortium Symposium 2012	*, 2-3	2012. 09
榊原充隆	遅く生まれた子が内的自然増加率を 低下させる、近似計算法の落とし穴	日本応用動物昆 虫学会講演要旨 集	57、129	2013. 03
櫻井民人、勝山直樹(岐阜県農 業技術センター)、津田新哉	施設シシトウ有機栽培における土着 天敵アカメガシワクダアザミウマの アザミウマ類防除効果	第 13 回日本有 機農業学会大会 資料集	13、112-113	2012. 12
櫻井民人、関矢博幸、兼松誠司、 田淵研、榊原充隆	カスミカメムシ類の加害による斑点 米発生に対するケイ酸質資材として の籾殻灰の投入効果	北日本病害虫研 究会報(第 66 回北日本病害虫 研究発表会)	64、*	2013. 02
藤本顕次(京都府立大学)、岡 留和伸(京都府農林水産技術セ ンター)、櫻井民人、中尾史郎(京 都府立大学)	アカメガシワクダアザミウマ雌成虫 の休眠性における地理的変異	第 57 回日本応 用動物昆虫学会 大会講演要旨集	57、26	2013. 03
櫻井民人、杉山充啓	ミナミキイロアザミウマ虫媒性に対 するメロン黄化えそウイルス抵抗性 キュウリ品種の評価	第 57 回日本応 用動物昆虫学会 大会講演要旨集	57、107	2013. 03
菅原幸哉、小林隆、関矢博幸、 兼松誠司、中山壮一	籾殻灰の施用によるイネいもち病の 発生軽減効果	平成 25 年度 日本植物病理学 会大会 講演要 旨予稿集	*, 136	2013. 03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
田渕研、滝久智（（独）森林総合研究所）、岩井秀樹（元中央農研）、水谷信夫、長坂幸吉、守屋成一、佐々木力也（（株）富士フレイバー）	Detecting source habitat of the bean bug <i>Riptortus pedestris</i> and its egg parasitoid: toward area-wide pest management using natural pest control	XXIV International Congress of Entomology	＊、93	2012. 08
大村彰（帯畜大）、仲島義貴（帯畜大）、赤坂卓美（北大）、滝久智（森林総研）、田渕研	周辺環境がイネの主要害虫 2 種の個体数におよぼす影響	2012 年度日本応用動物昆虫学会・日本昆虫学会共催北海道支部会大会	＊、＊	2013. 08
岩田大介（新潟県農総研作物研）、石本万寿広（新潟県農総研作物研）、田渕研	水田畦畔の植生がアカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメの密度に与える影響	北陸病害虫研究会報（第 65 回北陸病害虫研究会）	62、＊	2013. 02
村上太郎（岩手防除所）、田渕研、横田啓（岩手農研）、矢戸貴洋（岩手防除所）	発生予察におけるアカスジカスミカメのフェロモントラップの有効性（第 2 報）	北日本病害虫研究会報（第 66 回北日本病害虫研究発表会）	64、＊	2013. 02
田渕研、榊原充隆、安田哲也、望月文昭（信越化学）	アカスジカスミカメの新旧フェロモン剤による誘殺消長の比較：水田と牧草地における調査から	北日本病害虫研究会報（第 66 回北日本病害虫研究発表会）	64、＊	2013. 02
岩田大介（新潟農総研作物研）、石本万寿広（新潟農総研作物研）、田渕研、安田哲也、望月文昭（信越化学）	アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメの水田内発生量に影響を及ぼす要因	第 57 回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	＊、64	2013. 03
仲島義貴（帯畜大）、大塚彰（帯畜大）、赤坂卓美（北大）、滝久智（森林総研）、田渕研	非農耕地と周辺作物が北海道の水田害虫の個体数に及ぼす影響	第 57 回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	＊、155	2013. 03
田渕研、榊原充隆、村上太郎（岩手防除所）、安田哲也、望月文昭（信越化学）	カスミカメムシ 2 種のトラップ誘殺数に対する発生源面積の影響：機能的空間スケールを意識した発生予察へ向けて	第 57 回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨	＊、61	2013. 03
戸上和樹、工藤一晃、青木和彦、三浦憲蔵	ダイズ子実中重金属濃度に及ぼす地下水位と土壌 pH の影響	日本土壌肥料学会東北支部会平成 24 年度青森大会	＊、14	2012. 07
戸上和樹、吉住佳与（宮城県大崎農業改良普及センター）、工藤一晃、青木和彦、三浦憲蔵	各種無機質資材施用によるカドミウム吸収抑制効果の比較	日本土壌肥料学会講演要旨集	58、149	2012. 09
三浦憲蔵、吉住佳与（宮城県北部地方振興事務所）、戸上和樹、工藤一晃、青木和彦、松尾健太郎、屋代幹雄	苦土石灰のうね内部分施用によるダイズ栽培期間の土壌 pH の推移	日本土壌肥料学会講演要旨集	58、148	2012. 09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
三浦憲蔵、吉住佳与（宮城県北部地方振興事務所）、戸上和樹、工藤一晃、青木和彦、松尾健太郎、屋代幹雄	Reduction of the Cadmium Concentration in Soybean Seeds by Use of the Partial Mixing Technique	Proceedings of MARCO Satellite International Symposium 2012	＊、43-46	2012. 10

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
青木和彦	寒締め野菜の作り方 ①寒さが品質を高める	農業共済新聞	2013. 1. 16 13	2013. 01
青木和彦	寒締め野菜の作り方 ②安全安心で低コストな栽培法	農業共済新聞	2013. 1. 23 9	2013. 01
青木和彦	あさイチ・スゴ技 Q 「冬に負けない！ほうれんそうパワー活用術」	NHK 総合テレビ	2013. 1. 29	2013. 01
青木和彦	寒締め野菜の作り方 ③活用法と注意点、品質管理	農業共済新聞	2013. 1. 30 13	2013. 01
青木和彦	寒締め野菜のおいしさの秘密と栽培方法	周年農業実現事業人材育成セミナー 厳冬期の無加温栽培挑戦講座	2013. 2. 4	2013. 02
加藤邦彦	伏流式人工湿地ろ過システムによる排水処理の可能性	デーリィマン	62 (6)、38-39	2012. 06
加藤邦彦、眞岡哲夫、中山尊登、岡崎圭毅、中村卓司、菅原保英、山崎真、信濃卓郎、井上京（北海道大学）、家次秀浩（㈱たすく）、北川勝治（㈱たすく）、滝沢秀樹（㈱中山組）、佐々木仁（環境エンジニアリング㈱）	超高濃度有機性排水を浄化できるハイブリッド伏流式人工湿地ろ過システム	参考成果		2013. 03
門田育生、石川亮（住友化学株式会社）	植物病害防除用組成物	特許一登録	特許第 5010204	2012. 06
門田育生	土づくりに含まれる技術要素が土壌病害の発病程度に与える影響	土づくりとエコ農業	44 (5)、9-14	2012. 09
神田英司	Google マップによる気象予測データを用いた双方向型水稻気象被害軽減システムの開発	小牛田地域集団転作推進協議会	2012. 8. 21	2012. 08
神田英司	気象変動と早期警戒システムの現況について	気象変動に対応した水稻高品質安定生産セミナー（宮城県）	2013. 1. 22	2013. 01

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
菅野洋光	コラム～交通政策審議会気象分科会の提言に寄せて～	気象業務はいま 2012	＊、77-78	2012. 06
梅津千恵子（長崎大学）、石本雄大（総合地球環境学研究所）、菅野洋光、Thamana Lekprichakul（総合地球環境学研究所）、宮寄英寿（総合地球環境学研究所）、櫻井武司（一橋大学）、真常仁志（京都大学）、山内太郎（北海道大学）	Building farmer's resilience to food insecurity in Southern Zambia under rainfall variability	Best Poster Award、2012 World Water Week in Stockholm	Director、World Water Week and Prizes	2012. 08
菅野洋光、プリマ・オキ・ディッキ（岩手県立大学）、海田俊輝（東北大学）、バユ・ドワイ・アプリ・スグロホ（岩手大学）	モンスーンアジアのフードと風土 第 1 章 インドネシアにおける農作物生産量変動とテレコネクションパターン	明石書店	23-35	2012. 09
菅野洋光	地球温暖化と農業	気象庁仙台管区 気象台主催、平成 24 年度管区地球環境業務研修	2012. 10. 16	2012. 10
菅野洋光	北海道の気象と農業 第 2 章 3 冷害を引き起こす気象	北海道新聞社	77-81	2012. 11
菅野洋光	北海道の気象と農業 第 4 章 11 冷害に対する早期警戒システム	北海道新聞社	241-245	2012. 11
菅野洋光	水稻冷害早期警戒情報作成への 2 週間目予測の活用	平成 24 年度気候講演会（気象庁）	2013. 1. 18	2013. 01
三浦憲（一橋大学経済研究所）、菅野洋光、櫻井武司（一橋大学経済研究所）	Shock and livestock transactions in rural Zambia: Re-examination of the buffer stock hypothesis	2013 年度日本農業経済学会学会誌賞	日本農業経済学会	2013. 03
熊谷悦史	CO ₂ 濃度増大と気温上昇がダイズ子実の生産と窒素濃度に及ぼす影響に関する研究	日本農業気象学会 奨励賞	日本農業気象学会	2013. 03
小林隆	イネ紋枯病 発生と防除対策	新農林技術新聞	2012. 6. 15 8	2012. 06
小林隆	Google マップを使った新システム	農林水産省広報 aff	2012 (7)、12	2012. 07
小林隆	気象予測データを利用した水稻栽培管理情報システムによる気象変動対策	2012 年度第 2 回農研機構産学官連携交流セミナー	2012. 7. 25	2012. 07

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
小林隆	Google マップによる気象予測データを用いた水稻栽培管理情報システムー水稻の生育、冷害・高温障害、病害発生を予測するー	平成 24 年度庄内水田農業推進機構ワークショップ	2012. 11. 28	2012. 11
小林隆	Google マップによる気象予測データを用いた水稻栽培管理情報システム	第 13 回岩手農林研究協議会（AFR）シンポジウム	2012. 11. 16	2012. 11
小林隆	Google マップによる水稻栽培管理情報システム	グリーンレポート	522、10-11	2012. 12
小林隆、笹原剛志（宮城県古川農業試験場）、神田英司、兼松誠司、石黒潔、菅野洋光	出穂後の積算気温と穂いもち感受性の関係	第 5 回北日本病害虫研究会賞研究報文部門病害分野賞	北日本病害虫研究会	2013. 02
小林隆	水稻の病害対策	日本農業新聞	2013. 2. 21 16	2013. 02
榊原充隆	斑点米カメムシ類 発生生態と防除対策	新農林技術新聞	2012. 6. 15 12	2012. 06
榊原充隆	水稻栽培後期における病害虫防除のポイント 虫害編	農業共済新聞	2012. 6. 27 7	2012. 06
榊原充隆	水稻の斑点米カメムシ防除	農業共済新聞	2012. 7. 11 10	2012. 07
榊原充隆	斑点米カメムシ類の発生動向と防除のポイント	日本農業新聞	2012. 7. 24 4	2012. 07
榊原充隆	良いカメムシ、悪いカメムシー田畑で見かけるカメムシ類の多様性ー	土日環境学習講座（岩手県環境学習交流センター）	2012. 8. 18	2012. 08
榊原充隆	農業に有用な生物多様性指標について	環境保全型農業の推進に関わる「指標生物」研修会（ASAC）	2012. 8. 29	2012. 08
榊原充隆	水稻害虫の発生生態と防除対策	米麦改良	*、19-27	2012. 08
榊原充隆	水稻害虫の発生動向と効果的な防除対策	日本農業新聞	2013. 2. 21 16-17	2013. 02
櫻井民人	アカメガシワクダアザミウマを用いた施設シトウ栽培におけるアザミウマ類の防除	植物防疫	66（7）、 357-360	2012. 07

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
櫻井民人	ブースター天敵を活用した天敵昆虫 利用技術の開発と実用化	農林水産省委託 プロジェクト 「気候変動プロ： 低投入・循環型 分野 B-3 系（有 機農業型）」平 成 24 年度現地 研究会	2012. 7. 9-10	2012. 07
櫻井民人、関矢博幸	斑点米カメムシ対策：有機栽培への 応用へ向けて(1)土壌のケイ酸供給力 に基づく斑点米被害抑制技術	平成 24 年度産 地収益力向上支 援事業（有機農 業推進事業）有 機栽培技術試験 研究成果発表会	2013. 2. 18	2013. 02
菅原幸哉、荒川明、柴卓也	エンドファイトを活用した耐虫性イ タリアンライグラス系統の育成	粗飼料多給によ る日本型家畜飼 養技術の開発ー 1 系 自給飼料 の生産量・質の 画期的な向上に よる TDN 増産 技術の開発ー （農林水産技術 会議 プロジェ クト研究成果シ リーズ 第 486 集 第 1 分冊）	＊、118-124	2012. 10
田渕研	斑点米カメムシ類の個体数に及ぼす 景観要素と空間スケール：広域害虫 管理へのアプローチ	帯広畜産大学環 境生態学分野 特 別セミナー	2012. 6. 15	2012. 06
Satoru Sato (Yamagata Univ.)、田渕研、Yukie Kajita (Univ. of Kentucky)	Effects on agriculture, research facilities, and universities in Tohoku region. Instant symposium: The impacts of the Japan 3.11 Earthquake and Disaster on Entomologists, Research, and Society.	American Entomologist	58 (3)、 153-154	2012. 10
田渕研	虫こぶ形成昆虫と害虫カメムシの生 態学：シカとの生物間相互作用から 広域害虫管理まで	もりゼミ：森林 総合研究所 東北 支所セミナー	2012. 10. 22	2012. 10
田渕研	斑点米カメムシ対策：有機栽培への 応用へ向けて (2)水田周辺環境に着 目したカスミカメ対策	有機農業病害虫 防除研究成果発 表会および研修 会	2013. 2. 18	2013. 02

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
戸上和樹、吉住佳与（宮城県大崎農業改良普及センター）、工藤一晃、青木和彦、三浦憲蔵	土壌 pH 上昇による野菜可食部カドミウム濃度低減効果の品目間差異	参考成果		2013. 03
三浦憲蔵	農産物の生産段階におけるカドミウムのリスク低減技術の現状と課題（総説）	再生と利用	37（138）、79-84	2013. 01
三浦憲蔵、吉住佳与（宮城県北部地方振興事務所）、戸上和樹、工藤一晃、青木和彦	大豆連作による減収要因の解明と安定生産のための土壌管理法の策定	研究成果第 485 集「低コストで質の良い加工・業務用農産物の安定供給技術の開発 第 2 分冊（2 系 大豆、3 系 畑作物、4 系 稲、5 系 モデルコンソーシアム）」	485、82-84	2013. 01

《水田作研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
大平陽一、佐々木良治（農林水産省 農林水産技術会議事務局）、竹田博之	作期が異なる圃場栽培条件におけるタンパク質変異米水稻品種の米粒のタンパク質組成とタンパク質含有率の変動要因	日本作物学会紀事	82（1）、18-27	2013. 01
片山勝之、大野智史、細野達夫、細川寿、野村幹雄	狭畝密植栽培によるオオムギ跡ダイズの播種期と栽植様式が収穫期の全乾物重と莢乾物重および雑草抑制に及ぼす影響	北陸作物学会報	47、65-68	2012. 05
加藤信、菊池彰夫、島村聡、湯本節三	東北地域における無限伸育型ダイズ系統の開発	東北農業研究	65、71-72	2012. 12
高橋智紀 /CA、稲垣栄洋（静岡県農林技術研究所）、福島務（静岡県農林技術研究所）、大石智広（静岡県農林技術研究所）、松野和夫（静岡県農林技術研究所）	水田における冬期かけ流し灌漑による水系の硝酸性窒素除去技術	日本土壌肥科学雑誌	83（3）、301-304	2012. 06
土屋一成、西田瑞彦、河本英憲、吉田光二（ジェイカムアグリ株式会社）	WCS 用イネ「べこあおば」に対する肥効調節型肥料の施用・投資効果	東北農業研究	65、13-14	2012. 12

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
土屋一成、西田瑞彦、河本英憲、吉田光二（ジェイカムアグリ株式会社）	WCS 用移植イネ「べこあおば」の生育・収量に及ぼす完熟家畜ふん堆肥及び窒素施肥法の影響	東北農業研究	65、11-12	2012. 12
土屋一成、西田瑞彦、高橋智紀、吉田光二（ジェイカムアグリ株式会社）	飼料用米「べこあおば」に対する疎植栽培の効果	日本作物学会東北支部会報	55、25-26	2012. 12
西田瑞彦、吉田光二（ジェイカムアグリ株式会社）、土屋一成、高橋智紀	カリを半減したケイ酸カリ肥料の水稲に対する施用効果	東北農業研究	65、39-40	2012. 12
福嶋陽、太田久稔、梶亮太、津田直人	穂発芽性易の水稲品種は温湯消毒によって発芽能力が低下する	日本作物学会東北支部会報	55、45-46	2012. 04

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
大平陽一、白土宏之、山口弘道	収穫時期や収穫後の乾燥・貯蔵条件が水稲品種タカナリ種子の休眠性に及ぼす影響	日本作物学会紀事	81（別 2）、156-157	2012. 09
大平陽一、白土宏之、山口弘道	漏生イネ防除を目的とした除草剤処理が多収性水稲品種の苗立ちに及ぼす影響	日本作物学会紀事	82（別 1）、56-57	2013. 03
片山勝之、高橋智紀、西田瑞彦	地下水位制御システム（FOEAS）、堆肥施用および追肥がダイズの生育収量に及ぼす影響	日本作物学会紀事、第 235 回講演会要旨・資料集	第 82 巻（別号 1）、290-291	2013. 03
加藤信、菊池彰夫、島村聡	マーカー情報を活用したダイズの耐病性育種	秋田県育種談話会記事	27、8-9	2013. 03
鬼頭英樹、善林薫	Cloning of rice blast resistance gene Pi34 and comparative analysis to explore a cue of durable resistance	XV International Congress on Molecular Plant-Microbe Interactions abstracts	＊、254	2012. 07
鬼頭英樹、善林薫	いもち病圃場抵抗性遺伝子 Pi34 の単離および感染初期応答における真性抵抗性との比較	平成 25 年度日本植物病理学会大会講演要旨予稿集	15（別 1）、149	2013. 03
鬼頭英樹、善林薫	いもち病発病階級値変換プログラム Blast Converter	日本育種学会第 123 回講演会講演要旨集	＊、70	2013. 03
柳川麻子（名古屋大院）、高橋宏和（名古屋大院）、平賀勲、島村聡、中園幹生（名古屋大院）	ダイズの二次通気組織及び二次分裂組織で特異的に発現する遺伝子の同定	育種学研究	14（別 2）、226	2012. 09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
鴻坂扶美子（道総研中央農試）、島村聡、中村卓司、平賀勸、前川富也、島田信二、藤田正平（道総研中央農試）	湿害に強いダイズ遺伝資源「植系32号」の湛水に対する応答反応	日本作物学会紀事	82（別1）、354-355	2013. 03
高橋宏和（名古屋大院）、柳川麻子（名古屋大院）、清水裕子（大阪大院）、福島エリオデット（大阪大院）、平賀勸、島村聡、關光（大阪大院）、村中俊哉（大阪大院）、中園幹生（名古屋大院）	ダイズの二次通気組織におけるトリテルペン合成遺伝子の発現解析	育種学研究	15（別1）、120	2013. 03
島村聡	アメリカ中南部における大豆品種特性と栽培技術について	秋田育種談話会記事	（27）、6-7	2013. 03
白土宏之、山口弘道、大平陽一	水分計による鉄コーティング種子の乾燥状態の判定法	日本作物学会紀事	81（別2）、44-45	2012. 09
白土宏之、西田瑞彦、高橋智紀、大江和泉（元東北研）、大平陽一、山口弘道、片山勝之	寒冷地の減水深の大きい圃場における地下灌漑が直播水稻の生育・収量に与える影響	日本作物学会紀事	82（別1）、30-31	2013. 03
善林薫、鬼頭英樹、芦澤武人、小泉信三（国際協力機構 筑波国際センター）	Durability of the partial resistance controlled by several major QTL in upland rice to blast and efficacy of the introgression from upland to paddy rice cultivar	Plant Resistance sustainability 2012 International Conference	＊、70	2012. 10
善林薫、鬼頭英樹、芦澤武人、石原岳明、野口雅子、早野由里子、小泉信三（国際協力機構 筑波国際センター）、法隆大輔、鈴木文彦	いもち病圃場抵抗性遺伝子がイネいもち病菌集団に及ぼす選択圧の評価	日本植物病理学会大会講演要旨予稿集	＊、＊	2013. 03
高橋智紀、片山勝之、西田瑞彦、土屋一成	水田転換畑における毛管上昇による地下水面からの水分供給の特徴（予報）	日本土壌肥料学会講演要旨集	58、106	2012. 09
津田直人	東北地方における水稻の耐ころび型倒伏性基準品種選定の試み	秋田育種談話会記事	秋田育種談話会記事 27号	2013. 03
土屋一成	旧高梨村農会による「農事試験及調査報告 第一号」について	日本土壌肥料学会東北支部会講演要旨集	＊、10	2012. 07
土屋一成、西田瑞彦、高橋智紀	稲わら長期連用水田における飼料用米「べこあおば」に対する肥効調節型肥料の減肥効果	日本作物学会紀事	81（別2）、64-65	2012. 09
土屋一成	塩入松三郎博士の旧農事試験場陸羽支場時代	日本土壌肥料学会講演要旨集	58、195	2012. 09
土屋一成、西田瑞彦、高橋智紀、吉田光二（ジェイカムアグリ株式会社）	家畜ふん堆肥連用水田における飼料用米「べこあおば」に対する肥効調節型肥料の施用効果	日本土壌肥料学会講演要旨集	58、132	2012. 09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
西田瑞彦、吉田光二（ジェイカムアグリ株式会社）、土屋一成、高橋智紀	圃場条件での水田土壌の地温と可給態リン酸との関係	日本土壌肥料学会講演要旨集	58、110	2012. 09
高階史章（秋田県立大学）、畠山恵子（秋田県立大学）、小南靖弘、大野智史、永田修、西田瑞彦、佐藤孝（秋田県立大学）、金田吉弘（秋田県立大学）	有機物の長期連用が積雪寒冷地域水田の温室効果ガス収支に及ぼす影響－土壌炭素蓄積と CH ₄ 、N ₂ O 放出の関係－	日本土壌肥料学会講演要旨集	58、177	2012. 09
山下昂平（名古屋大学）、本庄弘樹（愛知県農総試）、西田瑞彦、木村真人（名古屋大学）、浅川晋（名古屋大学）	水田土壌におけるバイオマス K の評価	日本土壌肥料学会講演要旨集	58、103	2012. 09
持田秀之、高橋智紀、菊池彰夫、島村聡、熊谷悦史、加藤信	寒冷地における早期播種がダイズの収量・品質に与える影響	日本作物学会紀事	82（別 1）、288-289	2013. 03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
太田久稔	直播きで、おいしい米「萌えみのり」	平成 25 年版農業日誌	日誌のしおり	2012. 10
太田久稔	玄米カドミウムを蓄積しにくい水稻系統「奥羽 PL6」	東北農業研究センターたより	38、4	2012. 11
太田久稔、福瀧陽、梶亮太、津田直人、山口誠之、中込弘二、片岡知守、遠藤貴司（古川農業試験場）、横上晴郁、田村泰章	微細で低損傷デンプンの米粉ができるパン用水稻新品種候補系統「奥羽 405 号」	参考成果		2013. 03
大平陽一	飼料イネや他用途向け多収イネの漏生イネ対策	農林水産省『「平成 24 年度革新的農業技術習得支援事業のうち革新的農業技術に関する研修」における「平成 24 年度普及指導員等研修（水稻の直播栽培技術 II）【CO ₂ 】』』	8	2012. 07
梶亮太	抗酸化機能を含んだポリフェノールの多い有色米たち	フードテック 2012	2012. 9. 14	2012. 09
梶亮太、片岡知守、太田久稔、福瀧陽、中込弘二、山口誠之、遠藤貴司（宮城県古川農業試験場）	高度いもち病耐性、直播適性加工用水稻品種の育成	研究成果	485、231-233	2013. 01

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
梶亮太、太田久稔、福嶋陽、山口誠之、片岡知守、中込弘二、滝田正（国際協力機構）、横上晴郁、遠藤貴司（宮城県古川農業試験場）、加藤浩、市場茂夫（トーヨーライス株式会社）、辻内啓次郎（トーヨーライス株式会社）	精米時に胚盤が残りやすく栽培特性が優れる良食味水稻品種「きんのめぐみ」の育成	東北農業研究センター研究報告	115、1-10	2013. 03
梶亮太、太田久稔、福嶋陽、津田直人、山口誠之、中込弘二、片岡知守、遠藤貴司（宮城県古川農業試験場）、横上晴郁	いもち病抵抗性極強の直播向き良食味水稻新品種候補系統「奥羽 407 号」	参考成果		2013. 03
片山勝之	有芯部分耕を基軸とした低コスト水田輪作体系の構築と実証	平成 24 年度秋田県農業試験場試験研究成果発表会	2012. 7. 3	2012. 07
片山勝之	寒冷地 1 年 1 作体系における水稻、大豆の低コスト、省力栽培技術	平成 24 年度秋田県農業試験場試験研究成果発表会	2012. 7. 3	2012. 07
片山勝之、細野達夫	エダマメ直播の播種前進化による作期拡大技術の開発	ファーマーミングシステム研究	11、55-59	2012. 07
片山勝之、高橋智紀	大潟村現地実証の取り組み(ダイズ)	平成 24 年度「水田農業潜在能力発揮等による農地周年活用技術の開発－3 系」現地検討会	2012. 8. 23	2012. 08
片山勝之、高橋智紀	排水条件が劣悪な環境下における地下水位制御システムが大豆の生育に及ぼす影響	平成 24 年度「排水条件が劣悪な環境下における地下水位制御システムの有用性の実証」現地実証試験検討会	2012. 12. 11	2012. 12
菊池彰夫、島村聡、加藤信、河野雄飛、湯本節三、高田吉丈、島田信二、境哲文	ダイズモザイク病に強く良質な中生の早の дай ず 新品種候補系統「東北 166 号」	参考成果		2013. 03
菊池彰夫、島村聡、加藤信、河野雄飛、湯本節三、高田吉丈、島田信二、境哲文、島田尚典（道総研北見農試）、高橋浩司、足立大山（退職）、田淵公清（退職）	ダイズモザイク病と倒伏に強い中生の дай ず 新品種候補系統「東北 164 号」	参考成果		2013. 03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
島村聡	アメリカ合衆国南部水田輪作地帯の視察を終えてー大豆生産性向上のための技術開発の方向性ー	NARO 研究戦略レポート	(3)、19-33	2012. 06
白土宏之	「萌えみのり」の直播栽培	「萌えみのり」の直播栽培研修会（JA みやぎ登米）	2012. 4. 12	2012. 04
白土宏之	萌えみのりの栽培研修および萌えみのりの鉄コーティング栽培指導	萌えみのり栽培研修会（大潟村カントリーエレベーター公社）	2012. 6. 22	2012. 06
白土宏之	直播向き水稻品種「萌えみのり」の鉄コーティング直播栽培	試験研究成果発表会（秋田県農業試験場）	2012. 6. 22	2012. 07
白土宏之	鉄コーティング直播栽培	平成 24 年度普及指導員等研修（水稻の直播栽培技術Ⅱ）【CO ₂ 】	2012. 7. 26	2012. 07
白土宏之	寒冷地の水稻品種「萌えみのり」の鉄コーティング種子湛水直播栽培	グリーンレポート	518、8-9	2012. 08
白土宏之	鉄コーティング種子による湛水直播技術の現状と今後の課題	平成 24 年度東北農業試験研究推進会議稲推進部会直播研究会並びに水稻直播等低コスト技術現地検討会	2012. 9. 4-5	2012. 09
白土宏之	「萌えみのり」による鉄コーティング種子湛水直播栽培	東北農業研究センター公開デー	2012. 9. 8	2012. 09
白土宏之	育苗器を利用した水稻種子の休眠打破法	東北農業研究センターたより	38、5	2012. 11
白土宏之	寒冷地における産業用無人ヘリによる鉄コーティング種子湛水散播栽培	中央農研シンポジウム「転換期の水田農業とその展開方向」	2012. 12. 7	2012. 12
白土宏之	水稻直播栽培における倒伏防止対策	水稻直播栽培における倒伏防止・雑草抑制対策の研修（登米市）	2012. 12. 18	2012. 12
白土宏之、片山勝之	農業技術大系 作物編（寒冷地 1 年 1 作ー密封式鉄コーティング種子を利用した水稻湛水高密度播種、ダイズ有芯部分耕播種など）	農山漁村文化協会	第 8 巻（追録第 34 号）、技 834 の 12- 技 834 の 18	2012. 12

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
白土宏之	完全マスター！湛水直播栽培のための 水稲種子の鉄コーティング方法	DVD マニュアル	*	2013. 01
白土宏之	「朝紫」の高品質、安定栽培	大仙市古代稲生 産組合研修会	2012. 1. 20	2013. 01
白土宏之、片山勝之	最新農業技術 作物（寒冷地1年1 作－密封式鉄コーティング種子を利用 した水稲湛水高密度散播，ダイズ 有芯部分耕播種など）	農山漁村文化協 会	5 巻、95-101	2013. 01
白土宏之	「萌えみのり」の鉄コーティング直 播栽培の最重要ポイント	萌えみのりコン テスト	2013. 2. 15	2013. 02
白土宏之	鉄コーティング直播栽培における苗 立確保と倒伏防止対策	全国農業システ ム化研究会	2013. 2. 27	2013. 02
白土宏之、山口弘道	無コーティング水稲種子を用いた代 かき同時播種湛水直播栽培技術の開 発	東北農業試験研 究推進会議稲推 進部会直播研究 会	2013. 2. 1	2013. 02
白土宏之	種子付マットを用いた水稲の箱なし 育苗法	東北農業研究セ ンター報告	115、77-110	2013. 03
白土宏之	水稲品種「萌えみのり」の鉄コーティ ング湛水散播栽培	農業の震災復興 に向けた提言 （第2版）	＊、＊	2013. 03
白土宏之	水稲の鉄コーティング直播栽培	大仙市農業基礎 講座	2013. 3. 15	2013. 03
白土宏之	鉄コーティング直播栽培における苗 立確保と倒伏防止対策	水稲・大豆種子 のモリブデン等 コーティング播 種技術に関する 研究会	2013. 3. 6	2013. 03
鈴木文彦、善林薫、藤晋一（秋 田県立大学）、荒井治喜、中島 隆	選抜した SSR マーカーは国内分離 いもち病菌の集団解析に有用である	参考成果		2013. 03
矢内純太（京都府立大学）、寺 林敏（京都府立大学）、鳥山和 伸（国際農林水産業研究セン ター）、和田信一郎（九州大学）、 高橋智紀、豊田剛己（東京農工 大学）、金田吉弘（秋田県立大 学）、藤井弘志（山形大学）	食料生産における土壌の意義 ー土 耕栽培と溶液栽培の比較による土壌 機能の再評価ー	日本土壌肥料学 雑誌	83 (3)、 326-331	2012. 06
高橋智紀、新良力也	Denitrification Process、regulation and ecological significance	Novascience publishers、Inc、	265-278	2012. 08
高橋智紀	酸化還元研究の新展開 ー土壌の酸 化還元がもたらす現象を追うー 5. 水田輪作体系での鉄の形態変化 と土壌特性との関係	日本土壌肥料学 雑誌	83 (6) 714-720	2012. 12

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
西田瑞彦	田畑輪換による地力の変化とその対策	大和町産業振興課	35	2012. 11
西田瑞彦	重窒素自然存在比を利用した有機栽培米の施肥履歴判定技術の開発	研究成果 492「安全で信頼性、機能性が高い食品・農産物供給のための評価・管理技術の開発」	44-47	2013. 01
西田瑞彦	水田での有機物の窒素の効き方	MOA 自然農法東北地区情報交換会	2013. 1. 25	2013. 01
西田瑞彦	重窒素標識法による有機質資材由来窒素の動態	秋田県土壌肥料懇話会	2013. 2. 28	2013. 02
西田瑞彦	多収品種「べこあおば」の収量性について	農業と科学	647、1-4	2013. 02
西田瑞彦	肥培管理技術の徹底で水稻高品質・安定生産	日本農業共済新聞	2013. 2. 20 8	2013. 02
西田瑞彦	水稻連作から畑転換や田畑輪換へ移行することによって生じる地力の減耗	水田土壌の劣化に関する研究会	2013. 3. 13	2013. 03
西田瑞彦、吉田光二、関矢博幸、土屋一成、高橋智紀	積雪寒冷地域の水稲・大豆の田畑輪換における土壌肥沃度の実態と維持改善法	普及成果		2013. 03
福嶋陽	Yield potential of high-yield rice varieties in the Tohoku region of Japan	Japan Agricultural Research Quarterly	46:199-204	2012. 06
福嶋陽、太田久稔、梶亮太、津田直人、山口誠之、中込弘二、片岡知守、遠藤貴司（宮城県古川農業試験場）、田村泰章	早生多収の飼料用米に適する水稻新品種候補系統「奥羽 409 号」	参考成果		2013. 02

《環境保全型農業研究領域》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
柴田央(東北大院農)、仲川清隆(東北大院農)、白川仁(東北大院農)、小林禎子(東北大院農)、川上祐生(東北大院農)、高島理恵(東北大院農)、大橋和(東北大院農)、佐藤祥子(東北大院農)、大崎雄介(東北大院農)、木村ふみ子(東北大院農)、木村俊之、都築毅(東北大院農)、駒井三千夫(東北大院農)、宮澤陽夫(東北大院農)	Physiological Effects and Tissue Distribution from Large Doses of Tocotrienol in Rats.	Bioscience、 Biotechnology、 and Biochemistry	76、1805-1808	2012. 09
小野瀬晋司(東北大院農)、池田亮一(旭松食品(株))、仲川清隆/CA(東北大院農)、木村俊之、山岸賢治、樋口央紀((株)機能性植物研)、宮澤陽夫(東北大院農)	Production of the alpha-glycosidase inhibitor 1-deoxynojirimycin from <i>Bacillus</i> species.	Food Chemistry	138 (1)、 516-523	2012. 11
Takashi Okubo ¹ 、Takahiro Tsukui ² 、Hiroko Maita ³ 、Shinobu Okamoto ⁴ 、Kenshiro Oshima ⁵ 、Takatomo Fujisawa ⁶ 、Akihiro Saito ⁷ 、Hiroyuki Futamata ⁸ 、Reiko Hattori ⁹ 、Yumi Shimomura ¹⁰ 、Shin Haruta ¹¹ 、森本晶 ¹² 、Yong Wang ¹³ 、Yoriko Sakai ¹⁴ 、Masahira Hattori ¹⁵ 、Shin-Ichi Aizawa ¹⁶ 、Kenji V. P Nagashima ¹⁷ 、Sachiko Masuda ¹⁸ 、Tsutomu Hattori ¹⁹ 、Akifumi Yamashita ²⁰ 、Zhihua Bao ²¹ 、Masahito Hayatsu ²² 、Hiromi Kanegae ²³ 、Ikuo Yoshinaga ²⁴ 、Kazunori Sakamoto ²⁵ 、Koki Toyota ²⁶ 、Mitsuteru Nakao ²⁷ 、Mitsuyo Kohara ²⁸ 、Mizue Anda ²⁹ 、Rieko Niwa ³⁰ 、Park Jung-Hwan ³¹ 、Reiko Saito ³² 、徳田進一 ³³ 、Sumiko Yamamoto ³⁴ 、Syuji Yamamoto ³⁵ 、Tadashi Yokoyama ³⁶ 、Tomoko Akutsu ³⁷ 、Yasukazu Nakamura ³⁸ 、Yuka Nakahira-Yanaka ³⁹ 、Yuko Takada Hoshino ⁴⁰ 、Hideki Hirakawa ⁴¹ 、Hisayuki Mitsui ⁴² 、Kimihiro Terasawa ⁴³ 、Manabu Itakura ⁴⁴ 、Shusei Sato ⁴⁵ 、Wakako Ikeda-Ohtsubo ⁴⁶ 、Natsuko Sakakura ⁴⁷ 、Eli Kaminuma ⁴⁸ 、Kiwamu Minamisawa/CA ⁴⁹	Complete Genome Sequence of <i>Bradyrhizobium</i> sp. S23321: Insights into Symbiosis Evolution in Soil Oligotrophs	Microbes and Environments	27 (3)、306-315	2012. 09

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
秋山博子/CA (農業環境技術研究所)、森本品、早津雅仁 (農業環境技術研究所)、早川敦 (秋田県立大学)、須藤重人 (農業環境技術研究所)、八木一行 (農業環境技術研究所)	Nitrification, ammonia-oxidizing communities, and N ₂ O and CH ₄ fluxes in an imperfectly drained agricultural field fertilized with coated urea with and without dicyandiamide	Biology and Fertility of Soils	49 (2)、213-223	2013. 02
Manabu Itakura (東北大)、Yoshitaka Uchida (農業環境技術研究所)、Hiroko Akiyama (農業環境技術研究所)、Yuko Takada Hoshino (農業環境技術研究所)、Yumi Shimomura (農業環境技術研究所)、森本品、Kanao Tago (農業環境技術研究所)、Yong Wang (農業環境技術研究所)、Chihiro Hayakawa (農業環境技術研究所)、Yusuke Uetake (東北大)、Cristina Sánchez (東北大)、Shima Eda (東北大)、Masahito Hayatsu/CA (農業環境技術研究所)、Kiwamu Minamisawa/CA (東北大)	Mitigation of nitrous oxide emissions from soils by Bradyrhizobium japonicum inoculation	Nature Climate Change	3、208-212	2013. 03

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
小野瀬晋司 (東北大院農)、仲川清隆 (東北大院農)、池田亮一 (㈱旭松食品)、木村俊之、山岸賢治、宮澤陽夫 (東北大院農)	微生物による食後高血糖改善成分 1-デオキシノジリマイシンの生産	第 66 回日本栄養・食糧学会大会講演要旨集	＊、55	2012. 05
小野瀬晋司 (東北大院農)、仲川清隆 (東北大院農)、池田亮一 (㈱旭松食品)、木村俊之、山岸賢治、宮澤陽夫 (東北大院農)	枯草菌等による食後高血糖改善成分 1-デオキシノジリマイシンの生産	日本食品科学工学会第 59 回大会講演集	＊、102	2012. 08
小野瀬晋司 (東北大院農)、浅井明 (日医大)、仲川清隆 (東北大院農)、木村俊之、及川真一 (日医大)、宮澤陽夫 (東北大院農)	Effect of mulberry 1-deoxynojirimycin on postprandial glycemic control	11th Maillard reaction symposium abstracts	＊、155	2012. 09
小野瀬晋司 (東北大院農)、仲川清隆 (東北大院農)、池田亮一 (㈱旭松食品)、木村俊之、山岸賢治、宮澤陽夫 (東北大院農)	食後高血糖改善成分 1-デオキシノジリマイシンの高生産培養	日本農芸化学東北支部 第 147 回大会講演要旨集	＊、52	2012. 10

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
小野瀬晋司（東北大院農）、池田亮一（㈱旭松食品）、仲川清隆（東北大院農）、木村俊之、山岸賢治、樋口央紀（㈱機能性植物研究所）、宮澤陽夫（東北大院農）	食後高血糖改善成分 1-デオキシノジリマイシンの枯草菌等による高生産培養	日本農芸化学会 2013 年度大会大会講演要旨集	*, 53	2013. 03
森本品、山下伸夫、好野奈美子（いわき明星大）、内田智子、小林浩幸	麦類リビングマルチ大豆栽培が土壌微生物に及ぼす影響	日本土壌肥料学会 2012 年度鳥取大会講演要旨集	第 58 集、p. 42	2012. 09
内田義崇（農業環境技術研究所）、秋山博子（農業環境技術研究所）、星野（高田）裕子（農業環境技術研究所）、下村有美（農業環境技術研究所）、森本品、多胡香奈子（農業環境技術研究所）、王勇（農業環境技術研究所）、板倉学（東北大）、早津雅仁（農業環境技術研究所）、南澤究（東北大）	N ₂ O 還元酵素活性を強化した根粒菌接種によるダイズ畑からの N ₂ O の削減 2－黒ボク土畑における nosZ+ および nosZ 強化株接種の効果	日本土壌肥料学会 2012 年度鳥取大会講演要旨集	第 58 集、p. 181	2012. 09
秋山博子（農業環境技術研究所）、内田義崇（農業環境技術研究所）、星野（高田）裕子（農業環境技術研究所）、下村有美（農業環境技術研究所）、森本品、多胡香奈子（農業環境技術研究所）、王勇（農業環境技術研究所）、早川千尋（農業環境技術研究所）、板倉学（東北大）、早津雅仁（農業環境技術研究所）、南澤究（東北大）	N ₂ O 還元酵素活性を強化した根粒菌接種によるダイズ畑からの N ₂ O の削減 1－異なる土壌における nosZ 強化株接種の効果	日本土壌肥料学会 2012 年度鳥取大会講演要旨集	第 58 集、p. 181	2012. 09
星野裕子（農業環境技術研究所）、板倉学（東北大）、多胡香奈子（農業環境技術研究所）、秋山博子（農業環境技術研究所）、下村有美（農業環境技術研究所）、内田義崇（農業環境技術研究所）、森本品、荒木千尋（農業環境技術研究所）、早津雅仁（農業環境技術研究所）、南澤究（東北大）	N ₂ O 還元酵素活性を強化したダイズ根粒菌の利用に向けた培養・接種・検出方法の確立	日本土壌肥料学会 2012 年度鳥取大会講演要旨集	第 58 集、p. 180	2012. 09
森本品、山下伸夫、好野奈美子、内田智子、小林浩幸	化学資材を 50% 削減したリビングマルチダイズ栽培における病虫害の発生実態	北日本病虫害研究会報	63、p260	2012. 12

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
山岸賢治 /CA、亀井一郎（宮崎大農）、平井浩文（静岡大農）、近藤隆一郎（九州大農）	Construction of genetic transformation system of potent cedar-degrading brown-rot fungi <i>Gloeophyllum trabeum</i> KU-41 strain	LignobiotechII symposium	＊、105	2012. 10
亀井一郎 /CA（宮崎大農）、山岸賢治、平井浩文（静岡大農）、目黒貞利（宮崎大農）、近藤隆一郎（九州大農）	Integrated delignification and simultaneous saccharification and fermentation of hard wood by a white-rot fungus, <i>Phlebia</i> sp. MG-60.	LignobiotechII symposium	＊、40	2012. 10

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
小林浩幸、高橋義彦（東北研 環境保全型農業研究領域）	高吸収植物による放射性セシウム除去の可能性	土壌の物理性	121、48-53	2012. 08
森本品	麦類リビングマルチダイズ栽培～同時播種機でリビングマルチをもっと手軽に	農業日誌 平成 25 年版（農林統計協会）		2012. 10
森本品、星野（高田）裕子（農業環境技術研究所）	PCR-DGGE 法を用いた土壌微生物相解析手法の標準化	土壌微生物相の解明による土壌生物性の解析技術の開発 (eDNA プロジェクト)	494、20-24	2013. 01

《農業放射線研究センター》

原著論文

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
石川哲也	関東地方における飼料用米向け多収 水稻品種の乾物生産	日本作物学会紀 事	81 (3)、 339-342	2012. 07
石川哲也、草佳那子	関東地方における稲発酵粗飼料用品 種夢あおばの生育特性	日本作物学会紀 事	82 (1)、76-80	2013. 01
村上敏文 /CA、森正彦、小柳 敦史、菱沼英昌（有限会社 イワセアグリセンター）	圃場調査における小型空撮気球の有 用性－水田転換コムギ圃場での事例－	農作業研究	47、67-74	2012. 06
金田哲 /CA（農業環境技術研 究所）、三浦重典、山下伸夫、 大東健太郎（農業環境技術研 究所）、山崎修平（山梨県総合農 業技術センター）、村上敏文、 浦嶋泰文	Significance of litter layer in enhancing mesofaunal abundance and microbial biomass nitrogen in sweet corn-white clover living mulch system	Soil Science and Plant Nutrition	58、424-434	2012. 08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
村上敏文 / CA、由比真美子、 天羽弘一	Canopy height measurement by photogrammetric analysis of aerial images: Application to buck wheat (Fagopyrum esculentum Moench) lodging evaluation	Computers and Electronics in Agriculture	89、70-75	2012. 10

学会発表等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
石川哲也、加藤浩、平林秀介	温暖地における稲発酵粗飼料用新系 統「関東飼糶 254 号」の生育特性	日本作物学会紀 事	81（別 2）、 70-71	2012. 09
近藤始彦、石川哲也、箭田佐衣 子（農業環境技術研究所）、阿 部薫（農業環境技術研究所）	多収水稻品種「北陸 193 号」のカリ ウム吸収特性	日本作物学会紀 事	82（別 1）、 44-45	2013. 03
太田健、瀧山律子	Long-term Field Experiment Program for Monitoring Soil Carbon Content in Japan	MARCO Symposium 2012 Strengthening Collaboration to meet Agro- Environmental Challenges in Monsoon Asia	149-150	2012. 09
江口哲也（特別研究員等）、木 村龍介（特別研究員等）、太田健、 金澤健二、木村武	施肥・減肥基準のデータベースの概 要と解析例	日本土壌肥科学 会講演要旨集	58、129	2012. 09
久保堅司、河田尚之、中島隆、 平八重一之、藤田雅也	西日本のコムギ品種における赤かび 病によるかび毒の蓄積性の解析	日本作物学会紀 事	81（別 2）、 258-259	2012. 09
久保堅司、河田尚之、中島隆、 平八重一之、藤田雅也	関東以西のコムギ品種における赤か び病によるかび毒蓄積性の差異の評 価	育種学研究	14（別 2）、 217	2012. 09
丹羽紗也佳（横浜市大木原生 研）、菊地理絵（横浜市大木原 生研）、久保堅司、ルイスジャ ネット（バイエルクロップサイ エンス）、新田みゆき（京都大 学大学院農学研究科）、那須田 周平（京都大学大学院農学研究 科）、半田裕一（農業生物資源 研究所）、坂智広（横浜市大木 原生研）	日本のコムギ遺伝資源コレクション における赤かび病抵抗性の評価	育種学研究	14（別 2）、 216	2012. 09
久保堅司、田島亮介（東北大学 大学院農学研究科）	カドミウムの蓄積性が異なるコムギ 2 品種における根の分布と個根の形 態の比較	根の研究	22 (1)、35	2013. 03

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
久保堅司、藤田雅也、河田尚之、八田浩一、松中仁、中島隆、平八重一之	西日本の軟質コムギ品種における赤かび病抵抗性の評価と抵抗性向上に向けた取り組み	日本作物学会紀事	82（別 1）、438-439	2013. 03
竹倉憲弘	放射性物質を含む作物等の安全な減容・安定化技術の開発	農業機械学会東北支部東北若手の会	＊、13	2012. 08
吉田貴紘（森林総合研究所）、藤本清彦（森林総合研究所）、久保島吉貴（森林総合研究所）、佐々木達也（森林総合研究所）、山本幸一（森林総合研究所）、竹倉憲弘、薬師堂謙一	放射性物質を含む作物等の安全な減容・安定化技術の開発 ー(1)枝葉、落葉の減容化特性	第 8 回バイオマス科学会議	＊、60-61	2013. 01
吉田貴紘（森林総合研究所）、藤本清彦（森林総合研究所）、久保島吉貴（森林総合研究所）、渡辺憲（森林総合研究所）、山本幸一（森林総合研究所）、竹倉憲弘、薬師堂謙一	放射性物質を含む作物等の安全な減容・安定化技術の開発 ー枝葉、落葉等の粉碎・成型による減容化効果	第 63 回日本木材学会大会	＊、未定	2013. 03

著書等

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻（号）、頁	年・月
太田健	施肥基準・減肥基準のデータベース構築と減肥の展開方向	グリーンレポート（JA 全農）	516、2-3	2012. 06
太田健	全国農耕地土壌ガイドブック 長期連用試験からわかること（基準点調査）	日本土壌協会	41627	2012. 11
太田健、瀧山律子	基準点調査データベースを用いた堆肥等有機質資材の土壌炭素蓄積効果の解析	土壌由来温室効果ガス・土壌炭素調査事業 成果説明会（日本土壌協会）	2012. 11. 9	2012. 11
久保堅司、河田尚之、藤田雅也、中村和弘、牛山智彦（長野県農業試験場）、前島秀和（長野県農業試験場）、小田俊介、八田浩一、松中仁、中島隆	Effect of flowering habit to Fusarium head blight resistance in wheat	Proceedings of the 4th International Symposium on Fusarium head blight	＊、16	2012. 08

著者、発表者名	研究成果のタイトル等	雑誌名等	巻(号)、頁	年・月
丹羽紗也佳（横浜市大木原生研）、菊地理絵（横浜市大木原生研）、久保堅司、ルイスジャネット（バイエルクロップサイエンス）、新田みゆき（京都大学大学院農学研究科）、那須田周平（京都大学大学院農学研究科）、半田裕一（農業生物資源研究所）、坂智広（横浜市大木原生研）	Contribution of TAMRP-D1 allele on QFHS.KIBR-2DS in wheat for FHB resistance	Proceedings of the 4th International Symposium on Fusarium head blight	＊、54	2012. 08
久保堅司、河田尚之、中島隆、平八重一之、藤田雅也	西日本のコムギ品種における赤かび病によるかび毒の蓄積性の解析	日本作物学会第4回優秀発表賞	日本作物学会	2012. 10
久保堅司、河田尚之、藤田雅也	Evaluation of Fusarium Head Blight Resistance in Wheat and the Development of a New Variety by Integrating Type I and II Resistance	Japan Agricultural Research Quarterly	47 (1)、9-19	2013. 01
竹倉憲弘	よくわかる農業施設用語解説集	筑波書房	42-43、46、47	2012. 09

2. 特許・品種登録等

1) 特許・実用新案の出願および登録

(平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月)

(区 分) 特 許 権 等 の 名 称	発明考案者	公 告 又 は 公開年月日	登 録 年 月 日 及 び 登 録 番 号
【特許】 (登録)			
○高糖度含有葉茎根菜類又は果菜類の栽培方法	岡田 益己、井上めぐる、 村井 麻理		H24. 4. 6 第 4965150 号
○サイレージ調製用添加剤及び該サイレージ調製用添加物を用いるサイレージの調製方法並びにサイレージ調整用キット	田中 治、河本 英憲、 出口 新、魚住 順、 東京農業大学		H24. 5. 25 第 4997467 号
○植物病害防除用組成物	門田 育生、 住友化学㈱		H24. 6. 8 第 5010204 号
○低温糊化性コムギ由来の小麦粉を含む穀粉組成物及びこれを使用した食品	中村 俊樹、米丸 淳一、 石川 吾郎、 日本製粉㈱		H24. 9. 27 オーストラリア 第 2007314968 号
○甘味性コムギ由来の小麦粉を含む穀粉組成物及びこれを使用した食品	中村 俊樹、米丸 淳一、 石川 吾郎、 日本製粉㈱		H24. 9. 27 オーストラリア 第 2007314969 号
○アミロイド β ペプチドをコードする遺伝子を含むイネ	吉田 泰二、石浦 章一、 渡辺雄一郎		H24. 10. 12 第 5105272 号
○棟方向傾斜建築物	由比 進、岡田 益己、 岡本 潔、片岡 園		H25. 1. 25 第 5182862 号
○ γ -アミノ酪酸含有組成物を含む飼料とその製造方法	押部 明德、 秋田銘醸㈱、 秋田県総合食品研究所		H25. 2. 15 第 5196094 号
(出願中)			
○草食家畜の食欲を促進させる匂い混合物及び草食家畜の食欲促進方法	嶺野 英子	H19. 12. 20	
○低温糊化性コムギ由来の小麦粉を含む穀粉組成物及びこれを使用した食品	中村 俊樹、米丸 淳一、 石川 吾郎、 日本製粉㈱	H20. 5. 8	
○甘味性コムギ由来の小麦粉を含む穀粉組成物及びこれを使用した食品	中村 俊樹、米丸 淳一、 石川 吾郎、 日本製粉㈱	H20. 5. 8	

(区 分) 特 許 権 等 の 名 称	発明考案者	公 告 又 は 公開年月日	登 録 年 月 日 及 び 登 録 番 号
○油脂からのトコトリエノールとバイオ ディーゼル燃料の同時生産方法	木村 俊之、 (国大)東北大学	H21. 8. 27	
○ウシアディポネクチンに対する抗体及 びウシアディポネクチンの測定方法	小松 篤司	H22. 10. 28	
○ウシの発情同期化法およびそのための キット	竹之内直樹、平尾 雄二、 志水 学、伊賀 浩輔	H23. 2. 10	
○未熟コムギ種子を用いた食品の製造方 法及び食品	中村 俊樹、 日本製粉(株)	H23. 3. 3	
○小麦 α -アミラーゼインヒビターに結 合する抗ペプチド抗体及びそれを用い た小麦アレルギーの検査方法	老田 茂	H23. 12. 8	
○下層土圧縮装置	大谷 隆二、関矢 博幸、 冠 秀昭、 (株)パディ研究所、 キャタピラー九州(株)	H24. 2. 16	
○対外発育卵母細胞をレシピエント卵子 とするクローン動物個体の作成法	平尾 雄二、竹之内直樹、 伊賀 浩輔、成瀬 健司、 志水 学	H24. 11. 1	
○小麦ふすま粉碎物の製造方法及びその 粉碎物を含む食品	老田 茂、 (独)国立高等専門学校機 構	H24. 12. 27	
他 4 件			
【実用新案】 なし			

2) 種苗法による品種登録

(平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月)

植物の種類	品種の名称	登録年月日	登録番号	育 成 者
フェストロリウム	東北 1 号	H24. 10. 23	第 22060 号	米丸 淳一、上山 泰史、久保田明人
稲	きんのめぐみ	H25. 3. 25	第 22530 号	太田 久稔、山口 誠之、滝田 正、 梶 亮太、福嶌 陽、中込 弘二、 片岡 知守、遠藤 貴司、横上 晴郁、 加藤 浩、トーヨーライス㈱
はとむぎ	はときらら	H25. 3. 25	第 22471 号	加藤 晶子、本田 裕、由比真美子、 川崎 光代、山守 誠、千葉 一美、 石田 正彦

その他出願中

植物の種類	品種の名称	出願年月日	育 成 者
フェストロリウム	イカロス	H22. 10. 27	米丸 淳一、上山 泰史、久保田明人、 秋山 征夫、雪印種苗㈱
小麦	銀河のちから	H23. 1. 17	吉川 亮、谷口 義則、中村 和弘、 伊藤 裕之、平 将人、八田 浩一、 前島 秀和、伊藤美環子、中村 俊樹、 石川 吾郎、中村 洋、伊藤 誠治
小麦	ゆきはるか	H23. 1. 28	谷口 義則、吉川 亮、中村 和弘、 伊藤 裕之、平 将人、前島 秀和、 八田 浩一、伊藤美環子、中村 洋、 中村 俊樹、石川 吾郎、伊藤 誠治
そば	にじゆたか	H23. 6. 15	由比真美子、山守 誠、本田 裕、 加藤 晶子、川崎 光代
トマト	すずこま	H23. 7. 5	由比 進、片岡 園、本城 正憲、 松永 啓、石井 孝典、川頭 洋一、 岡本 潔、山崎 篤、 全国農業協同組合連合会
ねぎ	TAM - 1	H24. 4. 10	野菜茶業研究所、山崎 篤、山崎 博子
なたね	キタノキラメキ	H24. 5. 31	本田 裕、川崎 光代、山守 誠、 加藤 晶子、由比真美子、石田 正彦、 千葉 一美、遠山 知子
いちご	豊雪姫	H24. 5. 31	片岡 園、由比 進、本城 正憲、 岡本 潔、森下 昌三、矢野 孝喜、 濱野 恵

3. 育成品種、遺伝資源の受入・移管・増殖・保存数

1) 育成品種（平成 24 年度出願）

- ・ねぎ「TAM－1」（TAM－1）
- ・なたね「キタノキラメキ」（東北 97 号）
- ・いちご「豊雪姫」（盛岡 35 号）

2) 育成品種一覧 (平成 25 年 3 月現在)

水 稲

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	早晩性	耐倒伏性	耐冷性	食味	いもち病抵抗性	
			母	父						抵抗性	圃場抵抗性
1 ハツニシキ	農林 84 号	奥羽 224 号	農林 22 号	農林 1 号	1954	中	やや弱	やや弱	上下	+	中
2 ヤマセニシキ	農林 139 号	奥羽 225 号	農林 22 号	農林 1 号	1962	早	中	中	上下	+	中
3 ウゴニシキ	農林 143 号	奥羽 242 号	関東 51 号	ハツニシキ	1963	中	中	中	上下	Pik	中
4 フクニシキ	農林 152 号	奥羽 245 号	54BC-68	ハツニシキ	1964	中	中	中	上下	Piz	やや弱
5 オトメモチ	農林 171 号	奥羽 259 号	こがねもち	奥羽 225 号	1966	早	やや強	やや強	(良)	Pia	やや強
6 農林 172 号	農林 172 号	奥羽 260 号	奥羽 237 号	東北 76 号	1966	中～晩	中	中	-	Pii	やや強
7 農林 181 号	農林 181 号	奥羽 249 号	ハツニシキ	十石	1967	晩	強	中	上下	Pia	中
8 農林 182 号	農林 182 号	奥羽 250 号	ハツニシキ	十石	1967	晩	強	中	上下	Pia	やや弱
9 農林 198 号	農林 198 号	奥羽 267 号	東北 78 号	奥羽 329 号	1969	早～中	中	中	中上	+	中
10 農林 199 号	農林 199 号	奥羽 269 号	東北 78 号	奥羽 239 号	1969	中～晩	強	中	中中	Pia	強
11 農林 210 号	農林 210 号	奥羽 268 号	東北 78 号	奥羽 239 号	1970	中	やや強	中	中上	Pia	中
12 農林 221 号	農林 221 号	奥羽 277 号	大系 227	こがねもち	1972	早	やや弱	中	(良)	Pik	強
13 農林 222 号	農林 222 号	奥羽 278 号	奥羽 239 号	フジミノリ	1972	極早	やや強	中	中上	+	中
14 農林 239 号	農林 239 号	奥羽 282 号	ふ系 70 号	奥羽 269 号	1976	早	強	やや弱	中上	Pia	やや弱
15 農林 253 号	農林 253 号	奥羽 301 号	トヨニシキ	曲系 17	1979	早	やや強	強	中中	Pik,Piz	中
16 農林 254 号	農林 254 号	奥羽 296 号	大系 1076	ふ系 72 号	1979	早	やや強	やや弱	中中	Pik,Pii	やや強
17 農林 320 号	農林 320 号	奥羽 331 号	コチヒビキ	奥羽 316 号	1993	中	強	やや弱	(良)	Pia,Pib	中
18 農林 342 号	農林 342 号	奥羽 346 号	中部 47 号	奥羽 313 号	1996	中～晩	強	やや弱	中上	Pia,Pii	強
19 農林 343 号	農林 343 号	奥羽 349 号	東糯 396	奥羽 331 号	1996	早～中	中	やや弱	上下	Pia	中
20 農林 356 号	農林 356 号	奥羽 344 号	74wx2N-1	レイメイ	1998	中	やや弱	やや弱	中上	+	やや弱
21 農林 367 号	農林 367 号	奥羽 368 号	東北糯 149 号	奥羽 331 号	2000	早～中	強	弱	中上	Pib	不明
22 農林 375 号	農林 375 号	奥羽 354 号	探系 2019	ふ系 143 号	2001	中～晩	強	中	中上	Pia	中
23 農林 384 号	農林 384 号	奥羽 370 号	(奥羽 331 号 × A5) の F1	奥羽 331 号	2002	早	強	中	中上	+	やや弱
24 ちゅうらひかり	農林 390 号	奥羽 366 号	東北 143 号	奥羽 338 号	2003	中～晩	強	極強	上中	Pia,Pii	極強
25 恋あずさ	農林 407 号	奥羽 359 号	北海 269 号	奥羽 316 号	2005	早～中	強	極強	中中	Pia,Pik	弱
26 べこあおば	農林 408 号	奥羽 387 号	オオチカラ	西海 203 号	2005	中～晩	強	弱	中下	Pita-2,(Pia)	弱
27 奥羽 383 号	—	奥羽 383 号	II-451	紫穂 No.1	2008	早	強	弱	中中	+	弱
28 萌えみのり	農林 416 号	奥羽 382 号	南海 128 号	はえぬき	2006	中～晩	強	強	中上	Pia,Pii	中
29 タやけもち	農林 417 号	奥羽 388 号	たつこもち	紅衣	2006	早～中	強	強	中上	+	やや弱
30 べこごのみ	農林 425 号	奥羽 395 号	ふくひびき	97UK-46	2007	早	強	やや弱	中下	Pib,Pik	強
31 紫こぼし	—	奥羽 389 号	関東 195 号	朝紫	2011	早～中	やや強	弱	中上	Pia	中
32 祝い茜	—	奥羽 378 号	極早生 長芒	対馬在来	2011	早	強	弱	下上	Pia	強
33 祝い紫	—	奥羽 379 号	紫穂 No.1	対馬在来	2011	晩	強	弱	下上	Pik	中
34 きんのめぐみ	—	奥羽 411 号	おきにいり / あそみのりの F1	おきにいり	2013	中	強	強	上中	Pia,Pii	中

小 麦

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登 録 年 次	主 な 用 途	成 熟 期	芒 の 有 無	穂 の 色	耐 寒 雪 性	赤 さ び 病 抵 抗 性
			母	父							
1 スソノコムギ	農林 77 号	東北 77 号	農林 10 号	北関東 5 号	1950	めん用	中	有	白		
2 ムツベンケイ	農林 78 号	東北 84 号	F5-1582	Egyptian Amber	1950	めん用	晩	有	白	やや弱	
3 アオバコムギ	農林 81 号	東北 79 号	農林 7 号	Ardito	1951	パン用	早	無	白	やや弱	やや弱
4 ナンブコムギ	農林 82 号	東北 95 号	農林 33 号	農林 27 号	1951	めん用	早	有	褐	強	中
5 ヒツミコムギ	農林 88 号	東北 103 号	農林 39 号	東北 56 号	1953	めん用	晩	無	白	中	中
6 オクコムギ	農林 90 号	東北 97 号	農林 39 号	東北 56 号	1955	めん用	晩	無	褐	強	中
7 サキユウコムギ	農林 91 号	東北 91 号	農林 33 号	農林 27 号	1956	めん用	晩	有	褐	強	弱
8 フルツマサリ	農林 94 号	東北 105 号	東北 78 号	農林 39 号	1956	めん用	晩	無	褐	中	中
9 キタカミコムギ	農林 97 号	東北 110 号	東北 101 号	東北 83 号	1959	めん用	晩	有	白	やや弱	中
10 シモフサコムギ	農林 101 号	東北 108 号	東北 79 号 (アオバコムギ)	北関東 44 号	1963	めん用	中	無	白	やや弱	中
11 ミヤギノコムギ	農林 102 号	東北 117 号	東北 106 号	農林 10 号	1964	めん用	早	有	白	中	やや弱
12 ハチマンコムギ	農林 113 号	東北 122 号	東北 108 号	農林 27 号	1973	パン用	中	無	白	中	やや強
13 ハナガサコムギ	農林 116 号	東北 126 号	北陸 46 号	(HopexTimstein) × 農林 58 号	1974	めん用	中	無	白	中	強
14 ワカマツコムギ	農林 127 号	東北 143 号	キタカミコムギ	東北 126 号 (ハカ`サコムギ`)	1982	めん用	晩	有	白	中	強
15 コユキコムギ	農林 133 号	東北 167 号	東北 126 号 (ハカ`サコムギ`)	ユキチヤボ	1988	パン用	中	有	白	中	弱
16 あきたっこ	農林 137 号	東北 183 号	ワカマツコムギ	東北 144 号	1992	めん用	中	有	白	中	やや弱
17 はつもち	—	東北糯 210 号	関東 107 号	白火	1998	ブレンド	早	有	白	やや弱	中
18 もち乙女	—	東北糯 211 号	関東 107 号	白火	1998	ブレンド	極早	有	白	弱	やや弱
19 ネバリゴシ	農林 152 号	東北 206 号	関東 107 号	チホクコムギ	2000	めん用	やや早	無	白	中	強
20 ハルイブキ	農林 153 号	東北 205 号	Stozher	東北 195 号	2001	パン用	中	有	白	中	強
21 ゆきちから	農林 157 号	東北 214 号	東北 141 号	さび系 23 号	2002	パン用	やや早	無	白	強	強
22 もち姫	農林糯 166 号	東北糯 217 号	はつもち	(もち盛系 C-G1517 × ハルイブキ)F1	2006	菓子・ ブレンド用	やや早	有	白	やや弱	やや強
23 銀河のちから	—	東北 223 号	東北 209 号	ハルイブキ	—	パン用・め ん用	やや早	有	褐	中	中
24 ゆきはるか	—	東北 224 号	キヌヒメ	きぬあずま	—	菓子用	やや早	有	白	中	やや強

注 「はつもち」「もち乙女」の登録年次は、品種登録（種苗法）の年次である。

大豆

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登 録 年 次	成 熟 期	花 色	葉 形	病虫害抵抗性	
			母	父					センチュウ	SMV
1	ワセシロゲ	た系 16 号	白毛 9 号	た系 6 号	1956	早の晩	紫	円	弱	AB
2	ハツカリ	東北 1 号	大白 1 号	奥羽 13 号	1959	中の早	紫	円	弱	AB
3	ネマシラズ	東北 6 号	下田不知の純系分離	純系分離	1961	晩	紫	円	強	AB
4	ムツメジロ	東北 16 号	白蔬太	本育 65 号	1965	早の晩	紫	円	弱	(A)B
5	ライデン	東北 27 号	ネマシラズ	ネマシラズに γ 線照射	1966	中の早	紫	円	強	AB
6	ムツシラタマ	東北 13 号	農林 4 号	白鶴の子	1967	中	白	円	弱	弱
7	ワセシロメ	東北 17 号	白蔬太	本育 65 号	1967	早の晩	紫	円	弱	AB
8	ライコウ	東北 28 号	ネマシラズに γ 線照射	本育 65 号	1969	中	紫	円	強	AB
9	オクシロメ	東北 35 号	東北 6 号 (ネマシラズ)	南郡竹館	1972	中の晩	紫	円	強	AB
10	カルマイ	東北 32 号	東北 6 号 (ネマシラズ)	山白玉	1973	中の早	紫	円	強	弱
11	ナンブシロメ	東北 40 号	ライデン	北見長葉 (白臍)	1977	中	紫	長	強	AB
12	デワムスメ	東北 45 号	ネマシラズ	Harosoy	1977	中	紫	円	強	ABCD
13	スズユタカ	東北 65 号	刈系 52 号	東北 35 号 (オクシロメ)	1982	中の晩	紫	円	強	ABCD
14	タチコガネ	東北 61 号	関東 53 号 (シロセンナリ)	東北 35 号 (オクシロメ)	1983	中の早	紫	円	強	AB
15	ワセスズナリ	東北 70 号	コケシジロ	刈系 36F7	1983	早	紫	円	強	AB
16	フクシロメ	東北 41 号	ユウヅル	刈系 36F7	1985	早の晩	紫	円	強	AB
17	スズカリ	東北 69 号	房成	刈系 92 号	1985	中	紫	円	強	AB
18	タチユタカ	東北 80 号	納豆小粒に γ 線照射	刈系 92 号	1987	中の晩	紫	円	弱	ABCD
19	コスズ	東北 85 号	東北 52 号	刈系 102 号	1987	中	紫	円	弱	AB
20	トモユタカ	東北 92 号	スズユタカ	刈系 343F7	1990	中の早	紫	円	強	ABC
21	リュウホウ	東北 113 号	刈系 244 号	刈系 221 号 (コスズ)	1995	中の早	紫	円	強	AB
22	鈴の音	東北 115 号	刈交 296F6	刈系 237 号	1995	早の晩	紫	長	弱	AB
23	おおすず	東北 112 号	刈交 296F6	刈系 237 号	1998	中の早	紫	円	弱	AB
24	たまうらら	東北 118 号	スズユタカ	エンレイ	1999	中の早	紫	円	弱	AB
25	ハタユタカ	東北 128 号	刈系 434 号に γ 線照射	刈系 237 号	1999	晩の早	紫	円	強	ABCD
26	ゆめみのり	東北 124 号	東北 96 号	デワムスメ	2001	中の晩	紫	円	弱	ABCD
27	ふくいぶき	東北 126 号	赤青 D165	タチユタカ	2002	中の晩	紫	円	強	ABCD
28	青丸くん	東北 141 号	スズユタカ	九交 335F2(γ)-M4	2002	中の早	紫	円	弱	CD
29	すずさやか	東北 135 号	刈交 778F5	コスズ	2003	中の晩	紫	円	強	ABCD
30	すずかおり	東北 148 号	刈交 778F5	刈系 508 号	2004	中	紫	円	弱	ABCD
31	きぬさやか	東北 151 号	刈系 508 号	刈交 0459F1	2005	晩の早	白	卵形	弱	ABCD
32	すずほのか	東北 146 号	刈交 778F5	コスズ	2007	やや早	紫	三角形	弱	ABCD
33	里のほえみ	東北 160 号	東北 129 号	刈交 0264MYF6	2009	晩	白	鋭先卵形	弱	ABCD

注 1. 病虫害抵抗性：SMV はダイズモザイクウイルスであり、A、B、C、D はウイルスの系統別抵抗性を示す。

大麦（皮麦）

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	成熟期	収量性	耐寒雪性	精麦適性	病害抵抗性 うどんこ病
			母	父							
1 ミユキオオムギ	農林24号	東北皮14号	はがねむぎ	北陸皮26号	1975	精麦用	中	多	強	中	中
2 シンジュボシ	農林36号	東北皮34号	東北皮30号	シュンライ	2002	精麦用	やや早	やや多	やや強	大	中
3 小春二条	-	東北皮38号	(ニシゴールド×ミユキオオムギ) F1	ミナルゴールド	2008	醸造用等	中	やや多	やや弱	やや大	中

注 「小春二条」の登録年次は、品種登録の年次である。

そば

品 種 名	登録番号	旧系統名	育 種 素 材	登録年次	用 途	育成日数	耐倒伏性	播種期	収量性	千粒重
1 にじゆたか	—	東北1号	葛生在来と戸隠在来（秋）を相互交配・集団採種し、個体別系統から選抜	—	めん用	やや短	強～極強	夏播き用	中	大

はとむぎ

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用 途	成熟期	草 丈	収量性	粒 重	葉枯病
			母	父							
1 はとむすめ	農林1号	奥羽2号	「岡山在来」にγ線照射突然変異 「岡山在来」にγ線照射突然変異 「黒石在来」より純系分離 東北1号 奥羽4号 東北1号 オホーツク1号		1992	飲用等	中	中	多	中の軽	中
2 はとひかり	農林2号	奥羽3号			1995	飲用等	中の晩	中	中の多	中の重	中
3 はとじろう	農林3号	東北2号			1995	飲用等	早	短	中の少	中の重	やや弱
4 はとゆたか	農林4号	東北3号			2004	飲用等	中の早	短	多	中の重	やや弱
5 はときさら		東北4号			2013	飲用等	極早	極短	中	中	やや弱

な た ね

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用 途	成熟期	収量性	耐倒伏性	エルシン酸の有無	菌核病抵抗性
			母	父							
1 トワダナタネ	農林 44 号	東北 67 号	東北 41 号 (アサヒナタネ)	MR 1 号	1973	搾油用	中の晩	多	やや弱	有	やや弱
2 カミキタナタネ	農林 45 号	東北 77 号	東北 67 号 (アサヒナタネ)	ミホナタネ	1986	搾油用	中の晩	やや多	強	有	強
3 アサカノナタネ	農林 46 号	東北 82 号	チサヤナタネ	Z. E. N	1990	搾油用	中の早	やや多	やや弱	無	弱
4 キザキノナタネ	農林 47 号	東北 84 号	東北 72 号	Rapora	1990	搾油用	中の晩	多	強	無	強
5 キラリボシ	農林 48 号	東北 90 号	盛系 188	KARAT	2002	搾油用	中	多	やや強	無	やや強
6 ななしきぶ	農林 49 号	東北 91 号	盛脂 148	オオミナタネ	2002	搾油用	中	多	強	無	やや強
7 菜々みどり	-	東北 89 号	キザキノナタネ	カミキタナタネ	2004	搾油・野菜用	中の晩	多	強	無	強
8 キタノキラメキ	-	東北 97 号	キザキノナタネ	Onyx	-	搾油用	晩	多	強	無	やや強

な ば な

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	収穫期	収量性	食味	表皮のロウ質	根こぶ病抵抗性
			母	父							
1 はるの輝	農林 1 号	盛系 234 号	トワダナタネの突然変異		1994	野菜用	晩	中	極良	無	無

と ま と

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	熟期	草姿	果実の特性		
			母	父					形	大きさ	色
1 みのり	農林3号	東北4号	Pritchard	Victor	1957	加工用	早	心止り	扁球	大	赤
2 KGM051	-	KC02-115	とまと中間母 本農10号	PK341	2008	生食用	やや晩	普通	腰高球	やや大	濃赤
3 すずこま	-	盛平1号	A-33-129-91	Piline	-	加工用	極早	心止り	腰高球	やや中	赤

はくさい

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	品種	熟期	輸送貯蔵性	球の特性		
			母	父					形	大きさ	かぶり
1 あさひ	農林1号	東北4号	千葉1号	花心	1957	長	早	低	丸～砲弾型	中	やや浅
2 みちのく	農林2号	東北5号	白色包頭連	松島2号	1957	長	中の早	良	砲弾型	やや大	やや浅

ねぎ

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	品質特性		形態的特性		
			母	父			葉身部	辛味	草丈	葉身分枝の縮まり	分けつ発生頻度
1 T AM-1	-	T AM-1	元蔵×他4種		-	FI播種用	軟	少	やや短	優	低

イチゴ

品 種 名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録年次	用途	収穫期	収量性	食味	果実硬度	病害抵抗性
			母	父							
1 なつあかり	農林21号	盛岡29号	サマーベリー	北の輝	2004	生食用	四季成り性	中	四季成り性品種の中で良～極良	やや軟	うどんこ病に中
2 デコルージュ	農林22号	盛岡31号	Pajaro	盛岡26号	2004	ケーキ用	四季成り性	中～多	四季成り性品種の中で良	硬	うどんこ病に強
3 豊雪姫	-	盛岡35号	盛岡32号	カレンベリー	-	生食用・ケーキ用	一季成り性	多	良	中	炭疽病に強

シ バ

品 種 名	登録番号	旧系統名	育 種 素 材	登録 年次	形態及び生態的な特徴	病害抵抗性
1 チバラフワン	-	愛媛 41-5 号	しば在来 42 系統よりラージパッチ耐病性、初冬季緑色保特性選抜試験を経て 1 系統を選抜	2003	冬枯れの開始が遅く、初冬季の緑度保持力が高い	ラージパッチに対する抵抗性

注 1. 「チバラフワン」は、千葉県との共同育成品種である。

シロクローバ

品 種 名	登録番号	旧系統名	合 成 母 材 名	登録 年次	形態及び生態的な特徴	病害抵抗性
1 キタオオハ	農林 1 号	東北 1 号	Oregon Lasino, Italy Ladino, 東北農試在来より選抜した 6 栄養系により合成	1971	国産初の大葉型品種で採草用、瘦地での生産性良好	モザイク病、汚斑病に抵抗性
2 マキバシロ	農林 2 号	東北 9 号	Tregor (F), Pertina (NL), 5849 (Aus)より選抜した 8 栄養系により合成	1980	中葉型でやや大葡萄系の伸長が大放牧採草適性良好	褐斑病、そばかす病等に抵抗性
3 ミネオオハ	農林 4 号	東北 15 号	海外育成 50 品種より選抜した 32 栄養系により合成 外国産 6 品種を母体に合成	1989	大葉型で永続性、オーチャードグラスとの混播性、窒素耐性に優れる	菌核病抵抗性
4 ノースホワイ ト	農林 5 号	東北 21 号	USDA より導入した PI223824 (AFG)、228367 (IR)、234264 (IRQ)、245124 (USA)、250996 (YUG)、253322 (YUG)、287989 (SPN)、300157 (SAF) より選抜した 50 栄養系により合成	1994	国産初の小葉型で放牧専用、チモシーとの混播、適性、永続性に優れる	

ク　　ワ

品　種　名	登録番号	旧系統名	組み合わせ		登録 年次	系統型	先枯れ	収葉量	密植適合性	病害抵抗性 (縮葉細菌病性)
			母	父						
1　みっしげり	桑農林 10 号	東 61 － 03	N0. 71	改良単返	1988	ヤマグワ系	少ない	良質多収	良好	やや強

フェストロリウム

品　種　名	登録番号	旧系統名	育　種　素　材		登録 年次	形態及び生態的な特徴	病害抵抗性
1　東北 1 号	-	東北 1 号	フェストロリウム既存 3 品種 1299 個体から集団及び母系選抜法によって選抜した 13 系統の多交配による		2012	草丈が高く、採草に向く多収系統。耐湿性に優れ、寒冷地の転作田等での栽培にも適する。	冠さび病に抵抗性
2　イカロス	-	盛系 1 号	フェストロリウム既存品種 1651 個体から集団選抜法によって選抜した 7 系統の多交配による		2010 (出願)	茎数が多く、寒冷地の草地や畑での採草または放牧利用に適する。	冠さび病、雪腐病（褐色小粒菌核）に抵抗性

3) 作物遺伝資源・作物品種の受入・移管・増殖・配布・保存数

作物名	平成 24 年度		平成 24 年度末 保存数	平成 24 年度		備考
	受け入れ	移管		再増殖	配布	
水 稲	0	0	808	50	0	受入：— 配布：—
小 麦	0	10	143	0	0	受入：— 配布：—
大 麦	0	0	59	0	0	受入：— 配布：—
大 豆	0	0	353	150	0	受入：— 配布：—
エ ゴ マ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ナ タ ネ	10	10	166	10	7	受入：— 配布：—
ハ ト ム ギ	21	1	21	3	0	受入：— 配布：—
ア ワ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ル タ バ ガ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ツケナ（ナタネ類）	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
カ ブ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
キ ュ ウ リ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
シ コ ク ビ エ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
キ ビ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ジ ュ ズ ダ マ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ピ ー マ ン	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
キ ク イ モ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ソ ウ メ ン ウ リ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ソ バ	0	1	2	1	0	受入：— 配布：—
ナ ス	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
水 菜	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
サ サ ゲ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
カ ン シ ョ	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
金 時 草	0	0	0	0	0	受入：— 配布：—
ホ ウ レ ン ソ ウ	0	0	601	10	0	受入：— 配布：—

作 物 名	平成 24 年度		平成 24 年度末 保 存 数	平成 24 年度		備 考
	受け入れ	移 管		再増殖	配 布	
ト マ ト	0	0	1,847	0	0	受入：— 配布：—
イ チ ゴ	2	0	393	60	8	受入：2 配布：8
イタリアンライグラス	0	0	14	0	0	受入：— 配布：—
ペレニアルライグラス	0	0	36	0	0	受入：— 配布：—
ハイブリッドライグラス	0	0	37	0	0	受入：— 配布：—
オーチャードグラス	0	0	14	0	0	受入：— 配布：—
リードカナリーグラス(くさよし)	0	0	114	0	0	受入：— 配布：—
ウ シ ノ ケ グ サ 類	0	0	6	0	0	受入：— 配布：—
し ば	0	0	68	0	0	受入：— 配布：—
ス ス キ 属	20	0	20	0	0	受入：— 配布：—
合 計	53	22	4,702	284	15	受入：2 配布：8

4. 広 報 活 動

1) 所刊行物

平成 24 年度に出版した刊行物（会議資料は除く）は、次のとおりである。なお、研究報告等に収録された論文題名は「1. 研究成果の発表」に掲載してある。

(1) 研究報告、ニュース、年報等

誌 名 (巻 号)	印刷数	配布数
東北農業研究センターたより No. 37	3,500	3,500
東北農業研究センターたより No. 38	3,000	3,000
東北農業研究センターたより No. 39	3,000	3,000
東北農業研究センター研究報告 No. 115	850	850
革新的農業技術習得支援事業「水稻の直播栽培技術」	20	20
東北農業研究センター農業経営研究第 30 号	600	600
東北農業研究叢書 第 8 号	600	600
東北農業研究叢書 第 9 号	600	600

(2) 広報誌（要覧、パンフレット等）

誌 名	印刷数	増刷数
東北農業研究センター要覧	3,000	3,000
乾田直播栽培技術マニュアル ver. 2	1,000	1,000
農研機構水田農業フォーラム 講演要旨集	400	
平成 24 年度東北地域マッチングフォーラム講演要旨集	600	
岩手県における農薬 50%削減リンゴ栽培マニュアル		300
「萌えみのり」の鉄コーティング直播栽培マニュアル (ver1.2)		1,000
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業成果発表会 「被害リスクに応じたウリ科野菜ホモプシス根腐病の総合防除 技術の確立」講演要旨集	600	
ウリ科野菜ホモプシス根腐病被害回避マニュアル	1,500	
東北農業研究センターで育成した品種	2,000	
研究成果パンフレット「放牧で草原を維持する」		2,000
研究成果パンフレット「地域の資源を活かして魅力ある良質牛 肉をつくる」		2,000
ニンニク周年供給のための収穫後処理マニュアル	500	
GoogleMap による気象予測データを利用した農作業警戒情報マ ニュアル ver. 2	700	

２）視察者・見学者の受入（一般公開は除く）

区 分	生産者	消費者	青少年	マスコミ	行 政	研究機関 (大学等)	民 間	海 外	その他
件 数	29	30	38	0	14	42	15	5	3
人 数	408	216	1,429	0	113	366	111	18	45

３）催事（一般公開、イベント、体験学習等）および協力

(1) 研究所一般公開

公 開 名	開 催 日	開 催 場 所	参加者数
一般公開「東北の水稲・大豆研究の最前線」	H24. 9. 1	東北農研大仙研究拠点	291
公開デー 「君は見たか！水田農業の底デカラ」	H24. 9. 8	東北農研本所	729

(2) イベント

イ ベ ン ト 名	開 催 日	開 催 場 所	参加者数
菜の花公開	H24. 5. 16 ～ 5. 17	東北農研本所	3,175

(3) 科学技術離れ対策の協力状況

イベント名	主催者（共催）	協力の内容	開催日	開催場所	参加者数
総合的な学習にかかわる農作業体験	盛岡市立北厨川小学校	3 学年生徒に当所育成品種のうち 2 つの作物について播種から生育観察、収穫までの体験を実施した。	H24. 5 ～ 11 までのうち 8 日間	東北農研本所	延べ 624
総合的な学習にかかわる職場実習体験	盛岡市立生出小学校	5 学年生徒を対象にイチゴの育種について講義、実習等を実施。	H24. 4 ～ 12 までのうち 5 日間	東北農研本所	延べ 16
施設見学	岩手大学農学部	生命資源科学コース 3 年次学生を対象に園芸学実験の授業の一環として、野菜花き研究に関する講義と、施設見学を実施した。	H24. 6. 29	東北農研本所	36
田んぼの科学教室	東北農研大仙研究拠点	水田を中心とした作物（稲及び大豆）の育成について講義と実習を実施。	H24. 7. 9	東北農研大仙研究拠点	160
施設見学	岩手大学農学部	生命資源科学コース 3 年次学生を対象にグラディオトロンおよび人工気象室等の施設見学と見学施設に関する研究成果について講義を実施した。	H24. 7. 9	東北農研本所	31

イベント名	主催者（共催）	協力の内容	開催日	開催場所	参加者数
施設見学	二戸市立仁左平中学校	総合的な学習の一環として、事業概要と主な研究成果について紹介し、グラディオトロロンおよびほ場見学を実施した。	H24. 7. 12	東北農研本所	13
施設見学	岩手大学農学部	生物産業科学コース3年次学生を対象に乾田直播、立毛間播種等の技術の講義と、作業機の見学並びにグラディオトロロン等の施設見学を実施した。	H24. 7. 13	東北農研本所	37
職場体験学習	岩手県立盛岡農業高校	同校動物科学科・植物科学科インターンシップ研修の一環として、野菜花き研究全般にかかる作業体験を実施した。	H24. 7. 26 ～ 7. 30	東北農研本所	2
サマーサイエンスキャンプ 2012	（独）科学技術振興機構	2泊3日のカリキュラムで高校生を受け入れ、研究者が各テーマに沿った講義・指導、実習、実験の体験を実施した。	H24. 8. 1 ～ 8. 3	東北農研本所	10
環境科学科研究学習	岩手県立盛岡農業高校	同校環境科学科における土壌の塩類除去研究学習への知識向上のため、土壌塩分濃度の調査方法について実技を交え講義を実施した。	H24. 8. 6	東北農研本所	12
施設見学・所長インタビュー	岩手県立盛岡第一高校	同校の総合学習において『「職業を知る」そして「人を知る」』というテーマのもと、農業研究の現状について所長がインタビューを受けたほか、グラディオトロロン等の施設とほ場見学を実施した。	H24. 8. 6	東北農研本所	3
施設見学	明治大学農学部	応用昆虫学研究室の学生に対し、害虫管理の基礎研究分野にかかる講義と、施設見学および実験ほ場見学を実施した。	H24. 8. 8	東北農研本所	21
職場訪問	早稲田実業高等部	修学旅行のカリキュラムの一環として職場訪問があり、事業概要と主な研究成果について紹介し、グラディオトロロンおよびほ場見学を実施した。	H24. 8. 22	東北農研本所	5
職場訪問	岩手県立福岡高校	総合的な学習の一環として、1学年生徒を対象に事業概要、若手研究者の採用までの家庭と研究テーマについて講義を実施した。	H24. 8. 28	東北農研本所	5
職場体験学習	盛岡市立北陵中学校	総合的な学習の職場体験学習として、小麦の収穫調整について作業体験を実施した。	H24. 9. 11	東北農研本所	1

イベント名	主催者（共催）	協力の内容	開催日	開催場所	参加者数
職場体験学習	盛岡市立仙北中学校	総合的な学習の職場体験学習として、ソバの収穫調整について作業体験を実施した。	H24. 9. 20	東北農研本所	2
施設見学	岩手大学農学部 東京農工大農学部	岩手大農学部、東京農工大学農学部の共同獣医学科1年次学生を対象に畜産研究に関する講義と、畜産関連施設の見学を実施した。	H24. 9. 25	東北農研本所	74
職場体験学習	一戸町立小鳥谷中学校	総合的な学習の職場体験学習として、畜産研究の調査の補助と、イチゴ研究の調査、苗の定植等について作業体験を実施した。	H24. 9. 25 ～ 9. 27	東北農研本所	2
施設見学	岩手大学農学部	動物科学課程2年次学生を対象に動物化学実験Ⅰの授業の一環として、畜産研究に関する講義と、畜産関連施設の見学を実施した。	H24. 10. 3	東北農研本所	37
施設見学	岩手大学農学部 （バングラデシュ農業大学）	日本学術振興会・二国間交流事業共同研究（研究代用者：岩手大）により岩手大学へ訪問しているバングラデシュ農業大学の教授および院生を対象に、 畜産研究に関する講義 と、畜産関連施設の見学を実施した。	H24. 10. 3	東北農研本所	3
施設見学	岩手県立花巻農業高校	生物科学科2学年生徒を対象に事業概要の説明並びに圃場見学を実施した。	H24. 11. 9	東北農研本所	44

(4) 科学技術離れ対策以外のイベントへの協力および参画

イベント名	主催者（共催）	協力の内容	開催日	開催場所
ベーカリー素材 EXPO	ベーカリー素材 EXPO 実行委員会 ※企画：ベーカリー産業企画㈱	研究成果パネル、品種等の展示	H24. 5. 23 ～ 5. 25	東京国際展示場 （東京都港区）
土日環境学習講座	岩手県環境学習交流センター （NPO 法人 環境パートナーシップいわて）	「学びからやさしい未来を」と題し、“環境”に関する情報提供、学習や活動支援などの学習講座を毎月開催。	H24. 8. 5	岩手県民情報交流センター・アイーナ （岩手県盛岡市）

イベント名	主催者（共催）	協力の内容	開催日	開催場所
土日環境学習講座	岩手県環境学習交流センター (NPO 法人 環境パートナーシップいわて)	「学びからやさしい未来を」と題し、“環境”に関する情報提供、学習や活動支援などの学習講座を毎月開催。	H24. 8. 18	岩手県民情報交流センター・アイーナ (岩手県盛岡市)
第 67 回岩手県全国農業機械実演展示会	(社)岩手県農業機械協会	研究成果パネル、品種等の展示、個別相談	H24. 8. 24 ～ 8. 26	岩手県産業文化センター・アピオ (岩手県滝沢村)
岩手県工業技術センター一般公開	岩手県工業技術センター	研究成果パネル、品種等の展示、試食、個別相談	H24. 10. 5 ～ 10. 6	岩手県工業技術センター (岩手県盛岡市)
福島県農業総合センターまつり	福島県農業総合センター	研究成果パネル、品種等の展示、試食、個別相談	H24. 10. 20 ～ 10. 21	福島県農業総合センター (福島県郡山市)
大仙市秋の稔りフェア	秋田県大仙市	研究成果パネル、品種等の展示、試食、個別相談	H24. 10. 27 ～ 10. 28	大仙市武道館ほか (秋田県大仙市)
第 19 回加工・業務用野菜産地と実需者との交流会 国産野菜の契約取引マッチングフェア in 仙台	(独)農畜産業振興機構 野菜ビジネス協議会	研究成果パネル、品種等の展示、試食、個別相談	H24. 10. 31	仙台卸商センター産業見本市会館・サンフェスタ (宮城県仙台市)
第 135 回秋田県種苗交換会	秋田県農業協同組合中央会	研究成果パネル、品種等の展示、試食、個別相談	H24. 10. 31 ～ 11. 6	能代市総合体育館ほか 能代市内数カ所 (秋田県能代市)
ビジネスマッチ東北 2012 秋	(社)東北ニュービジネス協議会 (社)東北地区信用金庫協会 (社)東北経済連合会 東経連ビジネスセンター	研究成果パネル、品種等の展示、試食、個別相談	H24. 11. 8	夢メッセみやぎ (宮城県仙台市)
リエゾン I マッチングフェア	いわて産学連携推進協議会ほか	研究成果パネル、品種等の展示、試食、個別相談	H24. 11. 9	岩手県立大学 (岩手県滝沢村)
アグリビジネス創出フェア 2012	農林水産省	研究成果パネル、品種等の展示、試食、個別相談	H24. 11. 14 ～ 11. 16	東京国際展示場 (東京都港区)
食のブランド・ニッポン 2012	農研機構 森林総合研 国際農林水産研	研究成果パネル、品種等の展示、試食、個別相談	H24. 11. 27	ホテル日航東京 (東京都江東区)

イベント名	主催者（共催）	協力の内容	開催日	開催場所
農業フロンティア 2012	経済産業省 農林水産省	「生産者と消費者、日本と世界を結ぶ」「農業は成長産業へ」をコンセプトに、東日本大震災の被災地域を始めとした日本の食や農産品の魅力、最先端の農業技術・ビジネスモデルを国内外に発信することを目的として、11月以降開催される「食と農林漁業の祭典」の締め括りイベントとして開催。	H24. 12. 1 ～ 12. 2	東京国際展示場 （東京都港区）
東北地域アグリビジネス創出フェア 2012	東北地域農林水産・食品ハイテク研究会	研究成果パネル、品種等の展示、試食、個別相談	H24. 12. 5	仙台市情報産業プラザ・アエル （宮城県仙台市）
第20回加工・業務用野菜産地と実需者との交流会 国産野菜の契約取引マッチングフェア in 東京	（独）農畜産業振興機構 野菜ビジネス協議会	研究成果パネル、品種等の展示、試食、個別相談	H25. 2. 9	東京国際フォーラム （東京都千代田区）
農林水産省消費者の部屋 特別展示	農林水産省	研究成果パネル、品種等の展示、個別相談	H25. 3. 11 ～ 3. 15	農林水産省 （東京都千代田区）

4) シンポジウム・セミナー（主催または共催）

シンポジウム・セミナー・研究会等名称	開催日	開催場所	参加者数
平成 24 年度東北ナタネセミナー「東北のナタネ生産振興及び拡大のための現地検討会」	H24. 5. 29	雫石町中央公民館（岩手県雫石町）	58
第 55 回東北農業試験研究発表会	H24. 8. 8	コラッセふくしま（福島市）	344
農研機構水田農業フォーラム「東北・北海道地域における低コスト稲作を考えるー北国の大規模水田農業を支える水稻乾田直播ー	H24. 8. 28	青森市男女共同参画プラザ「カダール」（青森市）	241
平成 24 年度東北ソバフォーラム	H24. 9. 13	会津坂下町中央・坂下公民館（福島県会津坂下町）	98
平成 24 年度東北地域マッチングフォーラム「震災からの復興、さらにその先を目指して」	H24. 11. 30	仙台市広瀬文化センター（仙台市）	124
りんごの特別栽培で新たに顕在化した害虫の合理的防除に関する検討会	H24. 12. 18	紫波町情報交流館「オガールプラザ」（岩手県紫波町）	93
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「被害リスクに応じたウリ科野菜ホモプシス根腐病の総合防除技術の確立」成果発表会	H24. 12. 19	盛岡市民文化ホール「マリオス」（盛岡市）	120
すずこまシンポジウムー被災農地復興作物「すずこま」トマトの現状と未来を語るー	H25. 2. 9	キリンビアフェスタ（仙台市）	30
平成 24 年度第 1 回東北農業研究センターセミナー	H24. 6. 12	東北農業研究センター（盛岡市）	40
平成 24 年度第 2 回東北農業研究センターセミナー	H24. 7. 2	東北農業研究センター（盛岡市）	26
平成 24 年度第 3 回東北農業研究センターセミナー	H24. 7. 30	東北農業研究センター（大仙市）	34
平成 24 年度第 4 回東北農業研究センターセミナー	H24. 8. 20	東北農業研究センター（大仙市）	44
平成 24 年度第 5 回東北農業研究センターセミナー	H24. 8. 29	東北農業研究センター（大仙市）	23
平成 24 年度第 6 回東北農業研究センターセミナー	H24. 10. 5	東北農業研究センター（盛岡市）	22
平成 24 年度臨時東北農業研究センターセミナー	H24. 10. 17	東北農業研究センター（福島市）	22
平成 24 年度第 7 回東北農業研究センターセミナー	H24. 10. 22	東北農業研究センター（盛岡市）	28
平成 24 年度第 8 回東北農業研究センターセミナー	H24. 10. 26	東北農業研究センター（盛岡市）	30
平成 24 年度第 9 回東北農業研究センターセミナー	H24. 11. 14	東北農業研究センター（盛岡市）	20

5. 図書資料収集・文献提供等

◎収 書 数

平成 24 年度に収集した図書・資料は以下のとおりである。

	単 行 書 (冊)							資 料 (冊)			
	和 書			洋 書			合計	和 書			
	購入	寄贈 交換	計	購入	寄贈 交換	計		購入	寄贈 交換	計	
本所（厨川）	114	48	162	1	0	1	163	16	153	169	
（鍋屋敷）	2	55	57	0	0	0	57	0	5	5	
大仙研究拠点	29	0	29	9	0	9	38	0	14	14	
（刈和野）	4	0	4	1	0	1	5	0	12	12	
福島研究拠点	1	12	13	0	0	0	13	11	103	114	
合 計	150	115	265	11	0	11	276	27	287	314	
	資 料 (冊)				逐 次 刊 行 物 (誌)						合計
	洋 書			合計	和 書			洋 書			
	購入	寄贈 交換	計		購入	寄贈 交換	計	購入	寄贈 交換	計	
本所（厨川）	0	3	3	172	113	535	648	77	42	119	767
（鍋屋敷）	0	0	0	5	0	0	0	8	0	8	8
大仙研究拠点	0	1	1	15	18	72	90	12	11	23	113
（刈和野）	0	0	0	12	8	7	15	2	0	2	17
福島研究拠点	0	14	14	128	37	68	105	6	6	12	117
合 計	0	18	18	332	176	682	858	105	59	164	1,022

管理換え等による収集数・除籍数

	収 書 数					除 籍 数				
	単行書	資料	逐次刊行物	合計(冊)	視聴覚資料	単行書	資料	逐次刊行物	合計(冊)	視聴覚資料
本所（厨川）	0	0	0	0	0	27	8	30	65	0
（鍋屋敷）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大仙研究拠点	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（刈和野）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福島研究拠点	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0	0	27	8	30	65	0

注：視聴覚資料はマイクロフィルム（ロール、フィッシュ）や映像テープをさす。

◎蔵書数

平成 24 年度末の蔵書数は以下のとおりである。

	単行書(冊)			資料(冊)			単行書・資料合計(冊)	
	和書	洋書	計	和書	洋書	計	和書計	洋書計
本所(厨川)	23,191	4,198	27,389	29,983	5,003	34,986	53,150	9,204
(鍋屋敷)	1,377	422	1,799	7,464	1,657	9,121	8,841	2,079
大仙研究拠点	3,235	6,130	9,365	6,656	211	6,867	9,891	6,341
(刈和野)	1,049	167	1,216	997	14	1,011	2,046	181
福島研究拠点	4,172	739	4,911	11,105	200	11,305	15,277	939
合 計	33,024	11,656	44,680	56,205	7,085	63,290	89,205	18,744
	逐次刊行物(誌)				視聴覚資料等			
	合計	和書	洋書	計	ロールフィルム	フィッシュ・フィルム	映像テープ	その他
本所(厨川)	62,354	5,004	1,304	6,308	104	9,243	60	225
(鍋屋敷)	10,920	345	14	359	0	0	0	0
大仙研究拠点	16,232	663	162	825	0	0	0	0
(刈和野)	2,227	0	0	0	0	0	0	0
福島研究拠点	16,216	53	10	63	0	0	0	0
合 計	107,949	6,065	1,490	7,555	104	9,243	60	225

◎サービス

平成 24 年度に情報広報課(厨川)および隔地図書室で行ったサービスは以下のとおりである。

	貸出 冊数	コンテンツ・サービス 誌数 延べサービス 研究室数		文献複写サービス					
				外部への複写依頼件数			外部からの複写依頼件数		
				農水関係 機関	外部機関	合計	農水関係 機関	外部機関	合計
本所(厨川)	396	10	99	124	91	215	186	45	231
(鍋屋敷)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大仙研究拠点	9	0	0	36	4	40	8	0	8
(刈和野)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福島研究拠点	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	405	10	99	160	95	255	194	45	239

Ⅲ 連携・研修・技術協力

Ⅲ 連携・研修・技術協力

1. 産学官の連携・協力

1) 産学官連携支援活動

平成 19 年 4 月 1 日に発足した「産学官連携支援センター」では、①新品種や新技術等の研究成果を農業者や農業団体、企業等の実需者に PR するとともに、普及・定着を図ること、②東北農研の保有する研究能力や研究成果を活用した共同研究や共同開発を支援すること、の 2 つを主な業務として活動している。

活動の概況

(1) 出前技術指導

平成 20 年度に発足した出前技術指導制度は、東北農研の研究開発した栽培技術、品種、機械等を、農業者、農業団体、企業等の要望に応じて現地に出向いて技術指導を行うものである。平成 24 年度に実施した技術指導の内容は、「萌えみのり」の鉄コーティング湛水直播栽培、「飼料米専用品種の栽培技術」、「寒冷地向け水稻乾田直播体系」と多様であり、実施回数は延べ 17 回を数えた。

(2) テーブルリサーチ、ミニテーブルリサーチ

競争的資金を活用した産学官連携によるプロジェクト研究等を、東北農研が中核機関として企画し提案することを目指して、構想されている技術開発の必要性や研究計画の妥当性について、関係する研究者、有識者を広く集めて素案段階で検討する「テーブルリサーチ」と、研究者グループが集まって、具体的な研究計画や申請書案を検討する「ミニテーブルリサーチ」を実施している。

平成 24 年度にはテーブルリサーチとして「食料生産地域再生のための先端技術展開事業（岩手県版）の課題化に向けた勉強会」を開催した。また、ミニテーブルリサーチとして「食料生産地域再生のための先端技術展開事業（岩手県版）の応募準備会合」を開催した。これらの課題化検討は、同事業における課題構築と採択に結びついた。

(3) いわて産学連携推進協議会（リエゾナー I）

本協議会は、研究機関会員のシーズと岩手県内企業等のニーズとをマッチングさせることにより新たなビジネスの創出を図り、新産業育成や地域雇用の創出に努めるとともに、研究機関会員の各種研究成果のビジネス化に向けた支援および外部資金調達の支援を行うことを目的としている。同協議会が 9 月に発行した「研究シーズ集 2012」に、研究シーズ 30 点を提供した。また、11 月 9 日に岩手県立大学（滝沢村）で行われた、いわて産学官連携フォーラム（リエゾナー I マッチングフェア）に近年の研究成果から「プラウ耕グレーンドリル乾田直播技術体系」と「水稻鉄コーティング湛水直播技術体系」および「Google Map による水稻栽培管理警戒情報システム」などの成果を出展した。

(4) 水田農業フォーラム

平成 23 年度主要普及成果に選定された「プラウ耕グレーンドリル乾田直播技術体系」の普及拡大を目的として、農研機構水田農業フォーラム「東北・北海道地域における低コスト稲作を考えるー北国の大規模水田農業を支える水稻乾田直播ー」を 8 月 28 日に青森市で開催した。北海道、東北の研究者に加えて、同地域で乾田直播栽培に取り組む生産者、その指導にあたる普及指導関係者が 241 名集まり、大規模化、低コスト化のキーテクノロジーとなる乾田直播の北海道・東北地域における普及の現状と課題について、熱心な討論が行われた。生産者が出席者全体の 4 割を占めるなど、生産現場に立脚した検討の場となったのが収穫であった。

2) 行政との連携・協力

(1) 東北地域研究・普及連絡会議

本会議は 19 年度に創設された。24 年度は食料生産地域再生のための先端技術展開事業宮城県版

のオープンラボになっている宮城県農業・園芸総合研究所で開催され、①地域研究普及連絡会議のあり方について、②国の施策で対応すべき技術的課題候補の選定、③農業新技術 2013 候補の選定、④東北農業新技術実用化促進プロジェクト（1.5 年プロ）実証技術の選定等が行われた。②では東北農業試験研究推進会議を通じて各機関より提出された 34 課題が、③では同じく 5 課題が了承された。1.5 年プロについては別項で記す。

上記の議案の他に、農林水産技術会議事務局の概算要求の中で、東日本大震災復興支援のための「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の概要と今後の進め方について説明があった。それに関連して、同事業の成果を日本海側地域を含めて東北地域に迅速に普及することを目的とする、東北 6 県連絡会議の設置について東北農政局から提案があり、目的や実施方法について意見交換が行われた。

(2) 東北農業新技術実用化促進プロジェクト (1.5 年プロ) 対応

本プロジェクトは、試験研究機関で開発された新技術の実用性について、現地での実証試験等により短期間で検証・評価することを目的としており、東北地域内外の試験研究機関で開発された技術のうち、東北地域内の県域を越えた相当範囲への速やかな導入が期待できる技術を対象としている。24 年度は残念ながら提案された技術シーズがなく、開設以来初めて実施課題がないことになった。本プロジェクトに関しては、予算の背景を持たない脆弱性が指摘されており、県域を越えた技術普及の仕組みとして、新技術導入広域推進事業などを活用する必要性が指摘された。

(3) 東北地域農林水産・食品ハイテク研究会対応

役員（所長）、企画委員（企画管理部長）、運営協力（研究調整役）として活動に参画した。7 月 17 日に東北農研（盛岡市）で開催された企画委員会では 23 年度活動報告と 24 年度活動計画が審議

された。また、7 月 24 日にホテル法華クラブ仙台で開催された役員会・総会において、24 年度事業計画と予算案が承認された。

東北地域において農林水産省等の競争的資金を活用した産学官連携共同研究の課題化を推進するため、平成 24 年 8 月 31 日と 11 月 27 日にいわて県民情報交流センター（盛岡市）において、25 年 2 月 27 日にホテル法華クラブ仙台において、24 年度産学官連携共同研究検討会議を開催した。会議では、研究開発推進委員（競争的資金への応募・採択経験の豊富な各種分野の研究者）、地域アドバイザー（独立行政法人・公設試験研究機関の研究者）等が、競争的資金に応募する共同研究課題について、課題提案者に対する指導・助言を行った。

3) 大学との連携・協力

連携大学院

農研機構は、産学官連携、協力の促進強化のなかで連携大学院制度等を活用し、大学との一層の連携強化を図ることとしている。

東北農研では、平成 18 年度より岩手大学院連合農学研究科と「連携大学院協定」を締結し、大学院生への研究指導を行っている。平成 24 年度は、9 名の研究者が客員教授の発令を受け、大学院教育に参加した。

4) 共同研究・協定研究等の実施状況

分 類	共同研究	協定研究	備考
	件数	件数	
国	1	0	
大 学	7	14	
地方公共団体	10	8	
民 間	9	10	
独 法	8	7	
そ の 他	1	4	
合 計	36	43	

5) 依頼による分析・同定の実施状況

依頼分析・同定の件名	分析点数	依頼を受けた日	延べ日数
草本種の同定	7 点	H24. 6. 18	1 日
高木及び低木樹種の同定	20 点	H24. 10. 9	1 日
アブの同定	5 点	H24. 10. 9	1 日

6) 開放型研究施設の利用状況

1. 共同利用した施設一覧

共同利用した施設・機械等
温度勾配実験施設
機能性評価実験棟

2. 機構外部からの利用状況

利用者の類型	利用実績（単位：延べ人数）		
	温度勾配実験施設	機能性評価実験棟	計
他独法職員			0
大学等	1, 086	88	1, 174
公立試験研究機関		17	17
民間		12	12
その他		24	24
合 計	1, 086	141	1, 227

3. 機構外部からの利用目的

利用目的の類型	利用実績（単位：延べ人数）		
	温度勾配実験施設	機能性評価実験棟	計
共同研究		10	10
協定研究	690		690
依頼研究員			0
研修・講習等	264	100	364
その他	132	31	163
合 計	1, 086	141	1, 227

2. 研究者の受入れ等

1) 交流

流動研究員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
	なし			

2) 留学

国内留学

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
	なし			

3) 研修・講習等

依頼研究員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
岩手県農業研究センター	1	水稻鉄コーティング散播栽培に関する研究	水田作研究領域	H24. 5. 1～ 7. 31
青森県産業技術センター農林総合研究所	1	根系調査法および染色法を用いた根分布の調査法の習得	農業放射線研究センター	H24. 7. 9～ 8. 31
新潟県農業総合研究所作物研究センター	1	地理情報システム(GIS)を利用した斑点米カメムシの発生要因の解析技術の習得	生産環境研究領域	H24. 10. 15～12. 26

技術講習生

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
岩手大学大学院農学研究科	2	食肉の成分分析	畜産飼料作研究領域	H24. 4. 9～ 5. 31
岩手大学大学院農学研究科	3	肥育牛の枝肉解体研修	畜産飼料作研究領域	H24. 4. 10～ 4. 26
岩手大学農学部	4	肥育牛の枝肉解体研修	畜産飼料作研究領域	H24. 4. 10～ 4. 26
岩手大学農学部	1	GCMS による牛肉のフレーバー分析	畜産飼料作研究領域	H24. 5. 21～ 6. 8
東北大学大学院	2	温度勾配チャンバーを用いたダイズの温度・CO ₂ 応答実験・解析手法の習得	生産環境研究領域	H24. 6. 1～12. 28
岩手県県南広域振興局	1	食肉の脂質過酸化測定法	畜産飼料作研究領域	H24. 6. 15～ 6. 18

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
岩手大学大学院 農学研究科	2	筋肉中の脂肪酸組成およびアミノ酸含量の分析	畜産飼料作研究領域	H24. 7. 1～H25. 3. 31
長岡技術科学大学大学院	1	クサヨシ（リードカナリーグラス）東日本自生集団の、分子生物学的手法を用いた核型解析と系統分析	畜産飼料作研究領域	H24. 7. 2～ 7. 31
帯広畜産大学大学院	1	日本短角種に関する飼養および肉質評価	畜産飼料作研究領域	H24. 7. 10～ 7. 20
京都大学大学院	1	温度勾配チャンバーを用いたダイズの温度応答実験・解析手法の習得	生産環境研究領域	H24. 7. 23～ 7. 24
東北大学農学部	1	遺伝子発現解析方法等の技術習得	生産基盤研究領域	H24. 8. 27～ 8. 29
岩手大学農学部	1	ケイ酸肥料多寡によるイネの水透過性に関する研究	生産基盤研究領域	H24. 8. 27～ 8. 31
岩手大学農学部	1	水稻乾田直播の高能率播種体系に関する研究	生産基盤研究領域	H24. 8. 27～ 9. 14
岩手大学農学部	1	水稻乾田直播の高能率播種体系に関する研究	生産基盤研究領域	H24. 9. 3～ 9. 28
岩手大学農学部	1	オキシトシン負荷試験を利用したウシ胚生存性の評価	畜産飼料作研究領域	H24. 9. 3～H25. 3. 29
岩手大学農学部	1	筋肉中のアミノ酸含量の分析	畜産飼料作研究領域	H24. 9. 5～H25. 3. 31
岩手大学農学部	1	寒冷地野菜の栽培に関する研究	畑作園芸研究領域	H24. 9. 10～ 9. 14
長岡技術科学大学大学院	1	クサヨシ（リードカナリーグラス）東日本自生集団の、分子生物学的手法を用いた核型解析と系統分析	畜産飼料作研究領域	H24. 9. 10～10. 26
筑波大学大学院	1	ウシ受精卵移植関連技術に関する研究	畜産飼料作研究領域	H24. 9. 18～ 9. 28
岩手大学農学部	1	放牧地の生産量の調査方法	畜産飼料作研究領域	H24. 9. 21～ 9. 28
岩手大学農学部	2	野菜作における省力作業技術の開発に関する研究	畑作園芸研究領域	H24. 9. 24～ 9. 28
岩手県農業研究センター畜産研究所	1	アミノ酸分析	畜産飼料作研究領域	H24. 10. 1～10. 31
岩手県農業研究センター畜産研究所	1	アミノ酸分析、豚肉せん断力価	畜産飼料作研究領域	H24. 11. 7～12. 28

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
東北大学大学院	1	枯草菌における血糖値降下物質（DNJ）大量生産手法、及び培養液からのDNJ精製手法の習得	環境保全型農業研究領域	H24. 11. 12～11. 16
山形県農業総合研究センター養豚試験場	1	食肉の剪断力価の測定法技術習得	畜産飼料作研究領域	H24. 12. 3～H25. 1. 31
岩手大学農学部	1	葉菜類の生長解析手法の習得	畑作園芸研究領域	H24. 12. 17～H25. 2. 15

国際協力事業団研修員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
	なし			

国際農林水産業研究センター招へい

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
	なし			

4) 外部研究者
招へい研究員

所 属	人 数	目 的	受入研究領域等	期 間
	なし			

日本学術振興会事業外国人特別研究員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
	なし			

日本学術振興会事業特別研究員

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
	なし			

5) その他

所 属	人 数	課 題 名	受入研究領域等	期 間
	なし			

3. 研究者の派遣等

1) 交流

流動研究員

所 属	人 数	課 題 名	派 遣 先	期 間
水田作研究領域	1	量的抵抗性の持続性に関わる遺伝要因の解明	岩手生物工学研究センター	H24. 8. 6～ 9. 7

2) 留学

国内留学

所 属	人 数	課 題 名	留 学 先	期 間
	なし			

長期在外研究員

所 属	人 数	課 題 名	派 遣 先 国	期 間
	なし			

3) その他

海外派遣

所 属	人 数	目 的	派 遣 先 国	期 間
生産基盤研究領域	1	ドイツにおけるナタネ生産およびバイオ燃料の持続可能性に関する実証的研究に関する現地調査	ドイツ	H24. 10. 7～10. 15
生産基盤研究領域	1	ドイツにおけるナタネ生産およびバイオ燃料の持続可能性に関する実証的研究に関する現地調査	ドイツ	H24. 10. 7～10. 15
生産基盤研究領域	1	ドイツにおけるナタネ生産およびバイオ燃料の持続可能性に関する実証的研究に関する現地調査	ドイツ	H24. 10. 7～10. 15

4. 技術協力・指導

1) 研修会等への講師派遣

平成 24 年度に技術指導等の講師派遣依頼を受けた内容は以下のとおりである。

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者
水田作研究領域	(出前技術指導) 「萌えみのり」の直播栽培	H24. 4. 12	登米市	(株)ヤマタネ
畑作園芸研究領域	2011年度「植物利用促進の研究」研究成果報告会講師	H24. 5. 11 ～5. 12	名古屋市	(株)コンボン研究所
農業放射線研究センター	(出前技術指導) 簡易空撮気球の実演・調査	H24. 5. 19 ～5. 21	春日井市	中部大学
農業放射線研究センター	(出前技術指導) 簡易空撮気球の技術移転	H24. 6. 19	竜ヶ崎市	(有)横田農場
水田作研究領域	(出前技術指導) 水稻品種「萌えみのり」の栽培技術	H24. 6. 22	秋田市	J A全農あきた
水田作研究領域	(出前技術指導) 「萌えみのり」の直播栽培	H24. 6. 22	秋田市、 にかほ市	J A秋田しんせい
農業放射線研究センター	(出前技術指導) 簡易空撮気球の実演	H24. 7. 10	山形県 河北町	元泉地区保全会
生産基盤研究領域	「乾田直播」栽培技術講師	H24. 7. 11	金ヶ崎町	ヤンマー農機販売(株)東日本カンパニー
農業放射線研究センター	(出前技術指導) 簡易空撮気球の技術移転	H24. 7. 16	相馬市	はぜっ子倶楽部
水田作研究領域	(出前技術指導) 飼料米専用品種の栽培技術①	H24. 7. 24	山形県 高畠町	(株)米沢郷牧場
生産基盤研究領域	農業者雇用支援講習講師	H24. 8. 9	栗原市	(株)パソナ農援隊
生産基盤研究領域	稲わら収集・給与技術研修会講師	H24. 8. 10	新庄市	最上地域農業・畜産振興協議会
生産基盤研究領域	菜の花プロジェクト栽培研修会講師	H24. 8. 21 ～ 8. 23	伊賀市	伊賀市
水田作研究領域	(出前技術指導) 飼料米専用品種の栽培技術②	H24. 8. 30	山形県 高畠町	(株)米沢郷牧場
畑作園芸研究領域	種苗管理士講習会講師	H24. 9. 19	盛岡市	(一社)日本種苗協会
生産環境研究領域	第36回酒米懇談会講師	H24. 9. 20	東京都北区	酒米研究会
畑作園芸研究領域	平成24年度「なたね栽培講習」講師	H24. 9. 25 ～ 9. 27	福岡県 築上町	築上町なたね生産組合
生産環境研究領域	管区地球環境業務研修講師	H24. 10. 16	仙台市	仙台管区気象台

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者
生産環境研究領域	MARCO サテライトシンポジウム2012 : モンスーンアジアにおける食品中ヒ素およびカドミウム汚染に対するリスク低減技術講演	H24. 10. 28 ～10. 30	つくば市	(独)農業環境技術研究所
研究支援センター	家畜衛生研修会 (病性鑑定生化学部門) の講師派遣	H24. 10. 31	つくば市	農林水産省消費・安全局
農業放射線研究センター	平成24年度土壌調査技術研修会	H24. 11. 6 ～11. 9	つくば市	温暖化対策土壌機能調査協議会代表機関(一財)日本土壌協会
生産基盤研究領域	平成24年度営農指導員筆記試験講習会講義	H24. 11. 7	紫波町	J A岩手県中央会
水田作研究領域	特別講演会「鉄コーティング種子による湛水直播栽培」	H24. 11. 20 ～11. 21	一関市	一関農業改良普及センター
生産基盤研究領域	「平成24年度庄内水田農業推進機構ワークショップ」講師	H24. 11. 28 ～11. 29	鶴岡市	庄内水田農業推進機構 (山形大学、鶴岡市)
生産環境研究領域	JIRCAS国際シンポジウム講演	H24. 11. 28 ～11. 29	つくば市	(独)国際農林水産業研究センター
生産基盤研究領域	(出前技術指導) 寒冷地向け水稲乾田直播体系	H24. 12. 13	五所川原市	青森県 西北地域県民局
畜産飼料作研究領域	第60回八戸自由大学講座	H24. 12. 15	八戸市	八戸自由大学
水田作研究領域	(出前技術指導) 水稲直播の栽培技術等	H24. 12. 18	登米市	登米市産業経済部
環境保全型農業研究領域	「きゅうりホモプシス根腐病」防除対策研修会の講師	H25. 1. 17	宮城県大河原町	宮城県大河原地方振興事務所
生産環境研究領域	気候講演会講師	H25. 1. 18	千代田区	気象庁地球環境・海洋部
水田作研究領域	(出前技術指導) 水稲朝紫の移植・直播の安定生産技術	H25. 1. 20	大仙市	大仙市 古代稲生産組合
水田作研究領域	(出前技術指導) 湛水直播・移植における難雑草防除法	H25. 1. 20	大仙市	大仙市 古代稲生産組合
畑作園芸研究領域	ふるさと食材導入促進事業に係わるタマネギ栽培技術研修会	H25. 1. 21	秋田市	秋田県農林水産部
生産環境研究領域	気象変動に対応した水稲高品質安定生産セミナー	H25. 1. 22	大崎市	宮城県農林水産部
生産環境研究領域	尾花沢市「厳冬期の無加温栽培挑戦講座」	H25. 2. 4 ～2. 5	尾花沢市	(株)フィデア総合研究所
畑作園芸研究領域	南相馬市への講師派遣「春まきたまねぎの可能性について」	H25. 2. 7	南相馬市	NPO法人日本プロ農業総合支援機構

所 属	内 容	期 間	場 所	依 頼 者
畜産飼料作研究領域	平成24年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会の特別企画(シンポジウム)講演	H25. 2. 9 ～2. 10	大阪市	(公社)日本獣医師会
水田作研究領域	(出前技術指導) 飼料米専用品種の特性並びに栽培技術	H25. 2. 18	山形県 高島町	(株)米沢郷牧場
畑作園芸研究領域	南相馬市への講師派遣「春まきたまねぎの播種と栽培について」	H25. 2. 28	南相馬市	NPO法人日本プロ農業総合支援機構
水田作研究領域	平成24年度新稲作研究会中間検討会及び成績検討会等	H25. 3. 6 ～3. 8	港区	(社)農林水産・食品産業技術振興協会
水田作研究領域	(出前技術指導) 水稻の栽培技術	H25. 3. 15	大仙市	大仙市農林商工部
水田作研究領域	パプアニューギニア国小規模稲作振興プロジェクト(フェーズ2)派遣専門家帰国報告会	H25. 3. 18 ～3. 19	千代田区	(独)国際協力事業団
水田作研究領域	(出前技術指導) 水稻直播研修会	H25. 3. 20	大仙市	アグリサービス中仙
水田作研究領域	(出前技術指導) 水稻鉄コーティング直播栽培	H25. 3. 21	一関市	一関市大東支所

2) 海外出張

平成 24 年度に研究・調査・指導等の派遣依頼を受けた海外出張は以下のとおりである。

所 属	内 容	期 間	出 張 先	依 頼 者
水田作研究領域	パプアニューギニア・小規模稲作振興プロジェクト(フェーズ2)短期派遣専門家(土壌肥料)	H24. 11. 17 ～12. 1	パプアニューギニア	JICA

3) 講習会等の開催

平成 24 年度に開催した行政・普及部局、農業者等を対象とした講習会、講演会は以下のとおりである。

講習会・講演会名	開催日	参加人数	講 師
平成24年度普及指導員等研修(農政課題解決研修)「水稻の直播栽培技術」【CO ₂ 】(革新的農業技術習得支援事業)	H24. 7. 26 ～7. 27	8	水田作研究領域 生産基盤研究領域

5. 国際会議・研究集会（参加）

平成 24 年度に国際会議及び研究集会に参加した内容は次のとおりである。

なお、発表者として参加した場合、発表内容は「Ⅱ 研究情報活動」に記載してある。

所 属	期 間	会 議 名	開 催 場 所
生産環境研究領域	H24. 8. 21 ～ 8. 25	24th International Congress of Entomology	韓国
畑作園芸研究領域	H24. 10. 9 ～10. 14	PhenoDays2012	オランダ
水田作研究領域	H24. 10. 15 ～10. 21	植物抵抗性の持続性国際会議	フランス
生産環境研究領域	H24. 11. 22 ～11. 30	湿地浄化法に関する国際会議	オーストラリア
畑作園芸研究領域	H25. 1. 11 ～ 1. 18	第21回国際植物・動物ゲノム会議	アメリカ
畑作園芸研究領域	H25. 1. 11 ～ 1. 18	第21回国際植物・動物ゲノム会議	アメリカ
畑作園芸研究領域	H25. 2. 17 ～ 2. 24	ウィーン国際植物会議	オーストリア

Ⅳ 諸 会 議 一 覧

IV 諸会議一覧

1. 東北農業研究センター運営委員会

会 議 名	期 日	場 所	運営責任者
平成24年度東北農業研究センター運営委員会	H24. 10. 10 ～10. 11	盛岡市	東北農業研究センター 所長

2. 東北農業研究センター研究課題検討会

会 議 名	期 日	場 所	運営責任者
畑作園芸研究領域（野菜花きグループ）検討会	H24. 12. 13	盛岡市	畑作園芸研究領域長
畑作園芸研究領域（畑作物育種グループ）検討会	H24. 12. 18	盛岡市	畑作園芸研究領域長
生産基盤研究領域検討会	H24. 12. 19 ～12. 20	盛岡市	生産基盤研究領域長
畜産飼料作研究領域検討会	H24. 12. 21	盛岡市	畜産飼料作研究領域長
環境保全型農業研究領域・農業放射線研究センター検討会	H24. 12. 26	福島市	環境保全型農業研究領域長・農業放射線研究センター長
水田作研究領域検討会	H25. 1. 10 ～ 1. 11	大仙市	水田作研究領域長
生産環境研究領域検討会	H25. 1. 17	盛岡市	生産環境研究領域長

3. 東北農業研究センター試験研究推進会議

1) 研究戦略会議・推進部会等

会 議 名	期 日	場 所	運営責任者
東北農業試験研究推進会議 研究戦略会議	H24. 10. 19	盛岡市	業務推進室長
東北農業試験研究推進会議 本会議	H25. 2. 21	盛岡市	業務推進室長
東北農業試験研究推進会議 果樹推進部会	H25. 1. 28	盛岡市	果樹研究所リンゴ研究領域長
東北農業試験研究推進会議 生産環境推進部会	H25. 1. 30	盛岡市	生産環境研究領域長
東北農業試験研究推進会議 畜産飼料作推進部会	H25. 1. 30 ～ 1. 31	盛岡市	畜産飼料作研究領域長
東北農業試験研究推進会議 稲推進部会	H25. 2. 1	盛岡市	水田作研究領域長
東北農業試験研究推進会議 畑作物推進部会	H25. 2. 1	盛岡市	環境保全型農業研究領域長

会 議 名	期 日	場 所	運営責任者
東北農業試験研究推進会議 野菜花き推進部会	H25. 2. 4 ～ 2. 5	盛岡市	畑作園芸研究領域長
東北農業試験研究推進会議 農業生産基盤推進部会	H25. 2. 6	盛岡市	生産基盤研究領域長

2) 検討会・研究会

会 議 名	期 日	場 所	運営責任者
土壌肥料研究会（夏期）（生産環境推進部会）	H24. 7. 5 ～ 7. 6	青森市	生産環境研究領域長
野菜研究会（夏期）（野菜花き推進部会）	H24. 7. 19 ～ 7. 20	盛岡市	畑作園芸研究領域長
農業経営研究会（夏期）（農業生産基盤推進部会）	H24. 7. 27	盛岡市	生産基盤研究領域長
病虫害研究会（夏期）（生産環境推進部会）	H24. 8. 22	盛岡市	生産環境研究領域長
果樹研究会及び寒冷地果樹合同現地研究会（果樹推進部会）	H24. 8. 23 ～ 8. 24	弘前市、平川市ほか	果樹推進部会長
畑作物研究会（夏期）（畑作物推進部会）	H24. 8. 23 ～ 8. 24	黒石市	環境保全型農業研究領域長
畜産研究会（夏期）（畜産飼料作推進部会）	H24. 8. 29 ～ 8. 30	秋田市	畜産飼料作研究領域長
作業技術研究会（夏期）（農業生産基盤推進部会）	H24. 8. 30 ～ 8. 31	仙台市、名取市	生産基盤研究領域長
水稻品種系統立毛検討会（稲推進部会）	H24. 8. 30 ～ 8. 31	北上市	水田作研究領域長
東北地域麦・なたね品種・系統検討会（畑作物推進部会）	H24. 8. 31	盛岡市	環境保全型農業研究領域長
直播研究会並びに水稻直播等低コスト技術現地検討会（稲推進部会）	H24. 9. 4 ～ 9. 5	鹿角市	水田作研究領域長
東北ソバ研究会（夏期）（畑作物推進部会）	H24. 9. 13	福島県会津坂下町	環境保全型農業研究領域長
花き研究会（夏期）（野菜花き推進部会）	H24. 10. 17 ～ 10. 18	仙台市	畑作園芸研究領域長
土壌肥料研究会（生産環境推進部会）	H25. 1. 29	盛岡市	生産環境研究領域長
病虫害研究会（生産環境推進部会）	H25. 1. 29 ～ 1. 30	盛岡市	生産環境研究領域長
農業気象研究会（生産環境推進部会）	H25. 1. 30	盛岡市	生産環境研究領域長

会 議 名	期 日	場 所	運営責任者
畑作物栽培研究会（畑作物推進部会）	H25. 1. 31	盛岡市	環境保全型農業研究領域長
水稻品種・系統検討会（稲推進部会）	H25. 1. 31 ～ 2. 1	盛岡市	水田作研究領域長
稲栽培研究会（稲推進部会）	H25. 1. 31 ～ 2. 1	盛岡市	水田作研究領域長
直播研究会（稲推進部会）	H25. 2. 1	盛岡市	水田作研究領域長
畑作物品種検討会（畑作物推進部会）	H25. 2. 1	盛岡市	環境保全型農業研究領域長
流通加工研究会（農業生産基盤推進部会）	H25. 2. 5	盛岡市	生産基盤研究領域長
農業経営研究会（農業生産基盤推進部会）	H25. 2. 5 ～ 2. 6	盛岡市	生産基盤研究領域長
作業技術研究会（農業生産基盤推進部会）	H25. 2. 5 ～ 2. 6	盛岡市	生産基盤研究領域長
東北ソバ研究会（畑作物推進部会）	H25. 2. 26	仙台市	環境保全型農業研究領域長

4. 共催・後援等

会 議 名	期 日	場 所	運営責任者
第55回東北農業試験研究発表会（主催：東北農業試験研究協議会）	H24. 8. 8	福島市	産学官連携支援センター
平成24年度東北地域マッチングフォーラムー震災からの復興、さらにその先を目指してー（主催：農林水産技術会議事務局）	H24. 11. 30	仙台市	産学官連携支援センター

5. その他

会 議 名	期 日	場 所	運営責任者
平成 24 年度農林水産省委託プロジェクト研究「農地・森林周辺施設等の放射性物質の除去・低減技術の開発ー高濃度農地汚染土壌の現場における処分技術の開発（生物学的除染）」キックオフミーティング	H24. 5. 16	福島市	農業放射線研究センター長
東北のナタネ生産振興及び拡大のための現地研究会	H24. 5. 29	雫石町	畑作園芸研究領域畑作物育種グループ
先端技術展開事業「土地利用型営農技術の実証研究」キックオフミーティング	H24. 6. 11	大崎市	生産基盤研究領域長
先端技術展開事業「露地園芸技術の実証研究」キックオフミーティング	H24. 6. 14	名取市	畑作園芸研究領域野菜花きグループ

会 議 名	期 日	場 所	運営責任者
実用技術開発事業「転炉スラグによる土壌 pH 矯正を核としたフザリウム性土壌病害の耕種的防除技術の開発」平成 24 年度推進会議及び現地検討会	H24. 7. 12 ～ 7. 13	木更津市、君津市	生産環境研究領域病害虫グループ
実用技術開発事業「東北・北陸地域における新作型開発によるタマネギの端境期生産体系の確立」平成 24 年度現地検討及び研究計画検討会	H24. 7. 24 ～ 7. 25	九戸村、盛岡市	畑作園芸研究領域野菜花きグループ
平成 24 年度農林水産省委託プロジェクト研究「農地・森林等の放射性物質の除去・低減技術の開発」高濃度汚染地域における農地土壌除染技術体系の構築・実証（ホットスポット水田の除染技術）計画検討会	H24. 8. 3	福島市、伊達市	農業放射線研究センター
第 6 回やませ研究会（盛岡大会）	H24. 9. 24 ～ 9. 25	盛岡市	生産環境研究領域農業気象グループ
実用技術開発事業「麦類、ナタネ及び秋冬野菜における放射性セシウムの移行制御技術の確立」平成 24 年度推進会議	H24. 9. 26	福島市	環境保全型農業研究領域環境保全グループ
実用技術開発事業「涼しい夏を生かす！国産夏秋イチゴ安定多収技術の開発・実証」平成 24 年度中間検討会	H24. 10. 11 ～10. 12	青森県六戸町	畑作園芸研究領域野菜花きグループ
先端技術展開事業「露地園芸技術の実証研究」アスパラガス研修会	H24. 10. 16 ～10. 17	名取市	畑作園芸研究領域野菜花きグループ
実用技術開発事業「被害リスクに応じたウリ科野菜ホモプシス根腐病の総合防除技術の確立」平成 24 年度第一回推進会議	H24. 10. 23	秋田市	環境保全型農業研究領域環境保全グループ
「排水条件が劣悪な環境下における地下水位制御システムの有用性の実証」現地実証試験検討会	H24. 12. 11	秋田県大潟村	水田作研究領域水田作グループ
リンゴの特別栽培で新たに顕在化した害虫の合理的防除に関する検討会	H24. 12. 18	紫波町	産学官連携支援センター
実用技術開発事業「被害リスクに応じたウリ科野菜ホモプシス根腐病の総合防除技術の確立」成果発表会	H24. 12. 19	盛岡市	環境保全型農業研究領域環境保全グループ
実用技術開発事業「東北・北陸地域における新作型開発によるタマネギの端境期生産体系の確立」24 年度研究推進会議	H24. 12. 19 ～12. 20	富山市、砺波市	畑作園芸研究領域野菜花きグループ
実用技術開発事業「被害リスクに応じたウリ科野菜ホモプシス根腐病の総合防除技術の確立」平成 24 年度第二回推進会議	H24. 12. 20	盛岡市	環境保全型農業研究領域環境保全グループ
平成 24 年度農林水産省委託プロジェクト研究「農地・森林等の放射性物質の除去・低減技術の開発」高濃度農地汚染土壌の現場における処分技術の開発（生物学的除染技術）推進会議	H25. 1. 28	福島市	農業放射線研究センター長

会 議 名	期 日	場 所	運営責任者
平成 24 年度農林水産省委託プロジェクト研究「農地・森林等の放射性物質の除去・低減技術の開発」高濃度汚染地域における農地土壌除染技術体系の構築・実証（ホットスポット水田の除染技術）推進会議	H25. 1. 28	福島市	農業放射線研究センター長
実用技術開発事業「転炉スラグによる土壌 pH 矯正を核としたフザリウム性土壌病害の耕種的防除技術の開発」平成 24 年度第 2 回推進会議	H25. 2. 4 ～ 2. 5	盛岡市	生産環境研究領域病害虫グループ
実用技術開発事業「涼しい夏を生かす！国産夏秋イチゴ安定多収技術の開発・実証」平成 24 年度推進会議	H25. 2. 5	盛岡市	畑作園芸研究領域野菜花きグループ
津波被災跡地の景観保全に羊放牧を活用するための技術相談会	H25. 2. 6	大船渡市	産学官連携支援センター
先端技術展開事業「土地利用型営農技術の実証研究」平成 24 年度推進会議	H25. 2. 19 ～ 2. 20	盛岡市	生産基盤研究領域長
「北限のユズ」を六次産業化展開するための技術相談会	H25. 2. 20	陸前高田市	産学官連携支援センター
先端技術展開事業「露地園芸技術の実証研究」平成 24 年度研究推進会議	H25. 2. 26 ～ 2. 27	名取市	畑作園芸研究領域野菜花きグループ
第 7 回やませ研究会（弘前大会）	H25. 3. 7	弘前市	生産環境研究領域農業気象グループ

V 表彰・学会賞等

V 表彰・学会賞等

学会賞等

氏 名	所 属	表 彰 名	受賞年月日	功 績 名
湯本 節三	水 田 作 研 究 領 域	2011年度日本育種学会論文賞（グループ賞）	H24. 4. 5	Genetic relationships of soybean cyst nematode resistance originated in Gedenshirazu and PI84751 on Rhg1 and Rhg4 loci. (Rhg1とRhg4に関する下田不知とPI84751に由来するダイズシストセンチュウ抵抗性の遺伝的関係)
菅野 洋光	生 産 環 境 研 究 領 域	Best poster award, World Water Week 2012, Stockholm, Sweden (ベストポスター賞、スウェーデンで開催された世界水週間会議2012)	H24. 8. 28	Building farmers' resilience to food insecurity in Southern Zambia under rainfall variability (ザンビア南部における雨量変動に対応した農民の食料不足対処方法の確立)
久保 堅司	農業放射線研究センター	日本作物学会第 234 回講演会優秀発表賞（ポスター発表部門）	H24. 10. 25	西日本のコムギ品種における赤かび病によりかび毒の蓄積性の解析
兼松 誠司	企画管理部業務推進室	第 5 回北日本病害虫研究会賞研究報文部門病害分野賞	H25. 2. 14	出穂後の積算気温と穂いもち感受性の関係
菅野 洋光	生 産 環 境 研 究 領 域	〃	〃	〃
本城 正憲	畑 作 園 芸 研 究 領 域	平成25年度園芸学会年間優秀論文賞	H25. 3. 23	24時間日長下における栽培イチゴの四季成り性の遺伝解析
濱野 恵	畑 作 園 芸 研 究 領 域	〃	〃	〃
山崎 浩道	畑 作 園 芸 研 究 領 域	〃	〃	〃
長谷川啓哉	生 産 基 盤 研 究 領 域	平成24年農業問題研究学会学術賞	H25. 3. 28	リンゴの生産構造と産地の再編—新自由主義的経済体制下の北東北リンゴ農業の課題
池永 幸子	畑 作 園 芸 研 究 領 域	第 5 回日本作物学会技術賞	〃	ダイズを中心とした作物での耕うん同時畝立て栽培技術の開発
片山 勝之	水 田 作 研 究 領 域	〃	〃	〃
高橋 智紀	水 田 作 研 究 領 域	〃	〃	〃

氏 名	所 属	表 彰 名	受賞年月日	功 績 名
内野 宙	畜産飼料作研究領域	第10回日本作物学会論文賞	H25. 3. 28	Varietal Differences in Endosperm Cell Morphology of the Non-glutinous Rice (Oryza sativa L.) Released over the Past 100 Years in Hokkaido, Japan (過去100年間に北海道で育成された水稻主要品種における胚乳細胞形態の品種間差異)
熊谷 悦史	生産環境研究領域	2012年度日本農業気象学会学会賞奨励賞	〃	CO ₂ 濃度増大と気温上昇がダイズ子実の生産と窒素濃度に及ぼす影響に関する研究
菅野 洋光	生産環境研究領域	2013年度日本農業経済学会学会誌賞	H25. 3. 29	Shock and livestock transactions in rural Zambia: Re-examination of the buffer stock hypothesis (ザンビア農村地帯におけるショックと家畜取引：ショック緩和仮説に関する再試験)

その他の表彰

氏 名	所 属	表 彰 名	受賞年月日	功 績 名
早坂 和広	研究支援センター 業 務 第 1 科	創意工夫功労者賞	H24. 4. 16	作物播種用型付け機の考案
後藤 正幸	〃	〃	〃	〃
村田 修	研究支援センター 業 務 第 2 科	〃	〃	肉用牛繁殖計画のための計算盤の考案
帷子 正一	〃	〃	〃	〃
小木田俊幸	〃	〃	〃	〃

Ⅵ 各種委員会

VI 各種委員会

1. 法令等に基づく委員会

委員会名	委員長	委員の構成等	審 議 事 項	事務局
遺伝子組換え生物等第二種使用実験安全委員会	委員の互選による	所内の関係者から若干名、所外の学識経験者から若干名、安全主任者および副主任者若干名	実験計画の法令および要領に対する適合性に関すること	業務推進室
職務発明審査会	所長	企画管理部長、研究領域長、センター長、審議役および研究調整役	職務発明の認定、特許出願等に関すること	業務推進室
職務作成プログラム審査会	所長	企画管理部長、研究領域長、センター長、審議役および研究調整役	職務作成プログラムの審査等に関すること	業務推進室
職務育成品種審査会	所長	企画管理部長、研究領域長、センター長、審議役および研究調整役	職務育成品種、品種登録出願等に関すること	業務推進室
毒物劇物等管理委員会	企画管理部長	研究領域長、審議役、センター長、毒物劇物等管理責任者（数名）	毒物劇物等管理責任者が行う必要な指示等に関すること	業務推進室
特定調達契約審査委員会	審議役	業務推進室長、管理課長および所長が指名する者	調達物品等の契約方式、数量、納期、応札期間、仕様、技術審査等に関すること	管理課
契約審査委員会	審議役	管理課長および会計チーム長	最低価格入札者を落札者とししないことの審査に関すること	管理課
競争参加資格審査会		所長、審議役、管理課長、庶務チーム長および会計チーム長	競争参加資格等の審査に関すること	管理課
指名競争参加者選定・随意契約審査委員会	企画管理部長	審議役、研究調整役、業務推進室長、管理課長および委員長が指名する者	指名競争参加者の選定、随意契約の審査に関すること	管理課
安全衛生委員会	審議役	産業医、衛生管理者および安全・衛生に関し経験を有する者並びに管理課長、調査役、業務第1科長、業務第2科長および労働組合の推薦に基づき所長が指名した6名	安全衛生管理に関する重要事項の調査審議等に関すること	管理課
さわやか行政サービス推進委員会	審議役	管理課長、業務推進室長、調査役、情報広報課長および主査（予算担当）	窓口サービス、公共施設利用サービスに関すること	管理課
防火対策委員会	所長	企画管理部長、研究領域長、審議役、管理課長、管理チーム長および研究支援センター長	防火・防災にかかる規定の制定改廃に関すること	管理課

委員会名	委員長	委員の構成等	審 議 事 項	事務局
省エネ推進委員会	所長	企画管理部長、研究領域長、センター長、審議役、および委員長が指名する者	省エネ法に基づく中長期的な計画の作成に関する事	業務推進室、管理課、エネルギー管理および担当者
牛海綿状脳症(BSE)対策委員会	所長	企画管理部長、審議役、研究支援センター長、業務第2科長、研究領域長、農業放射線研究センター長、業務推進室長、情報広報課長および資産管理主査	BSE 発生時に当所 BSE 防疫マニュアル等に基づき対応を行うこと	業務推進室

2. 諮問委員会

委員会名	委員長	委員の構成等	審 議 事 項	事務局
業績評価委員会	企画管理部長	審議役および研究領域長	研究職員の業績評価に関する事	研究調整役
昇格候補者選考委員会	企画管理部長	審議役および委員長が指名する者	研究職員に係る昇格候補者の選考等に関する事	研究調整役管理課
研究職員選考採用等選考委員会	所長	企画管理部長および委員長が指名する者	採用候補者の書類審査、面接試験等に関する事	研究調整役
施設・機械整備委員会	企画管理部長	審議役、研究領域長および農業放射線研究センター長	中期計画における施設の整備・改修、研究用機械の整備方針等に関する事	業務推進室管理課
農研機構特別研究員選考委員会	企画管理部長	審議役、研究調整役、業務推進室長、担当研究領域長やセンター長および研究担当責任者	農研機構特別研究員の雇用に関する事	業務推進室
契約職員賃金検討委員会	審議役	管理課長および所長が指名した者	盛岡地区における契約職員の賃金単価等に関する事	管理課
(盛岡) 宿舎委員会	委員の中から所長が指名する者	管理課長、果樹研リング研究拠点から1名、盛岡宿舎(RC1・2、RC3・4)から2名、労働組合代表1名	公務員宿舎への入居者の選考、居住条件の向上に関する事	管理課
意見処理委員会	審 議 役	企画管理部長、業務推進室長、管理課長、研究支援センター長	人事評価実施権者からの意見の申立てに関する事	委 員 会
圃場委員会	研究支援センター長	業務科各科長および所長が指名した者	圃場・家畜利用運営等に関する事	業務第1科
動物実験委員会	研究領域長の中から所長が指名した者	動物実験等に関して優れた見識を有する者、その他学識を有する者の中から所長が指名した者	動物実験計画の審査等に関する事	業務推進室

3. 運営委員会

委員会名	委員長	委員の構成等	審議事項	事務局
運営委員会		有識者の中から所長が委嘱した者（10名以内）	試験及び研究並びに調査の推進方策、計画および進捗状況の点検、センターの運営に関すること	業務推進室
運営費交付金による研究委託課題の委託先選定委員会	研究領域長	審議役、企画管理部長、研究調整役、業務推進室長、管理課長、委員長が指名する者	募集要領および応募要領に関する事項、研究委託課題の委託先の選定	業務推進室
セミナー委員会	研究領域長から所長が指名	研究領域長および研究拠点から各1名	セミナーの企画・開催するための組織および運営に関すること	業務推進室
(盛岡)レクリエーション実行委員会	庶務チーム主査（厚生）	企画管理部から2名、各研究領域から1名および研究支援センター各科から各1名	レクリエーションの企画立案・実行に関すること	管理課
コンプライアンス推進委員会	所長	企画管理部長、研究領域長およびセンター長	コンプライアンスの推進に関すること	委員会
異常気象対策検討委員会	企画管理部長	生産環境研究領域長および所長が指名する者	東北地域の農作物の作柄、異常気象襲来時の農作物への影響等に関すること	生産環境研究領域農業気象グループ
冷涼気候利用型複合農業技術開発実験施設運営委員会	生産基盤研究領域長	当該施設の利用に関連する者および会計チーム主査（資産管理）	施設の利用、運転・保守管理等に関すること	生産基盤研究領域生理機能グループ
機能性評価実験施設運営委員会	企画管理部長	委員長が推薦する者、業務推進室長および会計チーム長	施設の利用調整、利用料等に関すること	業務推進室
温度勾配実験施設運営委員会	企画管理部長	委員長が推薦する者、業務推進室長および会計チーム長	施設の利用調整、利用料等に関すること	業務推進室
肉質検査室運営委員会	畜産飼料作研究領域長	研究支援センター長、業務第2科長、会計チーム長および所長が指名した者	肉質検査室、と畜場の運営に関すること	畜産飼料作研究領域
試料調製室等運営委員会	研究支援センター長	所長が指名した者	試料調整室、調査株保存舎の運営に関すること	業務第1科
編集委員会	企画管理部長	研究領域長、農業放射線研究センター長および委員長が必要と認める者	研究報告等の企画・編集、編集内規、執筆内規、原稿の校閲・審査等に関すること	情報広報課
図書委員会	企画管理部長	業務推進室、管理課から各1名および各研究領域長、農業放射線研究センター長が選出した者	共通図書の整備・利用、図書館の管理運営に関すること	情報広報課
広報委員会	企画管理部長	研究領域長、農業放射線研究センター長、研究調整役および研究支援センター長	広報媒体の作成・運用、広報に関する戦略策定・推進に関すること	情報広報課
一般公開（盛岡）小委員会	研究調整役	業務推進室、管理課、盛岡地区の研究領域、業務各科よりそれぞれ1～2名	一般公開の計画・運営等に関すること	情報広報課
ホームページ小委員会	研究調整役	研究領域長、農業放射線研究センター長、業務推進室長、管理課長、情報広報課長および研究支援センター長	当所ホームページの作成・運用・管理等に関すること	情報広報課

Ⅶ 平成 24 年半旬別気象表（平成 24 年 1 ～ 12 月）

Ⅶ 平成 24 年半旬別気象表

(平成 24 年 1 ～ 12 月)

1. 本所（厨川）

月 半旬	気 温 (°C)					降 水 量 (mm)		日 照 時 間 (h)		積雪深 (cm)	日射量 (MJ)	地 温 (°C)			
	最 高		最 低		平 均	本 年	平 年	本 年	平 年						
	本 年	平 年	本 年	平 年											
1	1	1.1	1.5	-8.7	-6.5	-2.7	-2.0	3.5	8.9	17.5	13.1	31	6.9	0.9	1.9
	2	0.9	1.2	-9.1	-7.1	-3.2	-2.4	5.0	9.7	28.7	16.0	33	9.3	1.0	1.9
	3	-1.8	0.9	-9.0	-7.5	-5.1	-2.8	0.0	4.7	19.3	15.8	31	8.4	0.9	1.8
	4	0.8	0.8	-8.1	-8.2	-2.8	-3.1	0.5	9.8	21.0	19.5	34	8.0	1.0	1.8
	5	0.2	0.6	-9.0	-8.1	-3.6	-3.1	9.0	6.5	17.1	16.2	39	7.5	1.2	1.9
	6	-3.5	0.7	-14.9	-8.5	-8.1	-3.3	6.5	8.5	27.0	21.7	46	8.9	0.6	1.5
	月平均	-0.5	1.0	-10.0	-7.7	-4.4	-2.8	24.5	48.1	130.6	101.1	46	8.2	0.9	1.8
2	1	-1.3	0.4	-11.7	-8.9	-5.5	-3.6	49.0	7.9	16.4	21.7	69	8.9	0.5	1.3
	2	-0.4	1.7	-9.8	-7.8	-4.5	-2.5	8.0	10.3	14.3	20.3	54	8.6	0.9	1.3
	3	0.0	1.6	-8.3	-7.5	-4.0	-2.4	21.5	11.0	29.4	21.9	52	12.2	1.0	1.6
	4	-1.1	1.8	-13.5	-7.2	-6.1	-2.2	2.5	8.5	31.7	20.4	52	13.7	1.0	1.6
	5	2.0	2.7	-9.5	-6.5	-2.5	-1.3	28.5	7.5	25.7	24.2	59	10.5	1.0	1.6
	6	0.2	3.0	-12.1	-6.1	-5.1	-1.1	29.0	6.6	24.4	16.1	58	14.6	0.9	1.4
	月平均	-0.1	1.8	-10.8	-7.4	-4.6	-2.2	138.5	51.8	142.0	124.7	69	11.3	0.9	1.5
3	1	3.8	3.7	-8.8	-5.1	-1.6	-0.4	31.0	14.0	23.5	25.2	64	11.6	0.9	1.4
	2	5.1	3.5	-2.3	-5.4	1.8	-0.6	10.5	14.7	25.2	21.6	55	14.3	0.6	1.0
	3	2.8	5.4	-5.5	-3.5	-0.8	1.0	11.0	12.9	24.0	24.6	37	14.5	0.6	0.9
	4	5.4	6.8	-3.7	-2.5	0.7	2.1	1.5	12.3	22.5	25.4	30	14.0	0.6	0.8
	5	4.6	7.5	-2.5	-2.0	1.4	2.8	33.5	11.7	13.3	29.7	23	11.0	1.5	1.4
	6	6.8	8.2	-3.2	-1.7	2.4	3.4	31.5	13.4	17.3	28.2	25	10.7	1.5	1.3
	月平均	4.8	5.9	-4.3	-3.3	0.7	1.4	119.0	79.0	125.8	86.1	64	12.6	1.0	1.1
4	1	6.6	10.4	-1.9	-0.3	2.2	5.1	36.0	9.6	19.9	29.3	4	12.9	3.4	3.0
	2	8.3	12.5	-2.3	1.2	2.6	7.0	12.5	10.1	34.7	27.5	1	16.6	3.1	2.8
	3	13.9	12.8	2.3	1.9	8.0	7.4	13.0	16.2	32.6	23.4	0	18.8	7.7	5.9
	4	13.8	14.1	6.1	2.5	9.2	8.5	0.5	14.5	13.9	31.2	1	13.7	9.9	8.3
	5	15.1	15.0	4.8	4.1	10.4	9.6	28.5	20.0	28.6	25.8	1	15.5	10.9	9.4
	6	20.7	16.7	7.9	4.1	14.2	10.6	16.5	15.2	27.9	33.3	1	16.4	13.6	11.6
	月平均	13.1	13.6	2.8	2.3	7.8	8.1	107.0	85.7	157.6	170.4	4	15.7	8.1	6.8
5	1	18.2	17.6	13.2	5.8	15.5	11.9	42.5	17.8	8.8	32.8	0	9.7	15.2	12.7
	2	18.9	18.3	7.1	6.3	12.8	12.5	6.5	15.4	28.2	27.7	0	17.9	14.7	12.4
	3	15.7	17.7	6.8	7.2	11.2	12.6	4.0	19.0	24.7	24.2	0	16.2	13.7	11.8
	4	20.8	19.0	8.7	8.0	14.5	13.7	0.5	15.8	33.0	27.1	0	19.7	15.0	12.4
	5	21.6	19.7	9.5	8.7	15.0	14.2	12.0	19.3	28.8	31.4	0	18.8	16.6	13.8
	6	21.2	20.6	8.4	9.7	15.1	15.2	5.5	14.1	42.1	32.3	0	20.9	17.2	14.4
	月平均	19.5	18.9	8.9	7.7	14.0	13.4	71.0	101.4	165.6	95.9	0	17.3	15.4	13.0
6	1	26.9	21.8	11.1	11.0	18.8	16.4	0.0	10.8	51.1	34.8	0	26.5	19.5	15.9
	2	23.1	22.3	13.3	12.1	17.7	17.1	17.5	12.5	8.6	25.5	0	14.5	19.9	16.8
	3	20.9	22.7	12.6	12.8	16.0	17.6	0.0	16.4	19.1	24.2	0	17.2	19.3	16.6
	4	21.0	23.2	13.3	14.0	17.0	18.4	37.5	20.0	5.0	25.2	0	9.8	18.5	16.1
	5	21.7	23.0	12.6	14.2	16.8	18.5	2.5	15.8	23.3	23.8	0	18.6	18.8	16.1
	6	28.2	23.4	11.8	15.2	20.3	19.0	0.0	32.6	65.0	22.2	0	28.7	21.0	17.4
	月平均	23.6	22.7	12.5	13.2	17.8	17.8	57.5	108.1	171.9	68.1	0	19.2	19.5	16.5

2. 大仙研究拠点（四ツ屋）

月 半旬	気 温 (℃)						降 水 量 (mm)		日 照 時 間 (h)	
	最 高		最 低		平 均		本 年	平 年	本 年	平 年
	本 年	平 年	本 年	平 年	本 年	平 年				
1	1	0.8	1.9	-4.7	-1.7	-1.1	13.0	25.1	1.6	6.5
	2	0.6	1.5	-7.5	-2.5	-1.5	31.0	23.7	8.3	6.5
	3	-1.9	1.2	-6.9	-4.1	-1.9	20.5	21.9	0.2	6.9
	4	0.5	1.0	-7.4	-3.0	-2.2	2.5	21.4	12.4	7.2
	5	0.7	0.9	-5.7	-2.0	-2.3	7.0	21.9	12.0	7.5
	6	-2.9	0.8	-9.5	-5.7	-2.3	39.5	26.4	4.0	9.9
	月平均	-0.4	1.2	-7.0	-3.2	-1.9	113.5	138.9	38.5	43.7
2	1	-0.2	1.1	-8.0	-3.6	-2.2	29.0	20.9	9.2	9.2
	2	0.0	1.5	-5.6	-2.9	-1.8	27.5	19.7	1.0	9.9
	3	0.1	2.0	-6.6	-3.1	-1.5	19.0	18.5	9.7	10.7
	4	-0.7	2.4	-8.7	-4.2	-1.2	20.5	17.0	16.2	12.5
	5	2.2	3.0	-6.2	-1.1	-0.7	29.5	16.1	17.0	14.9
	6	0.3	3.6	-7.4	-3.8	-0.3	8.5	12.8	14.7	12.8
	月平均	0.3	2.1	-7.0	-3.1	-1.4	134.0	102.5	67.8	68.0
3	1	3.6	3.9	-6.2	-1.0	0.0	16.0	16.2	26.1	16.0
	2	6.2	4.5	-0.7	2.4	0.4	13.0	16.5	13.9	16.2
	3	4.0	5.4	-1.9	0.7	1.2	18.5	16.5	19.6	17.7
	4	4.8	6.6	-2.3	1.3	2.1	4.5	15.6	12.4	19.8
	5	5.4	7.7	-2.1	2.1	2.9	27.0	14.3	6.8	21.3
	6	6.2	9.1	-2.3	2.0	4.0	70.5	17.0	12.0	26.8
	月平均	5.1	6.2	-2.5	1.3	1.8	149.5	98.3	90.8	116.0
4	1	6.7	11.1	-2.2	2.6	5.6	29.5	14.1	14.3	23.8
	2	8.4	12.9	-1.0	3.4	7.2	1.0	15.1	26.0	23.9
	3	13.3	14.2	2.7	8.0	8.3	26.0	17.3	36.8	25.4
	4	16.7	15.2	4.7	10.5	9.3	0.0	18.7	34.5	26.1
	5	17.1	16.4	7.1	11.7	10.4	20.5	18.9	21.6	26.9
	6	22.0	17.7	7.4	14.7	11.4	24.5	18.5	28.5	28.5
	月平均	14.0	14.6	3.2	8.5	8.7	101.8	102.6	161.7	155.7
5	1	20.2	18.7	12.4	16.6	12.5	53.0	19.2	14.5	29.5
	2	19.7	19.2	8.6	13.3	13.2	14.0	20.3	25.3	28.5
	3	15.2	19.5	8.3	11.6	13.8	18.5	20.2	12.3	27.7
	4	18.9	20.1	9.8	14.0	14.6	6.0	19.2	21.9	28.4
	5	23.0	20.9	13.1	17.3	15.5	11.5	17.5	31.7	30.2
	6	21.2	22.0	11.6	16.1	16.4	4.0	17.7	42.0	38.6
	月平均	19.7	20.2	10.7	14.8	14.4	107.0	113.4	147.7	183.8
6	1	25.5	23.1	13.2	18.8	17.5	1.5	13.2	53.8	32.2
	2	24.9	23.8	16.6	20.0	18.4	4.5	14.4	19.5	31.1
	3	26.1	24.3	14.2	19.8	19.0	0.0	18.0	62.9	29.4
	4	22.9	24.6	16.6	19.1	19.6	17.5	23.4	3.8	27.0
	5	21.9	24.9	14.6	17.6	20.1	5.5	27.2	17.9	24.7
	6	30.8	25.3	15.2	22.7	20.5	0.0	29.2	67.8	23.7
	月平均	25.3	24.3	15.1	19.7	19.2	29.0	124.5	225.7	165.4

7	1	26.9	25.6	18.4	17.3	22.4	21.0	92.5	32.3	29.2	22.7
	2	26.7	26.0	19.0	18.0	22.3	21.5	16.0	36.7	25.5	21.6
	3	26.0	26.5	19.4	18.6	22.5	22.1	49.0	38.0	9.9	21.9
	4	27.8	27.3	18.7	19.2	22.8	22.8	37.5	32.9	41.6	24.8
	5	27.4	28.4	18.0	19.7	22.6	23.6	12.0	26.3	28.9	28.0
	6	31.4	29.3	22.6	20.3	26.6	24.3	2.0	29.1	42.5	35.9
	月平均	27.8	27.3	19.4	18.9	23.3	22.6	209.0	192.5	177.6	155.8
8	1	33.6	29.7	22.9	20.6	27.5	24.6	0.0	26.1	53.0	30.8
	2	28.5	29.9	19.1	20.6	23.4	24.7	0.5	26.1	32.1	31.5
	3	29.4	29.8	19.5	20.4	24.3	24.6	28.0	26.9	23.1	31.1
	4	31.9	29.6	22.8	20.0	26.5	24.2	4.0	30.3	31.9	30.5
	5	33.7)	29.0	22.5)	19.4	27.3)	23.6	0.0	34.5	46.7)	29.3
	6	34.3	28.3	22.9	18.8	27.7	23.0	0.0	44.6	50.8	33.0
	月平均	32.0	29.4	21.6	20.0	26.2	24.1	32.5	192.9	237.6	184.5
9	1	32.5	27.3	22.0	18.0	26.6	22.1	26.0	36.0	40.2	25.9
	2	29.3	26.3	20.8	17.0	24.3	21.1	21.5	33.5	22.9	23.6
	3	31.1	25.3	20.3	15.7	24.7	20.0	0.5	30.7	42.1	22.1
	4	32.1	24.4	21.5	14.4	25.9	18.9	23.0	27.4	34.8	22.0
	5	22.7	23.3	15.1	13.1	18.5	17.7	12.0	23.7	10.6	22.0
	6	25.6	22.2	14.5	11.7	20.0	16.5	18.0	22.0	23.1	22.0
	月平均	28.9	24.8	19.0	15.0	23.3	19.4	101.0	169.7	173.7	138.4
10	1	23.6	21.2	15.5	10.6	18.9	15.4	25.5	22.4	17.0	21.5
	2	22.1	20.2	9.2	9.5	15.5	14.4	0.0	23.0	33.5	21.6
	3	19.8	19.3	9.9	8.4	13.9	13.4	24.5	23.0	22.6	22.0
	4	18.3	18.1	5.7	7.0	11.8	12.1	9.5	23.0	27.2	22.0
	5	15.4	16.7	6.7	5.9	11.3	10.8	49.0	24.5	17.8	20.8
	6	16.6	15.4	7.0	5.0	11.7	9.8	37.5	32.5	23.1	22.1
	月平均	19.2	18.4	8.9	7.6	13.8	12.6	146.0	147.4	141.2	131.1
11	1	12.8	14.4	5.8	4.2	8.9	9.0	74.5	28.2	6.7	16.9
	2	14.2	13.2	8.5	3.4	11.3	8.0	82.0	29.4	5.0	15.9
	3	12.0	11.6	5.7	2.4	8.7	6.7	64.5	30.9	8.7	14.2
	4	9.6	10.2	0.9	1.3	5.1	5.4	45.0	30.6	7.2	12.7
	5	6.2	9.0	0.1	0.6	2.9	4.5	33.0	29.9	11.3	11.9
	6	7.6	7.9	-1.3	0.0	2.9	3.7	27.5	30.3	8.1	11.1
	月平均	10.4	11.0	3.3	2.0	6.6	6.2	326.5	183.6	47.0	81.2
12	1	4.9	6.7	-0.9	-0.5	2.0	2.8	18.0	30.4	9.2	9.3
	2	2.0	5.5	-3.2	-1.2	-0.5	2.0	79.0	29.3	0.7	7.4
	3	2.5	4.2	-0.7	-2.1	0.7	1.0	30.5	27.3	4.7	6.7
	4	3.3	3.4	-1.7	-2.9	0.5	0.3	55.5	26.0	9.7	7.0
	5	0.6	3.1	-6.5	-3.3	-2.8	-0.1	10.0	26.2	4.7	7.0
	6	0.1	2.6	-7.5	-3.8	-3.1	-0.6	28.5	31.5	6.8	8.0
	月平均	2.2	4.2	-3.5	-2.3	-0.6	0.9	221.5	170.3	35.8	45.3
年平均		15.4	15.3	6.8	6.3	10.9	10.6	1671.0	1735.7	1545.1	1468.1

注. 1) 半旬期間等の内容については、本所（厨川）の注記 1）を参照。
 2) 平年値については、気温・降水量は 1981 ～ 2010 の 30 年間を、日照時間は 1987 ～ 2010 の 24 年間を各々統計期間とした。
 3)) と] は統計値を求める対象となる資料が、それぞれ許容範囲内と許容範囲を超えて一部欠けていることを示す。
 4) 日照時間は 2006 年 11 月 13 日までは太陽電池式日照計、それ以降は回転式日照計による。

3. 福島研究拠点

月	半旬	気 温 (℃)						積算雨量 (mm)		積算日照時間 (h)		日 射 量 (MJ/㎡)		最大積雪深 (cm)	
		最 高		最 低		均									
		本年	平 年	本年	平 年	本年	平 年	本年	平 年	本年	平 年	本年	平 年	本年	平 年
1	1	3.9	5.5	-4.2	-3.2	-0.6	1.0	0.5	8.7	20.9	18.9	7.04	6.50	3.5	8.2
	2	3.4	5.0	-4.7	-3.3	-0.8	0.5	1.0	11.6	19.6	16.0	7.25	6.23	1.9	13.2
	3	1.5	4.6	-4.0	-3.6	-1.4	0.0	0.5	10.8	22.6	16.9	8.00	6.87	2.5	9.7
	4	4.2	4.6	-3.5	-4.0	-0.1	-0.2	2.0	14.4	24.2	19.6	8.33	6.62	1.6	7.1
	5	1.4	3.6	-3.2	-4.3	-1.0	-0.5	33.5	9.2	13.6	18.8	6.40	7.09	13.5	9.7
	6	-1.7	4.2	-7.4	-4.2	-4.3	-0.3	5.0	10.7	18.7	27.7	7.13	8.62	18.7	10.5
月平均		2.0	4.5	-4.6	-3.9	-1.5	0.0	42.5	63.9	119.5	122.3	7.35	7.02	18.7	19.3
2	1	1.1	4.1	-6.6	-3.8	-2.6	-0.1	1.0	7.0	21.3	21.7	9.69	8.05	17.2	12.9
	2	2.2	6.0	-4.1	-3.6	-1.2	1.0	2.0	13.1	10.0	21.1	6.70	8.27	13.3	7.3
	3	2.5	5.5	-5.0	-3.6	-1.4	0.9	1.0	6.7	17.4	23.8	7.38	8.76	11.6	4.8
	4	1.2	5.9	-7.3	-2.7	-3.0	1.2	0.0	13.3	32.9	22.7	11.88	9.56	6.9	5.3
	5	6.4	6.3	-2.5	-2.6	1.4	1.6	38.5	11.7	23.6	22.5	9.56	10.02	21.2	7.1
	6	0.7	7.4	-7.2	-2.5	-3.0	2.5	0.0	6.4	17.5	14.0	11.58	11.54	17.3	2.4
月平均		2.4	5.8	-5.3	-3.1	-1.5	1.2	42.5	57.4	122.6	129.1	9.31	9.10	21.2	15.9
3	1	3.8	7.4	-4.2	-2.3	-0.3	2.6	72.5	12.4	22.8	22.3	10.49	10.74	35.4	3.2
	2	6.5	7.4	0.2	-2.6	2.9	2.4	23.0	17.0	17.9	24.6	8.95	12.11	29.4	5.4
	3	5.4	9.3	-2.9	-1.6	1.1	3.6	13.5	11.6	35.7	24.1	15.41	12.56	10.8	1.4
	4	7.4	10.2	-0.2	-1.0	3.1	4.5	5.0	11.1	25.1	27.9	11.79	13.61	0.2	0.9
	5	8.7	10.6	-1.2	-0.4	3.3	4.8	43.5	18.7	29.8	23.9	14.94	13.05	3.7	1.1
	6	12.7	11.4	0.1	0.7	6.0	5.9	2.5	22.3	40.9	31.3	14.84	12.53	0.9	3.5
月平均		7.6	9.3	-1.3	-1.2	2.8	4.0	160.0	93.1	172.3	159.3	12.80	12.44	35.4	9.0
4	1	9.8	13.3	0.5	1.1	4.7	7.3	20.0	12.1	35.4	32.8	16.51	17.22	0.0	0.5
	2	11.1	14.7	-1.3	2.9	4.4	8.9	0.5	13.8	35.2	31.1	16.22	14.37	0.0	0.0
	3	13.8	15.6	4.6	3.9	9.2	9.5	9.0	14.0	27.0	27.3	15.25	14.38	0.0	0.0
	4	14.3	17.4	5.3	4.3	8.9	10.5	7.0	19.4	20.8	27.0	11.37	14.86	0.0	0.0
	5	15.5	17.7	7.0	5.9	11.2	11.8	4.0	26.8	20.3	31.6	11.72	16.24	0.0	0.0
	6	21.7	19.5	9.4	6.2	15.0	12.9	4.5	19.3	30.9	29.6	14.87	17.54	0.0	0.0
月平均		14.4	16.4	4.2	4.1	8.9	10.2	45.0	102.5	169.8	188.4	14.32	15.75	0.0	0.5
5	1	19.7	19.6	13.2	6.9	16.3	13.1	171.5	18.9	22.8	27.5	11.79	17.06	0.0	0.0
	2	21.3	20.7	8.4	7.8	14.3	14.2	4.5	16.2	38.6	30.4	17.36	16.86	0.0	0.0
	3	17.9	20.5	7.7	8.9	12.5	14.6	2.5	23.0	38.9	28.5	19.29	15.34	0.0	0.0
	4	21.2	20.3	9.6	9.6	15.5	14.7	16.0	11.8	37.5	28.8	17.95	15.68	0.0	0.0
	5	20.2	22.1	11.7	10.0	15.2	15.7	13.5	11.9	23.5	39.3	13.97	17.45	0.0	0.0
	6	22.6	23.5	10.2	11.0	15.9	16.9	18.0	20.5	46.9	36.6	19.94	17.78	0.0	0.0
月平均		20.6	21.1	10.1	9.0	15.0	15.1	226.0	103.6	208.3	199.7	16.82	16.74	0.0	0.0
6	1	24.0	25.0	12.8	12.1	18.1	18.8	1.5	11.9	41.5	36.9	19.22	19.89	0.0	0.0
	2	21.9	22.8	14.7	13.0	17.7	17.8	41.5	11.3	20.5	23.8	12.22	15.08	0.0	0.0
	3	17.7	24.0	12.6	14.2	14.9	19.2	2.5	22.6	16.3	26.6	9.52	15.67	0.0	0.0
	4	22.8	23.6	15.1	15.1	18.6	19.4	160.5	23.5	20.2	20.2	11.93	12.95	0.0	0.0
	5	21.7	23.1	13.0	15.5	17.2	19.3	16.5	35.0	26.6	16.5	14.25	12.46	0.0	0.0
	6	25.7	24.4	11.1	16.2	17.8	20.3	0.5	37.3	49.1	27.6	22.77	13.19	0.0	0.0
月平均		22.3	23.9	13.2	14.5	17.4	19.2	223.0	146.8	174.2	175.2	14.98	14.58	0.0	0.0

7	1	25.5	26.0	17.1	17.1	20.7	21.0	24.0	23.8	25.8	19.8	14.52	13.87	0.0	0.0
	2	26.4	26.0	17.9	17.5	21.5	21.2	106.0	33.3	32.3	21.0	16.77	12.44	0.0	0.0
	3	27.2	25.9	20.5	18.0	23.8	21.5	3.5	49.4	16.6	14.1	10.14	11.57	0.0	0.0
	4	27.3	27.4	18.4	18.8	22.7	22.5	0.0	24.5	25.3	18.1	14.78	12.96	0.0	0.0
	5	24.3	29.0	17.3	19.5	20.2	23.7	11.0	22.6	20.1	22.5	10.24	14.57	0.0	0.0
	6	32.4	30.3	21.6	20.3	26.6	24.5	3.0	16.8	53.1	31.3	19.98	16.06	0.0	0.0
	月平均	27.3	27.4	18.9	18.5	22.7	22.4	147.5	168.7	173.2	135.5	14.58	13.53	0.0	0.0
8	1	33.3	29.9	21.1	20.5	26.6	24.6	0.0	16.9	49.3	23.5	24.98	14.41	0.0	0.0
	2	27.4	29.4	18.9	20.0	22.7	24.1	0.5	45.3	31.9	25.0	14.35	12.96	0.0	0.0
	3	29.2	28.9	21.7	19.9	24.5	23.8	12.5	28.3	26.7	22.8	13.33	12.67	0.0	0.0
	4	31.8	28.3	21.7	19.4	25.9	23.0	1.5	32.9	40.1	27.5	19.42	12.90	0.0	0.0
	5	33.7	29.2	21.6	19.6	26.6	23.8	2.5	21.4	40.1	23.6	20.35	14.00	0.0	0.0
	6	32.5	27.8	21.8	18.8	26.3	22.6	0.0	53.2	46.9	26.9	18.25	11.16	0.0	0.0
	月平均	31.4	28.9	21.1	19.7	25.5	23.6	17.0	198.0	235.1	164.4	18.44	12.37	0.0	0.0
9	1	28.6	28.1	20.5	18.6	23.5	22.9	44.5	20.3	29.0	25.7	14.09	12.40	0.0	0.0
	2	29.5	26.0	18.7	17.8	23.6	21.3	18.0	24.2	39.7	21.4	16.82	9.44	0.0	0.0
	3	30.8	25.2	19.4	17.1	24.6	20.7	0.0	33.9	42.9	22.0	19.28	10.08	0.0	0.0
	4	29.0	25.5	21.8	15.6	24.9	19.9	6.0	34.1	30.7	25.0	14.09	10.24	0.0	0.0
	5	20.4	22.6	15.0	14.0	17.4	18.0	67.0	35.8	11.1	18.3	6.79	8.65	0.0	0.0
	6	22.5	21.7	15.6	12.8	18.7	17.2	75.0	30.7	18.8	22.2	9.82	9.82	0.0	0.0
	月平均	26.8	24.9	18.5	16.1	22.1	20.0	210.5	182.5	172.2	140.1	13.48	10.10	0.0	0.0
10	1	21.2	21.3	15.2	12.1	17.8	16.2	26.5	32.5	11.5	15.3	5.85	8.52	0.0	0.0
	2	19.7	19.2	10.3	10.1	14.8	14.3	7.5	36.4	25.6	15.5	11.35	8.65	0.0	0.0
	3	20.0	19.3	8.9	10.2	14.1	14.8	3.5	32.1	36.2	15.8	14.23	8.55	0.0	0.0
	4	19.0	18.9	7.2	8.2	12.8	13.2	11.0	28.4	34.8	19.0	13.54	8.90	0.0	0.0
	5	18.1	17.2	6.8	7.0	12.8	12.0	6.5	18.2	26.9	20.3	10.21	8.43	0.0	0.0
	6	17.1	16.7	6.6	5.9	11.4	11.1	11.5	19.3	30.8	26.8	9.40	8.64	0.0	0.0
	月平均	19.1	18.7	9.1	8.8	13.9	13.6	66.5	164.5	165.9	115.1	10.72	8.53	0.0	0.0
11	1	14.0	14.6	3.9	4.5	8.4	9.3	0.0	22.3	28.5	17.9	10.39	9.08	0.0	0.1
	2	14.8	15.5	8.2	4.5	10.8	9.6	33.5	13.5	21.2	19.7	8.32	7.26	0.0	0.0
	3	12.3	13.3	5.5	3.0	8.7	8.0	15.0	6.5	11.3	19.0	5.67	6.53	0.0	0.0
	4	10.4	12.4	0.7	2.0	5.2	6.9	9.5	8.3	18.4	18.8	6.64	6.34	0.0	0.0
	5	9.4	11.8	1.1	0.6	4.8	5.7	0.0	9.9	18.4	23.0	6.54	6.52	0.0	0.0
	6	7.9	10.7	-1.3	1.5	3.5	5.7	11.5	13.0	9.6	22.4	4.56	6.15	0.0	0.0
	月平均	11.5	12.9	3.0	2.6	6.9	7.4	69.5	72.7	107.2	122.9	7.02	6.87	0.0	0.1
12	1	5.8	9.7	-0.8	-0.1	2.5	4.6	14.0	6.3	13.3	19.7	5.48	6.34	2.2	0.8
	2	4.5	8.6	-2.3	-0.4	0.5	3.8	5.0	6.2	18.0	17.1	6.09	5.00	4.4	0.0
	3	5.7	6.8	-2.7	-1.7	0.8	2.2	4.5	10.9	21.4	14.9	6.70	5.88	2.0	1.1
	4	6.1	6.8	-2.0	-2.2	2.2	2.0	0.5	5.5	17.2	17.8	5.69	6.14	0.6	8.7
	5	3.8	6.8	-3.3	-2.2	-0.1	1.8	2.0	4.8	12.7	18.3	4.84	5.92	1.1	4.9
	6	3.5	5.0	-2.5	-3.4	0.5	0.7	20.0	8.4	19.7	17.8	6.06	5.88	2.5	4.9
	月平均	4.8	7.3	-2.3	-1.7	1.1	2.5	46.0	42.2	102.4	108.0	5.82	6.46	4.4	12.5
年平均		15.8	17.0	7.1	6.9	11.1	11.6	1069.0	1370.5	1922.7	1934.2	12.14	11.12	35.4	23.6

注. ① 半旬および月平均の値は、気温はそれぞれ日最高・最低・平均の平均値、積算雨量および積算日照時間は積算値、日射量は日積算日射量の平均値、最大積雪深は最大値を示しています。

② 値)は進完全値(統計値を求める対象となる資料の一部が欠けているが、その数が許容できる範囲内)を、値]は資料不足値(許容する範囲を超えて資料が欠けている)を示します。資料不足値は十分な信頼性を保障できないため注意が必要です。×はデータ欠損を示します。

③ 平年値は1989年～2005年度の17年間の平均値(進完全値、資料不足値の別は示してありません)。

④ 日照時間の測定は1988年から1993年9月まではバイメタル式ガラス筒全天候型日照計、1993年10月以降は、太陽電池式日照計によるものです。

⑤ 積雪深の測定は、2007年11月28日までは目視、11月29日からは積雪深計によるものです。

Ⅷ 東北農業研究センターの所在地等

VIII 東北農業研究センターの所在地等

* 東北農業研究センター（本所）

〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平4 ☎019-643-3433(代表)
 (IGR厨川駅より徒歩8分) (盛岡駅より菓子車庫行バスで約20分、農業研究センター下車)

野菜花き担当

〒020-0123 岩手県盛岡市下厨川字鍋屋敷92 ☎019-643-3433(代表)
 (盛岡駅より菓子車庫行バスで約25分、果樹研究所前下車、徒歩3分)

* 大仙研究拠点

〒014-0102 秋田県大仙市四ツ屋字下古道3 ☎0187-66-1221(代表)
 (JR田沢湖線北大曲駅より徒歩3分)

大豆育種担当

〒019-2112 秋田県大仙市刈和野字上ノ台297 ☎0187-75-1084
 (JR奥羽本線刈和野駅より徒歩5分)

* 福島研究拠点

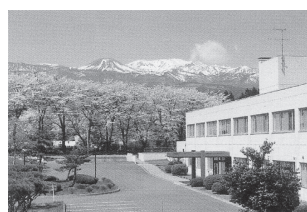
〒960-2156 福島県福島市荒井字原宿南50 ☎024-593-5151(代表)
 (福島駅東口より荒井行バス約30分自衛隊前(終点)下車、徒歩3分)



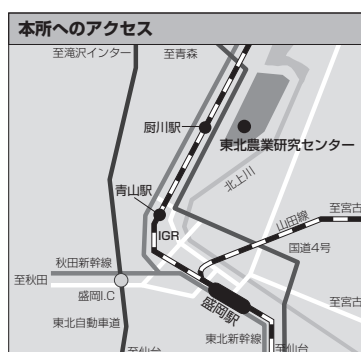
大仙研究拠点（大仙市）



本所（盛岡市）



福島研究拠点（福島市）



◆お問い合わせ先

- * 代表…………… ☎ 019-643-3433 (企画管理部庶務チーム)
- * 共同研究など…………… ☎ 019-643-3402 (産学官連携支援センター)
- * 研究成果・広報など… ☎ 019-643-3414、3417 (企画管理部情報広報課)
- * e-mail…………… www-tohoku@naro.affrc.go.jp
- * ホームページ…………… http://www.naro.affrc.go.jp/tarc/

平成24年度 東北農業研究センター年報

平成 25 年 10 月発行

編集・発行 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構
東北農業研究センター
所長 今 川 俊 明

〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平 4
電 話 019(643)3414、3417
(企画管理部 情報広報課)
